

令和3年度事業報告

社会福祉法人ゆうかり学園

1、評議員会・理事会の開催状況

本年度は、下記のとおり評議員会及び理事会を開催した。

第一回理事会 令和3年6月4日（金）

（新型コロナウイルス感染予防対策のため定款31条の2の規定に基づき
書面審議とした）

第一号議案 令和2年度事業報告（案）審議の件について

第二号議案 令和2年度決算報告（案）審議の件について

第三号議案 監事監査報告の件について

第四号議案 社会福祉充実残額に関する審議について

第五号議案 令和3年度第一次補正予算（案）の件について

第六号議案 ゆうかり医療療育センター拠点区分の措置施設特定
資産の切り替えについて

第七号議案 公益財団法人あすなろ福祉財団助成金に伴う福祉機
器納入業者との契約について（千歳療護園）

第八号議案 役員任期満了に伴い、評議員会へ提出する理事・
監事候補者選任の件について

第九号議案 評議員選任・解任委員の任期満了に伴う選任につい
て

第十号議案 役員任期満了に伴う評議員候補者選任、及び評議員
選任・解任委員会の決議の省略について

第十一号議案 定例評議員会招集に関する審議の件について

上記全議案全員承認

第一回評議員会 令和3年6月21日(月)

(新型コロナウイルス感染予防対策のため定款15条の4の規定に基づき書面審議とした)

- 第一号議案 令和2年度事業報告(案)審議の件について
- 第二号議案 令和2年度決算報告(案)審議の件について
- 第三号議案 監事監査報告の件について
- 第四号議案 社会福祉充実残額に関する審議について
- 第五号議案 令和3年度第一次補正予算(案)の件について
- 第六号議案 役員任期満了に伴い、理事・監事選任の件について

上記全議案全員承認

第二回理事会 令和3年6月21日(月)

理事6名中6名出席 監事2名中2名出席

(当該場所に存しない役員等の出席方法)高野監事・森監事は電話での参加

- 第一号議案 役員改選に伴う社会福祉法人ゆうかり学園理事長選定の件について
- 第二号議案 その他の件について

第三回理事会 令和3年9月1日(水)

理事6名中6名出席 監事2名中1名出席

- 第一号議案 社会福祉法人ゆうかり学園定款変更申請書(案)審議の件
- 第二号議案 第二千歳療護園車輛納入契約について
- 第三号議案 ゆうかり医療療育センターに於ける脳波計納入契約について
- 第四号議案 準職員等の賃金改正及び改定に伴う臨時職員就業規則改正(案)について
- 第五号議案 新型コロナウイルス感染症対応特別有給休暇規程制定(案)、ハラスメント防止規程制定(案)審議の件について
- 第六号議案 その他の件について

第四回理事会 令和3年12月10日（金）

理事6名中6名出席 監事2名中2名出席

- 第一号議案 令和3年度社会福祉法人ゆうかり学園第二次補正予算書（案）審議の件について
- 第二号議案 ゆうかり医療療育センターに於ける空気清浄機購入について
- 第三号議案 ゆうかり医療療育センター・千歳療護園・第二千歳療護園に於ける配膳車購入について
- 第四号議案 令和3年度ロボット導入支援事業に伴う機器の購入について（ゆうかり医療療育センター・千歳療護園・第二千歳療護園）
- 第五号議案 役員退任に伴い、評議員会へ提出する監事候補者選任の件について
- 第六号議案 人事院勧告の件について
- 第七号議案 退職金支給規程（案）審議の件について
- 第八号議案 評議員会招集に関する審議の件について
- 第九号議案 その他の件について

第二回評議員会 令和3年12月20日（月）

評議員8名中7名出席 陪席者：理事6名、監事2名

- 第一号議案 令和3年度社会福祉法人ゆうかり学園第二次補正予算書（案）審議の件について
- 第二号議案 社会福祉法人ゆうかり学園定款変更申請書（案）審議の件について
- 第三号議案 役員退任に伴い、監事選任の件について

第五回理事会 令和4年3月18日（金）

理事6名中6名出席 監事2名中2名出席

（新型コロナウイルス感染予防対策のため定款31条の2の規定に基づきテレビ会議システム（ZOOM）を利用して行った）

- 第一号議案 令和3年度第三次補正予算（案）審議の件について
- 第二号議案 令和4年度事業計画（案）審議の件について
- 第三号議案 令和4年度当初予算（案）審議の件について
- 第四号議案 医師の継続的な宿直又は日直勤務許可申請について

- 第五号議案 ゆうかり医療療育センターに於ける新型コロナウイルス検査機器の購入について
- 第六号議案 ゆうかり医療療育センター、千歳療護園、第二千歳療護園、耳納学園に於ける屋内防犯カメラ等の設置について
- 第七号議案 福祉・介護人材処遇改善手当（処遇改善加算、特定処遇改善加算、処遇改善臨時特例交付金分）支給規程制定（案）、給与規程改正（案）、臨時職員就業規則改正（案）、昇給・昇格に関する規則改正（案）、育児・介護休業等規程改正（案）審議の件について
- 第八号議案 施設長等の契約について
- 第九号議案 令和4年度給食納入業者の選定について
- 第十号議案 評議員会招集に関する審議の件について

第三回評議員会 令和4年3月28日（月）

（新型コロナウイルス感染予防対策のため定款15条の4の規定に基づき書面審議とした）

- 第一号議案 令和3年度第三次補正予算（案）審議の件について
- 第二号議案 令和4年度事業計画（案）審議の件について
- 第三号議案 令和4年度当初予算（案）審議の件について
- 第四号議案 その他の件について

上記全議案全員承認

2、令和3年度心身障害児者の施設利用状況

ゆうかり医療療育センターの利用状況は、医療型障害児入所施設（定員150名）では延6,941名、一日平均19.0名、療養介護事業所（定員150名）では延40,245名、一日平均110.3名、私的入院では延458名であった。入所率は150定員に対して86.2%であった。短期入所では8名の利用があり、延利用日数は103日であった。一方、日中一時支援も3名の利用があり、延6回の利用があった。

コアラ園では、児童発達支援事業（定員 20 名）に対し延 3,400 名、一日平均 14.11 名が利用された。また、放課後等デイサービス事業（定員 10 名）では延 64 名、一日平均 0.27 名であった。保育所等訪問では延 6 名の利用があった。

耳納学園においては、施設入所支援（定員 34 名）に対し、延 10,563 名の利用があり、一日平均 28.9 名、充足率は 85%、就労継続支援 B 型（定員 40 名）では、年間作業参加実績延 6,919 名、定員から見た充足率は、71.5%、一日平均作業参加実績利用者数は 28.6 名であった。

千歳療護園の利用状況は、生活介護（定員 50 名）が延 11,291 名で 87.2% の充足率、施設入所支援（定員 40 名）は延べ 14,274 名で 97.7% の充足率であった。内訳は 9 名の利用者が延べ 356 日間の入院の他、外泊で 3 名の利用者が延べ 8 日間の帰省をしている。短期入所利用者は 2 名の利用者が延べ 72 日間、日中一時の利用者はなかった。

第二千歳療護園の利用状況は、施設入所支援（定員 40 名）が年間実利用者数 14,293 名で 97.9% の充足率。1 日平均利用者数は 39.2 名であった。生活介護（定員 40 名）は年間延べ利用者数 10,221 名で 97.9% の充足率であった。内訳は 7 名の利用者が延べ 160 日間の入院の他、退園者 2 名による減数が 145 日間であった。外泊については新型コロナウイルス感染予防を徹底していただくことをお願いし 1 名の方が年末年始に帰省されている。短期入所は 1 名の利用者が年間延べ 4 日間利用されている。日中一時の利用者はなかった。

施設毎の事業報告の詳細は 13 頁以降に掲載している。

3、助成事業関連

① 両立支援等助成金（新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置による休暇取得支援コース）

（ゆうかり医療療育センター）	対象者	6 名	1,950,000 円
（コアラ園）	対象者	1 名	250,000 円
（千歳療護園）	対象者	3 名	750,000 円

【合 計】 ￥2,950,000 円

※新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置として、休業が必要とされた妊娠中の女性労働者が、安心して休暇を取得して出産し、出産後も継続して活躍できる職場環境を整備するため、当該女性労働者のために有給の休暇制度を設けた。（※令和 2 年度休暇利用者申請分）

② 両立支援等助成金（出生時両立支援コース・子育てパパ支援助成金）

（ゆうかり医療療育センター）対象者 1名 330,000円

【合計】 円 330,000円

※男性労働者が育児休業を取得しやすい職場風土作りを行い、法人全体で取り組んだ。（※令和2年度育児休業取得者申請分）

③ 両立支援等助成金（新型コロナウイルス感染症小学校休業等対応コース）

（ゆうかり医療療育センター）対象者 19名 725,184円

（基幹相談支援センター）対象者 2名 22,002円

（法人本部）対象者 2名 84,814円

（耳納学園）対象者 1名 27,282円

（第二千歳療護園）対象者 2名 99,463円

【合計】 円 958,745円

※子どもの世話を保護者として行うことが必要となった労働者に対し、有給の休暇制度を設けた。

（※令和3年8月1日～令和3年10月31日休暇利用者申請分）

④ 新型コロナウイルス感染症が発生した法人への緊急見舞金

全国社会福祉法人経営者協議会

感染発生1名につき5,000円の見舞金

【合計】 円 105,000円

※利用者や役職員に新型コロナウイルス感染症が発生した場合

福岡県社会福祉法人経営者協議会

感染者5名未満20,000円の見舞金

感染者5名以上50,000円の見舞金

【合計】 円 50,000円

※利用者や役職員に新型コロナウイルス感染症が発生した場合

全国身体障害者施設協議会

感染発生1名につき5,000円の見舞金

（千歳療護園）対象者 1名 5,000円

（第二千歳療護園）対象者 3名 15,000円

【合計】 円 20,000円

※利用者や役職員に新型コロナウイルス感染症が発生した場合

- ⑤ 福岡県障がい福祉サービス等事業者に対するサービス継続支援事業費補助金
(ゆうかり医療療育センター) 衛生用品
総費用 99,550 円 交付金 87,000 円
自己資金 12,550 円
※新型コロナウイルス感染症に対応する為の衛生用品及び感染対策に要する備品の購入を行った。
感染防止対策支援事業助成金 (障害分)
- (コアラ園) 衛生用品等
総費用 26,967 円 交付金 17,000 円
自己資金 9,967 円
※感染防止対策支援事業助成金 (障害分) 10 月～12 月分
- ⑥ 令和 3 年度障害者総合支援事業費補助金 (新型コロナウイルス感染症に係る障害福祉サービス事業所等に対するサービス継続支援事業)
(ゆうかり医療療育センター)
総事業費 3,382,500 円 交付金 2,124,000 円
自己資金 1,258,500 円
※職員に新型コロナウイルス感染者が発生したため、当該病棟の利用者・職員に PCR 検査を実施。
- ⑦ 人材確保等支援助成金 (介護福祉機器助成コース)
(ゆうかり医療療育センター) 入浴用電動ストレッチャー 2 台他
総事業費 5,041,950 円 交付金 1,222,875 円
自己資金 3,819,075 円
※職員の身体的負担を軽減するために、リフトや機械浴等の新たな介護福祉機器を導入し労働環境の改善を図り、離職率の低下を図った。
- ⑧ 令和 3 年度 障害福祉分野の介護ロボット等導入支援事業
(ゆうかり医療療育センター) ゴルボ 2 台
総事業費 1,860,000 円 補助金 1,200,000 円
自己資金 660,000 円
※リフト利用により、利用者の安全確保とスタッフの負担軽減、介護の質を維持することができるようになった。

(千歳療護園) 眠りスキャン(見守り)15台及び床走行リフト1台

総事業費	2,188,000円	補助金	2,100,000円
自己資金	88,000円		

(第二千歳療護園) 眠りスキャン15台及び走行リフト1台

総事業費	2,188,000円	補助金	2,100,000円
自己資金	88,000円		

※より多くの利用者様の急変時（特に夜間）に早期対応が可能となり、より安心安全なサービスが提供できるようになった。

- ⑨ あすなろ福祉財団障がい福祉サービス事業所等の設備整備及び環境改善による事業（千歳療護園）

(千歳療護園) 天井走行リフト1台及び床走行リフト1台

総事業費	2,832,900円	補助金	2,000,000円
自己資金	832,900円		

※脱衣所から浴室にかけての天井走行リフトの設置と床走行リフトの導入により、通所利用者様のより安心安全なサービスが提供できるようになった。

- ⑩ 国土交通省自動車事故対策補助金による事業（千歳療護園）

※標記について、前年度に引き続き千歳療護園に対し、10,237,704円の補助金の交付を受けて、入所施設支援費168,190円及び人材雇用費として10,069,514円を支出した。入所施設支援費については眠りスキャン及び付属機器（見守り）1台を整備した。

4、賛助会員の状況

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に、「典心の湯」の利用や会議室の貸し出し等を中止とし、賛助会員の新規契約・継続更新を見送ることとした。

(広報紙（年3回発行）は昨年度の会員の方へ送付した。)

5、利用者様のサービス向上に関する事項

苦情解決委員会をはじめとする各委員会活動を通じて、利用者様のサービスの向上、並びに職員の資質向上に努めた。

6、働きやすい職場の構築

育児休業取得については女性の場合はほぼ 100%の取得率であったが、今年度は特に男性の育児休業取得推進について取り組んだ。制度について幹部職員への説明を行うとともに全職員への周知を行い、検討を行っている職員には法人に担当窓口を設置し、具体的な説明を行ない取得しやすい環境作りに努めた。結果、63%の取得率となり令和 4 年 1 月 27 日に子育て応援宣言企業・事業所知事表彰を受賞することとなった。今後も働きやすい職場づくりに向けて継続して取り組んで行く。

7、新型コロナウイルス感染症対策

厚生労働省通達及び国の基本方針に基づき基本指針（2020.2.26 作成）の見直しを重ねながら感染防止対策に今年度も万全を尽くしてきた。

また、典心の湯についても基本指針に基づき前年度より閉鎖を継続した。

8、定例事業

(1) 盆踊り・花火大会の開催

大会期日を令和 3 年 7 月 29 日(木)の開催予定で準備していたが、4 月 9 日所長会議で検討の結果、新型コロナウイルス感染防止のため、盆踊り・花火大会の中止を決定した。

(2) 運動会の開催

開催期日を令和 3 年 10 月 16 日(土)とし、2 月に東部運動公園の調整会議に参加し、会場の確保を行ったが、新型コロナウイルスの感染防止のため運動会の中止を決定した。

(3) その他

今年度も COVID-19(新型コロナウイルス)にて法人行事が全体で開催することが出来ませんでした。病棟閉鎖等でミニ花火大会・レクレーション会の開催は延期する等調整しながら、各施設・寮単位で開催することが出来ました。2 年続けてのミニ行事になりましたが、利用者様たちの喜ぶ顔が見れて良かったと思います。

(4) 韓国瑞林福祉院との職員交流研修事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止

9、職員研修事業（園内）

(1) 外部講師による人権研修

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止

(2) 園内研修会の実施

- | | |
|-----------------------|-----|
| ・理事長講義 | ビデオ |
| ・薬局研修会 | ビデオ |
| ・メンタルヘルス研修会 | 書面 |
| ・感染症研修会 | 書面 |
| ・虐待防止研修会 | 書面 |
| ・報告会（苦情解決、安全管理、感染症対策） | 書面 |

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、ビデオ研修及び書面での報告を行った。

QC 発表会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止。

(3) 新任職員研修

いずれも別添報告書の通り内容を進化させながら実施した。

10、委員会活動

苦情解決委員会はじめ各委員会活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら慎重に行ってきた。その他各委員会からの報告は別添のとおりであった。

11、その他の事業

今年度は特定技能1号（介護）外国人を1名雇用した。支援計画書にそって就労面、生活面等の相談を含め登録支援機関の協力を得ながら定期的な面談を行うとともに、4半期ごとに入国管理局への報告等も実施し、福祉現場にとって必要な人材に成長してもらえるよう今後も支援を行っていく。

令和3年度新任職員研修

研修のねらい

- ・1回目は入職にあたっての最低限必要と思われる内容にとどめ、実務をより早く経験する。
- ・2回目を3ヶ月～6ヶ月後あたりに開催し、新任職員に事前にアンケートをとり、新任職員になって自分の抱えている悩みやこれからの期待、日常業務の中で疑問に思っていること等をグループ討議で話し合いしてもらう。
- ・3回目は、1年間を通じての現場実習の最終日とする。(新型コロナウイルス感染予防対策の為、状況により日程調整を行う)

①1年間を通じ、法人内の他部署の仕事を体験し、自分の仕事に対する姿勢を振り返る機会とする。

②新任職員が顔を合わせて話し合い、同じ様な悩みや不安を持っていながらも、みんな頑張っている状況を知り、自分だけではないことを共有すると共に、今後の自分の仕事に対する姿勢や課題を再確認し、心をリセットする。

令和3年4月1日(水)

地域支援棟 研修室

9:00～18:00

No.	研修概要	内容	開始時間	終了時間	備考
	集合後 ⇒ オリエンテーション		9:00	～ 9:10	研修室
1	辞令交付		9:10	～ 9:40	
	休憩		9:40	～ 9:45	
2	自己紹介	『今の私・6か月後の私』	9:45	～ 10:00	
3	理事長講義	『新たな時代における 社会福祉法人ゆうかり学園の使命と役割』	10:00	～ 12:00	※ 必須
	昼休み (車椅子操作がある為、動きやすい服装で参加)		12:00	～ 13:00	
4	就業規則		13:00	～ 13:30	海田事務長
5	福利厚生・退職金共済		13:30	～ 14:00	池田事務長
	休憩・移動		14:00	～ 14:10	
6	車椅子・摂食実技		14:10	～ 15:20	理学療法室 I 藤川課長 佐々木係長
	休憩		15:20	～ 15:30	
7	施設見学	ゆうかり医療療育センター・耳納学園 千歳療護園・第二千歳療護園	15:30	～ 17:20	梅木所長
9	終礼		17:20	～ 17:30	

※令和3年3月31日までに入職された方は、No.2からの参加となりますので、9時45分までに研修室へご集合下さい。

研修担当 法人事務局

令和3年度新任職員研修

第2回

令和3年11月5(金)

13:50~18:00

会場：研修室（地域支援棟 2F）

研修概要	内容	開始時間	終了時間	備考	
1	オリエンテーション	13:50	~ 14:00		
2	感染症委員会	ゆうかり学園における感染症	14:00	~ 15:00	委員 宮崎浩美
	休憩	15:00	~ 15:10		
3	防災・防犯対策委員会について	15:10	~ 15:55	三重野委員長 堤委員長	
5	苦情解決委員会について	15:55	~ 16:25	泉委員長	
	休憩	16:25	~ 16:30		
6	今までの自分を振り返って	個人評価への記録	16:30	~ 16:35	
7	グループ討議・レポート作成	『今まで仕事に携わってきて』			
		① 説明	16:35	17:45	
		② 自己紹介・役割分担決め			
		③ テーマの決定及び討議			
		④ レポート作成			
⑤ 発表	17:45	~ 18:00			

※ 必須

研修担当 法人事務局

グループ					
① グループ		② グループ		③ グループ	
野田 英子	(ゆ・看1)	坂本 勇仁	(ゆ・看2)	田代 虹希	(ゆ・介2)
秦 さおり	(ゆ・看2)	久保山 恵美子	(ゆ・看3)	手島 英子	(ゆ・看3)
福島 あやの	(ゆ・育3)	相田 貴久	(ゆ・診療)	古賀 冬子	(ゆ・給食)
奥田 梨加子	(ゆ・訓練)	大山 結子	(耳・看)	高田 臣教	(千・看)
高田 こず恵	(第二千・看)	淵上 知子	(千・生活)	大渡 愛斗	(第二千・生活)

施設事業報告

- ゆうかり医療療育センター
- コアラ園
- 相談支援事業所 夢の紀
- 耳納学園
- 千歳療護園
- 第二千歳療護園
- 久留米市東部障害者基幹相談支援センター

ゆうかり医療療育センター

医療部診療課 外来

《概況》

外来受診者の中で、入所前診察者は重症化の傾向にある。

療育前診察は昨年と同様、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動症、言語発達遅滞等の受診者が多く、1人あたりの診療時間は2時間程度要している。

千歳療護園・耳納学園入所者の診察もあり、スムーズに診察できるよう情報収集を行い、医師との連携を心がけた。

令和3年度 受診者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新患	7	6	13	10	11	10	11	9	8	4	0	7	96
再来	1,089	490	658	1,066	915	365	1,145 ※	1,566 ※	1,309 ※	790	280	245	9,918

※インフルエンザ予防接種者を含む

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の為、①4月15日から5月末②令和4年1月下旬から3月末まで外来閉鎖して対応していたため、外来患者数は激減している。
- ・新型コロナウイルス感染症予防対策として、全員のマスク着用と体温測定を行い、2週間前の健康チェックの聞き取りを医師が行っている。
- ・発達障害児の新患予約状況は、9ヵ月待ちの状況にある。
- ・新型コロナウイルス対応や災害対応の為に、必要な医療物品を確保し、備蓄倉庫管理を行っている。また、医療物品コスト削減、商品見直しに努めた。
- ・5月8日より職員への新型コロナワクチン接種を開始した。初回接種1回目280名、2回目300名に接種、令和4年2月には追加接種（3回目）を270名に接種した。接種にあたっては、医療部職員で連携を図り、事前準備から実施まで、ワクチンに関する情報収集やデモンストレーションを重ね、計画的に行った。
- ・職員のコロナ陽性者発生に伴い、対象病棟の利用者さま及び職員のPCR検査の準備及び検体採取を診療課職員にて対応した。

《概況》

- 一般撮影の撮影件数は、前年度と比較して減少したが、大きな変動は無かった。小児科医より放射線科医にポータブル撮影の被ばく線量に関する相談があった。放射線科医と放射線技師にて、同一部位でも検査目的別に目的を満たせる画質が得られる線量を検討し、更なる最適化を実施した。(被ばく線量の低減)
- 透視検査は、通年と大差はなく、検査件数は同じだった。
- CT 検査の検査件数は、増加した。変形や硬直、麻痺で整形撮影の体位をとることが難しい利用者さまや、同理由などでエコーの描出が困難な利用者さまに対して、3D-CT や MPR 像（多断面再構成像）の有用性が浸透しつつある為と考える。また、骨密度検査の増加により、骨粗鬆症の治療前検査の増加も検査件数増加の一因と考える。
- 骨密度検査の検査件数は、かなり増加した。検査の流れを見直し、業務改善を行った為と考える。ただし、骨密度検査は必要な重要検査であるが、緊急性は低いため病棟閉鎖時やワクチン接種時期などは、状況を鑑み避けた。そのため、月毎による検査数の変動が大きい。
- 全検査において、新型コロナの感染リスクを最大限考慮し実施している為、通年より、月毎のばらつきやズレが激しいが、検査は滞りなく実施出来ている。
- 正当化と最適化の研修会を実施（1回/年 対象：医師・放射線技師）

年度別 撮影件数比較

年度	2020 年度	2021 年度
一般撮影	881	868
透視	83	83
CT	55	69
骨密度	12	59

2021年度 放射線部 撮影件数

【各検査 比較】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
一般撮影	71	70	65	56	78	78	73	65	121	53	65	73	868
透視	3	7	7	9	5	7	9	8	8	4	9	7	83
CT	6	1	5	6	2	9	8	8	15	2	3	4	69
骨密度	10	7	3	0	0	1	11	15	7	2	0	3	59

各検査 詳細【一般撮影】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
病棟	45	42	40	32	50	58	35	38	44	28	41	41	494
外来	4	2	3	6	3	3	4	10	15	11	3	10	74
健診	病棟 B.D.	11	14	13	5	16	6	10	12	8	9	11	122
	耳・千 B.D.	8	11	7	11	9	8	9	4	9	0	8	95
	35歳未満	1	0	0	0	0	0	0	0	43	1	0	45
	その他	2	1	2	2	0	3	15	1	2	4	2	4
一般撮影 各月合計	71	70	65	56	78	78	73	65	121	53	65	73	868

※健診 その他；雇用時健診・委託業者健診・日中・短期 など

各検査 詳細【透視】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
ST チューブ入替	2	2	2	2	2	2	3	2	2	1	2	2	24
ED チューブ入替	0	4	4	3	1	4	4	5	4	2	4	4	39
膀胱瘻 入替	1	1	1	2	2	1	2	1	2	1	2	1	17
その他	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	3
透視 各月合計	3	7	7	9	5	7	9	8	8	4	9	7	83

※その他；透視下での胃瘻交換・チューブの位置や捻じれや破損等の状態確認 など

各検査 詳細【CT】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
頭部	1	0	2	2	0	1	1	3	1	0	0	1	12
副鼻腔（顔面）	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
胸部	1	0	0	3	1	2	1	1	4	1	1	3	18
腹部	4	1	1	1	0	3	4	2	7	1	1	0	25
胸腹部	0	0	2	0	0	0	0	1	2	0	1	0	6
その他	0	0	0	0	1	3	1	1	1	0	0	0	7
CT 各月合計	6	1	5	6	2	9	8	8	15	2	3	4	69

※その他；整形領域や上記にない検査部位

各検査 詳細【骨密度】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
腰椎+股関節	6	6	1	0	0	1	9	11	6	2	0	2	44
腰椎のみ	4	1	2	0	0	0	2	4	1	0	0	1	15
股関節のみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨密度 各月合計	10	7	3	0	0	1	11	15	7	2	0	3	59

医療部診療課 検査

《概況》

- ・本年度も新型コロナウイルス感染により、病棟閉鎖等が多くあったが、利用者様の年 2 回の定期健診、職員(夜勤者・パート職員・35 歳未満)健診や 3 寮血中濃度検査は、予定を変更しながら行うことが出来た。
- ・ノロウイルス胃腸炎については、利用者様や職員(職員の家族)に罹患者がみられ、病原大腸菌については、利用者様や職員にも陽性が確認され、採用時健診でも陽性が確認されたが、陰性になるまで検査を行った。
- ・新型コロナウイルス抗原検査は、出勤前に利用し、陰性を確認することで病棟内の感染防止に役立っている。
- ・新型コロナウイルス PCR 検査を他医療機関に依頼した場合、結果報告に 2~3 日を要していたが、IDNOW インストルメントを導入して頂き、発症前診断が可能となった。また約 15 分で結果報告が出来るようになり、迅速な対応が可能となった。職員のコロナ発生による疫学調査は、協力医療機関へ依頼し、対応する。
- ・脳波計を新しく導入して頂いたが、病棟閉鎖などが続き、実施することがほとんど出来なかった。

R3 年	健診用検査			白血球数・CRP	血液生化学	検尿・検便	血液ガス分析	心電図	脳波	腹部超音波	迅速診断	新型コロナウイルス抗原	新型コロナウイルスPCR	外注検査
	6 カ 月	誕 生 月	外 部 ・ 入 園 時											
4	18	22	1	53	27	36	1	17	0	2	1	0		69
5	23	26	1	40	22	17	0	21	0	5	0	0		96
6	19	24	1	47	19	24	0	18	0	2	1	1		85
7	16	15	3	39	30	25	21	20	0	3	1	1		85
8	18	24	0	62	37	26	2	18	0	2	0	15		163
9	15	14	1	54	20	15	0	18	0	3	0	6		116
10	24	20	20	50	32	26	0	37	0	1	0	2		101
11	25	24	2	66	28	28	1	19	1	3	0	1		122
12	23	18	3	40	39	14	19	20	2	6	1	1		103
1	18	16	5	50	30	19	0	10	0	1	0	47		114
2	26	18	2	50	32	18	0	15	0	3	1	133	2	128
3	14	13	4	55	24	15	0	23	0	1	2	94	27	111
計	239	234	43	606	340	263	44	236	3	32	7	301	29	1293

《概況》

医師の処方箋に基づき調剤を行った。令和3年度の処方箋枚数及び調剤数については下表の通りである。

① 令和3年度受付処方箋枚数及び調剤数

外来（千歳、耳納、その他）・病棟（おひさま寮、なかよし寮、ともだち寮）

		外来				病棟					
		臨時		注射		臨時		定期		注射	
月	日数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数
4	21	47	71	3	3	1291	1385	93	289	240	240
5	18	37	49	2	2	1190	1187	95	298	196	196
6	22	52	60	2	4	1170	1304	92	291	140	140
7	20	32	41	1	1	1152	1239	94	298	169	169
8	20	33	38	4	4	1345	1414	92	291	284	284
9	20	47	62	5	5	1256	1408	96	306	173	173
10	21	73	70	19	19	1116	1220	94	302	105	105
11	20	81	90	14	14	1295	1324	95	306	222	222
12	21	69	80	4	4	1375	1588	92	298	145	145
1	19	29	43	-	-	1189	1243	93	301	226	226
2	18	40	47	4	4	1216	1272	95	347	168	168
3	22	36	59	1	1	1546	1490	95	346	345	345
計	242	576	710	59	61	15141	16074	1126	3673	2413	2413

★吸入処方、外用剤でカウント

② 医薬品の安全使用のための研修会の実施

医療法に基づき、従業員に対し医療安全、医薬品・薬物に関する事故防止対策、特に安全管理が必要な医薬品などについてビデオ研修を実施した。

③ 薬事審査会開催

各科先生による新規採用医薬品の申請書提出に基づき審査を行った。
また、医薬品に関する安全性情報などの提供を行った。

④ 救急カートの点検

急変時に必要となる注射薬の期限をチェックし、期限の切れたものについては随時交換を行った。

⑤ 院内感染症対策委員会参加

⑥ 医療安全対策委員会参加

⑦ 給食委員会参加

⑧ 新型コロナワクチン予防接種

令和3年5月から令和4年3月にかけて実施した新型コロナワクチン接種において、ワクチンの保管、温度管理、ワクチンの調製を行った。またワクチン接種後の副反応（アナフィラキシー等）に備え、救急カートに新たにアドレナリン注等の治療薬を追加、整理を行った。

医療部診療課 口腔衛生

《概況》

歯科医師の指導に基づき継続的な口腔管理の実施。

ゆうかり医療療育センター（おひさま寮・なかよし寮・ともだち寮）

耳納学園 千歳療護園・第二千歳療護園 外来

受診者総数は下記の通りである。

園内歯科受診者 2021年4月1日～2022年3月31日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
Dr	87	14	50	66	17	0	94	84	79	37	0	0	528
D.H	200	214	221	230	157	150	186	178	172	81	125	184	2098

Dr（歯科医師） D.H（歯科衛生士）

外来受診者数 2021年4月1日～2022年3月31日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	35	4	23	43	3	0	43	34	18	20	0	0	223

- ・本年度も新型コロナウイルス感染症により、耳納学園・コアラ園利用者様の集団検診は中止となる。
- ・外来診察中止期間
5/12～6/20 8/20～9/30 1/19～3/31
年間を通して外来診察中止期間が長く受診者も減少した。
- ・全身麻酔下歯科治療の為、外来受診者7名を聖マリア小児歯科へ紹介した。
- ・本年度は新型コロナ感染症対策として、口腔ケアの時間割を変更した。
そのため、利用者様の口腔ケアの時間が減少となり歯科疾患への罹患率が高まった。今後はこの状況を踏え利用者様の口腔内状態を改善し充実させるために他職種との連携を重視していく必要がある。

《概況》

新型コロナウイルス感染症対策による、「新しい生活」において、利用者様一人ひとりの尊厳を守り、利用者様の立場に立った安心・安全なサービスを提供することを目標に働きかけた。コロナ関連により、寮を一定期間閉鎖することも度々起こったが、多職種との連携を図り、職員が一体となり、利用者様の健康維持や生活を守ることに重点を置いた。

超重症者（人口呼吸器含）の入所を受け入れるため、他職種と連携し、入所会議にておひさま寮から他の2寮への利用者様の転寮を行った。

看護師の教育活動の一環として、重症心身障害認定看護師を中心に教育委員会を設置し、看護基準の見直しや、新人職員の教育計画を作成、実施している。

* 委託入院	久留米大学病院	15 件	聖マリア病院	5 件
	田主丸中央病院	4 件	古賀病院	1 件
◆ 超重症児	9 名	◆ 準超重症児	15 名	
◆ 気管切開者	16 名	◆ 鼻腔カテーテル挿入者	12 名	
◆ 胃瘻チューブ挿入者	26 名	◆ 腎瘻、膀胱瘻	2 名	
* インフルエンザ予防接種		135 名		
インフルエンザ A 型罹患者		0 名		
B 型罹患者		0 名		
* 新型コロナウイルス予防接種（初回 1 回目）		119 名		
新型コロナウイルス予防接種（初回 2 回目）		118 名		
新型コロナウイルス予防接種（追加 3 回目）		105 名		
新型コロナウイルス罹患者		0 名		
* 短期入所者（延）		16 名		
* 日中一時支援利用者（延）		11 名		

<実習生受入数>

古賀国際看護学院 看護学生 3G (16名)

*コロナ感染拡大にてオンライン実習を実施

① 令和3年度 在籍者数 (月初日)

令和3年4月～令和4年3月

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
療養	118	118	118	118	118	118	117	117	117	119	119	118
医療	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
私的	2	2	1	2	1	1	1	1	1	1	2	1

② 令和3年度入退園者状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
措置入園												
退園												
契約入園		1							1	1		
退園						1				1		
私的入園			1					1			1	
退園		1		1				1			1	

③ 令和3年度年齢別入所者数

令和4年3月31日現在

年齢 (歳)	0～6	7～12	13～15	16～19	20～29	30～39	40以上	計
措置		2	3	6				11
契約		1	5	4	22	17	71	120
私的							1	1

【なかよし寮】

○コロナ禍における新生活様式として病棟のユニット化を確立し、感染症対策委員会を中心として状況に応じて問題解決、改善に努めた。

○インシデント・アクシデント報告を毎週行い、職員の情報共有と意識付けに努めた。重大アクシデントについては医療安全委員会を中心として全職員で分析を行い、対策を検討した。

- 虐待防止委員会を中心として2ヶ月に1回、30分程度の寮内勉強会を実施し、身体拘束廃止に向けての取り組みと支援の質の向上について検討を行った。
- 短期入所支援については、実績は少ないが、学園のコロナ感染症対策指針に沿って可能な限り受け入れを実施した。受け入れ時の対応については職員間で認識の統一を図り、定着してきている。
また、レスパイト支援として約3か月間の入所の受け入れを行なった。特別支援学校在学中の医療ケアを要する児であったため、地域支援スタッフを通して保護者、学校関係者と事前に申し合わせを行い、入所中の学校生活を円滑に送ることが出来るよう努めた。

【ともだち寮】

- 医療安全・新型コロナウイルス感染症対策の強化について
感染症対策委員を中心として、感染症発生時のマニュアルの見直しや情報の更新を行い、全職員に周知徹底を図ったことで流行性の感染症はほとんど発生しなかった。
重大アクシデント・インシデント報告において委員が中心となり、医療安全分析用紙を用いて分析、対策を行った。又、KYT（危険予知トレーニング）では、寮内全職員が参加し意見交換を図ることで、安全に対する意識の向上につながった。
- 地域支援事業について
新型コロナウイルス感染症対策指針に沿い、感染対策を徹底した上で可能な限り受け入れを行った。
- 福祉機器導入について
入浴用電動ストレッチャー、床走行リフトを導入したことで、移乗時における利用者様の安全や安心感、また職員の股関節痛、腰痛等が軽減され職場環境改善につながった。

【おひさま寮】

- 医療安全、感染症対策の強化について
今年度感染症委員を中心とし、感染症発生時の対応や、新型コロナウイルス感染症対策（寮閉鎖）を徹底した。しかしマニュアル通りに動けないスタッフもおり周知できていないことも分かった
ウエルパスの使用量も少なく、啓発に努めているが意識の向上に繋がっていない。→啓発の在り方を検討する。

職員休憩時間の換気・黙食の徹底に努めた。

- インシデント、アクシデント報告、分析、情報共有し、特に重大アクシデントにおいてはカンファレンスの時間を利用し、より多くのスタッフが参加でき共通の研修会を行なうことでリスクマネジメント力の向上や看護、介護の知識の向上に努めることが出来た。

しかし、内服や注入において確認不足によるアクシデントが続いており、次の業務に対する焦りが影響している。この件に関しては業務改善を行う。

- 地域支援事業の充実

短期入所の受け入れに対し、ご家族、地域事業部との情報交換を行ないご家族、利用者様が安心して利用できるように病棟内の支援体制、関わり方の見直しを行ったが、コロナ以外での感染症や入所者の重症化に伴い受け入れが出来ない事がほとんどであった。

病類別入所者数

令和4年3月31日現在

病名		病名	
脳性麻痺	69	染色体異常	5
低酸素性虚血性脳症	1	脊髄破裂後遺症	1
副腎白質ジストロフィー	1	マーシャルスミス症候群	1
脳損傷後遺症	1	先天性眼球欠損症	1
頭蓋内出血後遺症	2	知的障害	2
化膿性髄膜炎後遺症	2	レット症候群	3
左瘻性麻痺	2	急性脳症後遺症	1
滑脳症	1	インフルエンザ脳炎後遺症	1
てんかん性脳症	1	硬膜下出血後遺症	1
クラインフェルター症候群	1	頭蓋咽頭腫摘出術後下垂体機能不全	1
脳形成異常	1	低酸素性脳症	2
ダウン症候群	2	乳幼児揺さぶられ症候群	1
右中頭蓋窩クモ膜胞	1	心肺停止蘇生後状態	1
麻疹脳炎後遺症	1	脳腫瘍手術後水頭症	1
脳炎後遺症	2	頭蓋骨早期癒合	1
無酸素性脳症	1	頭部外傷後後遺症	1
水頭症	3	超低出生体重児	2
精神発達障害	1	水頭症性無脳症	1
MCT 変異による甲状腺ホルモン輸送障害	2	先天性筋緊張性ジストロフィー症	3
難治性てんかん	1	筋強直性ジストロフィー症	1
ムコ多糖症	1	筋緊張ジストロフィー症	2
ムコ多糖症Ⅱ型	1	ペーターズ・プラス症候群	1

計 132 名

<出張関係>

- ◆社会福祉施設役職員研修：新任職員研修 オンライン研修
5/18, 27：看護師7名 介護士1名、 5/19, 28：看護師5名 介護士1名
- ◆社会福祉施設役職員研修：中堅職員研修 オンライン研修
6/22, 29：看護師2名、 6/23, 30：看護師3名
- ◆令和三年度ストレスマネジメント研修 オンライン研修
7/2 中堅職員コース：看護師1名、 7/9 管理職員コース：看護師1名

- ◆令和三年度感染症予防研修（前期） WEB 研修
7/16～30 日間 動画配信：看護師 1 名
- ◆令和三年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 オンライン研修
7/21, 26 管理職員コース：看護師 1 名
- ◆第 40 回全民連医療事務研修会 オンライン研修
8/19：看護師 1 名
- ◆第 66 回西日本肢体不自由児施設運営研究大会 WEB によるハイブリッド開催
9/9～10：看護師 1 名 オンラインで参加
- ◆令和三年度全国重症心身障害児者施設職員研修会「看護師コース」オンライン
9/9：看護師 2 名
- ◆令和三年度全国重症心身障害児者施設職員研修会 オンライン開催
10/29 看護管理研究会コース：看護師 2 名
- ◆令和三年度アンガーマネジメント研修 オンライン研修
11/10：看護師 1 名
- ◆令和三年度感染症予防研修（後期） WEB 研修
11/1～14 動画配信：看護師 1 名
- ◆令和三年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 オンライン研修
11/25, 30 初任者コース：介護士 1 名
- ◆令和三年度リスクマネジメント研修 オンライン研修
12/9～10 指導者・管理職員コース：看護師 1 名
- ◆令和三年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 オンライン研修
12/7 中堅職員コース：介護士 1 名
- ◆令和三年度福岡県高齢者権利擁護等推進研修 看護実務者研修 オンライン研修
12/27：看護師 1 名

<研究発表>

第 43 回九州地区重症心身障害研究会 WEB 開催

演題「重度知的障害のあるダウン症児の自傷行為が減少した取り組みについて」

研究者	看護第一課	看護師	山下	沙由美
		看護師	宮崎	浩美
		看護師	中園	功一

演題「コロナ禍におけるオンライン看護実習を試みて」

研究者 看護第二課 看護師 和田 智子

演題「在宅で人工呼吸器を使用して暮らす障がい者が災害対策を通じて、地域とつながっていくための取り組み」

研究者 地域支援事業所 夢の紀 看護師 古賀 瑠美

育成部

《概況》

令和3年度は、各寮の利用者様へ、それぞれの個別支援計画に基づき、満足して頂けるような支援を計画したが、昨年につき新型コロナウイルス感染症対応の為、法人全体行事、3寮合同レクリエーション会など大きなイベントは開催出来なかった。しかし、感染症対応の様々な制限の中、個別、及び小人数での対応で、楽しみ、希望、生きがいを持てるような行事（花祭り、端午の節句、七夕、クリスマス会、節分、ひな祭りなど）、各種のレクリエーション、グループ活動、少人数による希望外出、ドライブ外出を計画実施した。

新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、利用者様方へ楽しみ喜びの提供を次年度も継続的に支援する。

【なかよし寮】

（生活援助）

本年度もコロナ感染症対策の為、利用者様には充実した活動提供が制限される中、午前ドライブや地域支援棟での昼食外出、小人数での午前買い物外出などを実施した。又、生花教室は、まだ講師（ボランティア）の方の参加ができない状況ではあるが、職員で対応し提供した。

また、全体活動（午前活動・午後レクリエーション）や個別活動（生花教室）・趣味活動（ゲーム・DVD鑑賞・写真撮影）等について感染対策を施し、内容を工夫して実施した。9月にはなかよし寮単独での花火大会、10月は運動会に代わるお楽しみ会を実施できた。

児童や学生の利用者様方には、コロナ感染症等の対応により支援学校に登校できない時期に対しても、オンライン授業の対応、ユニットを活用しての楽しみ（趣味活動のサポート）や土曜ドライブ外出などを提供した。

(センター外活動)

午前ドライブ支援棟昼食外出	4/23 (金)	5名
午前ドライブ支援棟昼食外出	4/26 (月)	5名
午前ドライブ支援棟昼食外出	5/17 (月)	5名
午前ドライブ支援棟昼食外出	5/27 (木)	5名
午前買い物外出	11/25 (木)	2名
午前買い物外出	11/29 (月)	2名
午前買い物外出	12/ 1 (水)	2名
午前買い物外出	12/ 2 (木)	2名
土曜午後ドライブ	月に2~3回	学童児

(センター内活動)

花祭り	4/10 (土)	全員参加
端午の節句	5/ 8 (土)	全員参加
七夕	7/10 (土)	全員参加
なかよし寮花火大会	9/28 (火)	全員参加
クリスマス会食事会	12/15 (水)	全員参加
クリスマスプレゼント渡し	12/24 (金)	全員参加
クリスマス演芸会	12/24 (金)	全員参加
節分	2/ 5 (土)	全員参加
ひな祭り	3/5 (土)	全員参加
誕生会	第3土曜日	全員参加

(ボランティア・慰問) 感染症対策の為、中止

生花教室 (職員対応で開催)	毎月第3水曜日	希望者
----------------	---------	-----

【おひさま寮】

(生活援助)

育成部では、コロナ禍であっても感染症対策を充分に行い、利用者様が日常生活を楽しめるように計画を立てた。

センター外活動では、土曜日の午後にドライブを計画し、毎月コンスタントに出掛ける事が出来、季節の風景や風を感じてもらうことで、気分転換して頂いた。

センター内活動は、例年通り月行事・誕生会や法人行事を企画し、感染症が出ている期間であっても、居室単位や各寮単位での行事に変更する事で、今までよりも利用者様が行事に多く参加することが出来た。

学校生活で登校する事が出来ない状況下においては、オンライン授業を開設させ、学校と連携を取りながら、今までと違う形で授業を受ける事が出来るようになった。

(センター内外活動)

花祭り	4/7	(水)	(全員)
端午の節句	5/12	(水)	(全員)
七夕	7/7	(水)	(全員)
レクレーション会	9/22	(水)	(15名程度)
おたのしみ会(病棟花火大会含む)	11/4	(水)	(全員)
クリスマス演芸会・食事会	12/15	(水)	(全員)
クリスマスプレゼント渡し	12/24	(金)	(全員)
レクレーション会	1/19	(水)	(15名程度)
節分	2/2	(水)	(全員)
ひな祭り	3/2	(水)	(全員)
レクレーション会	3/30	(水)	(15名程度)

ドライブ外出	4/3 (土)2名	4/9 (金)1名	4/10(土)2名	4/16(金)2名
	4/17(土)2名	4/23(金)2名	4/24(土)2名	4/30(金)2名
	5/15(土)2名	5/21(金)1名	5/28(金)1名	6/25(金)1名
	6/26(土)2名	7/2 (金)1名	7/3 (土)2名	7/10(土)2名
	7/16(金)2名	7/17(土)2名	7/24(土)2名	7/30(土)2名
	8/7 (土)2名	9/11(土)2名	9/25(土)2名	10/2 (土)4名
	10/9 (土)2名	10/15(金)2名	10/16(土)2名	10/23(土)3名
	10/30(土)4名	11/6 (土)4名	11/13(土)4名	11/20(土)4名
	11/26(金)2名	11/27(土)4名	11/27(土)2名	12/4(土)4名
	12/11(土)2名	12/18(土)4名	12/25(土)4名	1/8 (土)2名
	1/15(土)2名	3/5 (土)2名	3/12(土)2名	3/19(土)2名

(その他主な活動)

毎月第3水曜日誕生会(全員参加)
理容(2ヶ月1回程度)
内レクリエーション(月2回)

集団レクリエーション(月3回)
音楽活動(日常的)

【ともだち寮】

(生活援助)

今年度もコロナウイルス感染症対策での生活援助が続く事となった。活動においても多くの制限があり、居室単位ごとのグループ活動が大半を占め、範囲の縮小が余儀なくされた為、計画通りには中々実施出来なかった。

活動内容としては、感染症対策と向き合いながらの活動となり、降車なしでの短時間ドライブ外出、短時間の範囲制限での散歩、個人趣味活動、タッチケア、居室単位でのレクリエーション(ゲーム、カラオケ、制作)を行った。また、一時期感染症の減少している時期においては、利用者様の買物外出を実施した。

寮単位での秋まつり、クリスマス会は、各課の演芸会、ゲーム、食事会等、全職員参加協力のもと一日を通して利用者様が、とても楽しく過ごせる事ができた。

日常生活援助としては、感染症対策に基づき利用者様の健康、安全を重視し寮内消毒、清掃、職員は感染対策マニュアルに沿った業務の徹底に取り組んだ。

今後も様々な制限がある環境の中で、利用者様の楽しみを試行錯誤しながら取り組み、対応をしていく支援が必要とされる。

(園外活動)

(1) 午前ドライブ外出

年/一人5回

(2) 午後買物ドライブ外出

年/一人2回

(全体行事)

(1) 花祭り	4/ 7	(水)	全員参加
(2) 端午の節句	5/12	(水)	全員参加
(3) 七夕祭り	7/ 7	(水)	全員参加、居室別
(4) 花火大会	9/25	(水)	中止
(5) 秋祭り おたのしみ会	11/ 4	(木)	全員参加
(6) 食事会 クリスマス会	12/ 15	(水) 22(水)	全員参加
(7) 節分	2/2	(水)	全員参加、居室別
(8) ひな祭り	3/2	(水)	全員参加、居室別
(9) グループ活動	(毎週 月, 水, 木, 金)		居室別
(10) 生花教室	(毎週第四金曜日)		居室別
(11) 誕生会	(毎週第三水曜日)		全員参加、居室別
(12) 茶話会			居室別
(その他) 理容日	(偶数月)		全員、居室別

【出張・研修関係】

R3. 5. 18 令和3年度社会福祉施設役職員研修新任職員研修・中堅職員研修

(5. 27) 『新任職員研修』(Web研修会)

(5. 19/28) ゆうかり医療療育センター会議室 育成員2名、保育士1名

R3. 6. 22 令和3年度社会福祉施設役職員研修新任職員研修・中堅職員研修

(6. 29) 『中堅職員研修』(Web研修会)

ゆうかり医療療育センター会議室 保育士2名

R3. 7. 21 令和3年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程チームリーダー

(7. 26) コース及び管理職員コース研修

『管理職員コース』(Web会議システム) 育成員1名

R3. 9. 2 令和3年度第1回施設長・職員研修会

『ワーク・エンゲージメントを高めるための組織ケアについて』

(Web会議システム) 育成員1名

- R3. 9. 9 第66回西日本肢体不自由児施設運営研究会
 (9.10) (担当施設：広島県立障害者リハビリテーションセンター若草園)
 (Web会議システム) 育成員1名、保育士1名
- R3.10.25 届出保育施設の安全管理に関する研修会
 (Web会議システム) 保育士1名
- R3.10.27 令和3年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程初任者コース
 (10.29) (Web会議システム) 育成員2名
- R3.12.7 令和3年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中堅職員コース
 (12.8) (Web会議システム) 保育士2名
- R3.12.8 令和3年度全国重症心身障害児者施設職員研修会
 『保育士・児童指導員等(療育職員)コース』
 (オンライン研修) 保育士1名
- R4.3.2 令和3年度第2回施設長・職員研修会
 『災害時に有効的な事業継続計画(BCP)について』
 (Web会議システム) 育成員1名

【実習生の受け入れ】

- ・純真短期大学 6名

※以下予定分、新型コロナウイルス感染症対応の為、受け入れを中止とした。

- | | | | |
|------------|-----|-------------|----|
| ・筑紫女学園大学 | 4名 | ・精華女子短期大学 | 8名 |
| ・福岡こども短期大学 | 4名 | ・福岡女学院大学 | 7名 |
| ・九州大谷短期大学 | 11名 | ・西九州大学短期大学部 | 5名 |

《概況》

2021年度は心理療育部として、一般生活援助業務との一部兼務で心理的援助活動を業務指針に基づき展開した。主な内容は、利用者の日常生活の観察、触れ合い並びに治療・検査場面を通じて心理的関係性をつくることである。また重症児・者に対しては、個としての尊重を基本として業務を行った。

地域支援としては、子どもの発達や母親の子育てなどの心理相談の要請に対し、市町村と連携・協力しながら、子育て・家族関係・就園・就学、そして発達についてなど心理支援を実施した。それに伴い、外来診察及びコアラ園利用案内さらに来所にての心理相談や外来での心理療育につなげるケースも増加した。保育所等への支援については、定期的な巡回相談が始まった地域においては、それ以前に比べ、小学校への就学委員会での保護者様と学校のよりよい共通理解が図られ、就学案内がスムーズになったとの好評価も得ている。さらに、その他の地域においても、個々の対象児ごとに必要に応じて療育場面の見学や関わり方の方向性など、それぞれの保育所等との情報交換もニーズに応じて行った。

《心理療育・相談援助の内容》

「落ち着いているか」「安心しているか」を治療の基点として「人と関われるか」「関わりは適切か」更に「楽しんでいるか」「喜んでいるか」との相互機能関係により個々のニーズに応じ、絵画表現療法、箱庭療法、抱っこ法・タッチケア、遊戯療法・行動療法、カウンセリング、感覚統合法、知育活動、音楽療法などを施行した。

心理的関わりの中で、寄りかけられる存在として、日常の触れ合い、遊び、介護、その他を通じての信頼関係作りが主要テーマである。

地域における相談活動においては、母子並行面接を基本として、限られた時間の中でいかに波長を合わせ、行動・状況の背景理解を図り、悩み・心配・不安に寄り添い、より具体的対応や共感的援助をしていけるかを目標に、心理判定並びに相談を行った。

【なかよし寮】

- ① 遊びを媒介とした自己表現（投影・情緒解放）
- ② 発達援助＝知育活動（情緒安定を基盤とした認知学習）・感覚運動
- ③ 面談援助 解決→解消（うなずく・聴く・心の汲み取り・共感・発散・個としての尊重）

- ④ 困った行動（表現として捉える）癖・攻撃・熱発・下痢・身体表現等の理解
- ⑤ 音楽療法（集団／個別）
- ⑥ 散歩（寮内・園内・園外）
- ⑦ タッチケア・マッサージ
- ⑧ 知能検査・発達検査
- ⑨ 介護支援

【おひさま寮・ともだち寮】

- ① 多動・興奮行動への対応 散歩法 ―エネルギーの解放―
- ② 面談（心のエントツそうじ・表出能力に応じた受けとめ）
- ③ 音楽療法（集団／個別）
- ④ 介護支援
- ⑤ タッチケア、絵本、絵カード、語りかけなど「いい表情づくり」活動
「集団の中での個としての尊重」
- ⑥ 知能検査・発達検査

【児童発達支援センター コアラ園】

コアラ園利用者も必要に応じて外来療育を実施

コアラ園の療育として集団での音楽療法も実施

知能検査・発達検査に関しては、コアラ園のスタッフと連携して実施

必要に応じて、母親との面談も行った

【外来療育】

心理療育部における外来療育は、増加しつつある発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害、学習障害など）に対する心理的発達支援を行うと共に、心因反応としての神経性習癖（チック、吃音、緘黙など）や、不登校を含む子育て不安などへの精神保健的相談・療育を行った。それらの中に、診察待ち期間の療育・相談、コアラ園の前段階としての外来での個別療育のケースなどを含めた多様な外来療育のニーズに対応させていただいている。

本年度は、新型コロナウイルス感染症自粛期間5月12日～6月18日、8月20日～9月30日、1月20日～3月30日まで、外来療育を中止した。

※上記の新型コロナウイルス感染症予防対策自粛期間中は、病棟にて利用者様との関わり、部内の勉強会や遊具の修理、電話による相談業務などを行った。

《治療対象児・者》

日常の行動特徴、生育歴、身体障害の程度、家庭環境などから、精神的サポートの必要性を吟味しその障害の質に応じて、下記人数に対し、定期的あるいは不定期的に心理支援を行った。心理的対応の特殊性から、臨時・緊急の場合も多く、他職種や地域の関係者との連携をもとに対処を行った。

※短期利用者を含む 単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	合 計
治療対象児・者※	47	40	45	132

《音楽療法対象児・者》

入所においては表出能力に困難のある利用者を優先的に、必要性に応じて下記人数に対して行った。コアラ園では一療育として集団での実施を、外来においては、医師の指示または保護者からの要望に応じて対応を行った。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	外 来	合 計
音楽療法対象児・者	39	36	31	11	13	130

《心理検査》

知能検査と発達検査は定期的に行い、その他の検査、評価は必要に応じて行った。本年度は、特別児童扶養手当・障害者福祉手当の申請に伴う検査や、保護者からの検査依頼が多かった。実施数は下記の通りである。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	外 来	地 域
発達検査	4	5	2	0	0	0
知能検査	5	0	4	5	43	7
性格検査	0	0	0	0	0	0

《地域支援》

地域支援事業は市町村の母子保健活動と連携して展開してきたが、保育所等とも情報交換・共通理解に努め、相互の子ども支援に有効に機能した。今後も地域の信頼に適確に応じていく事業展開を目指したい。

2019 年度より、久留米市において、市役所での乳幼児健診が追加され、年 2 回、土日の日程で行われた。

※災害や、新型コロナウイルスの影響で、実施中止となった日程がある。

朝倉市	1歳6ヵ月児健診		計4回 対象者93名うち相談者9名 別件1名
	3歳児健診		計6回 対象者168名うち相談者34名 別件15名
	朝倉・杷木健診		計3回 対象者23名うち相談者4名 別件1名
	にこにこども相談		計6回 相談者17名
うきは市	1歳6ヵ月児健診		計6回 対象者177名うち相談者13名 別件7名
	3歳児健診		計4回 対象者178名うち相談者13名 別件6名
	すくすく発達相談		計8回 相談者22名
	保育所等巡回相談		計23回
久留米市	田主丸町	1歳6ヵ月児健診	計3回 対象者23名うち相談者2名
		3歳児健診	計1回 対象者13名うち相談者3名
		ママパパ気持ち楽々相談	計1回 相談者3名
	北野町	1歳6ヵ月児健診	計1回 対象者10名うち相談者7名
		3歳児健診	計3回 対象者30名うち相談者6名
		ママパパ気持ち楽々相談	計1回 相談者2名
	三潆町	1歳6ヵ月児健診	計3回 対象者17名うち相談者2名
		3歳児健診	計1回 対象者16名うち相談者4名
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者3名
	城島町	1歳6ヵ月児健診	計1回 対象者4名うち相談者1名
		3歳児健診	計1回 対象者9名うち相談者1名
		ママパパ気持ち楽々相談	計1回 相談者6名
	南部	1歳6ヵ月児健診	計4回 対象者50名うち相談者29名
		3歳児健診	計4回 対象者40名うち相談者9名
		ママパパ気持ち楽々相談	計1回 相談者3名
	市役所	1歳6ヵ月児健診	計0回
3歳児健診		計0回	
北筑後保健福祉環境事務所		乳幼児発達診査事業	計1回 相談者2名
その他の相談対応		電話	42件
		メール	0件
		来所	7件
		訪問	0件
診察案内※1		57名 (再診含む)	
わいわい学級		8/12回	のびのび相談会 2回
外来利用児総数		59名	外来心理療育回数 919回
情報提供書作成数※2			57件

※1：年度内に診察に至った方のみ（年度内に診察の予約をした方は省く）を計上。
（診察予約は、すでに令和4年9月まで入っている状況）

※2：①診察に案内した対象児の発達状況や経過を記入した医師への情報提供書。

②保護者への心理判定報告書。

③就学に向けて、就学委員会への（保護者を通して）情報提供書。

④それぞれの寮への心理判定報告書。

⑤転勤等の異動による、他の専門機関への情報提供書（保護者渡し）。

《実習生関係等》

公認心理師の国家資格を定めてその業務の適正を図り、もって国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的として、平成29年9月15日に、公認心理師法が施行された。それに伴い、大学院のカリキュラムが変更になったことにより、厚生労働省と文部科学省から、公認心理師養成に係る実習生の受け入れの協力依頼を受けて、2019年度より、久留米大学心理学研究科臨床心理学専攻（大学院）の学生の実習指導を行っていたが、令和3年度においてはコロナウイルス感染症拡大の為に中止となった。

《参加出張》

- ・令和3年度 久留米市乳幼児健康診査あり方検討会（9月コロナ感染予防の為書面会議）
- ・令和3年度 うきは市乳幼児健診実務者会議（11月8日）

《講演会等》

- ・10月12日 うきは市学童保育所支援員会研修
- ・10月29日・11月29日 コアラ園母親講座
- ・2月26日 久留米市障害者基幹相談支援センター研修

《概況》

医療訓練部門における訓練は、すべて医師の処方に基づき個別で実施し、診療報酬は脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）および障害児（者）リハビリテーション料1・2・3で算定請求した。入所部門において6月、9月、12月、3月、リハビリテーション総合実施計画書を作成した。計画書の説明や交付手順は郵送形式とし、返信用ハガキで同意の返事があった方について、リハビリテーション総合計画評価料を算定した。

コアラ・外来部門は、土曜日の利用者など診察の機会そのものが取れない方もいるため、リハビリテーション総合実施計画書の説明をセラピストが行い、その内容を主治医に確認していただき交付した。

毎月第2火曜日に医師、看護師、保育士、心理士、栄養士および訓練士（PT・OT・ST）のスタッフが出席して、リハビリテーション部門カンファレンスを開いている。今年度は、新型コロナウイルスの影響で4月・7月・8月・10月の4回のみで開催であった。内容として、各寮の利用者の個別カンファレンスを実施した。

訓練は、利用者の潜在能力や可能性ならびにモチベーションなど多方面から対象児（者）のニーズを見極め、個別に計画を立てて行なうものである。特に、乳幼児期を担当するスタッフは、成長や発達全体を深く理解し、幅広く支援する能力が必要である。そこで、児童発達支援センター契約者に対して、発達全体の手助けおよび保護者の指導を目的に、PT・OT・STが密に保護者とコミュニケーションがとれるよう集団でのリハビリテーションではなく、個別のリハビリテーションで対応した。

関節の拘縮や変形、異常筋緊張、呼吸問題など生活全般に問題を抱えている重度の障がい児（者）に対して、独自の姿勢保持具を作製し活用するとともに、他部署の職員に対しても姿勢管理や呼吸理学療法（スクイーピング）・移動・移乗・食事介助などの方法について、イニシアチブを取りアプローチすることで利用者の生活の質（以下 QOL）の向上につなげた。さらに摂食・嚥下機能に問題のある利用者に対して、嚥下食を導入し、安全で楽しい食事時間の提供を行っている。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で病棟閉鎖や外来訓練中止など、診療報酬の減額が著明となった。

各部門の報告は以下に示す。

● 理学療法

【なかよし寮】

対象 47 名(内、おひさま寮から転寮し 12 月からの実施 1 名、短期入所にて令和 4 年 1~3 月の実施 1 名)に対し、理学療法士が 2~3 名(内、兼任 1 名)で個別に実施し、利用者 1 名当たりの訓練回数は週 1~4 回、年間訓練実施単位数は 6,767 単位であった。

対象児(者)の疾患は、脳性まひなどの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動遅滞、ダウン症候群、筋ジストロフィーなどである。

訓練内容は、個々のニーズやレベルに合わせた目標を設定し、基本動作訓練、移動動作訓練、筋力増強・持久力訓練、関節可動域(以下 ROM)訓練、日常生活動作(以下 ADL)訓練などを実施した。

今年度は、新型コロナウイルス蔓延の影響が強く、感染予防対策の一環として、ほとんどの期間で本館訓練室の使用を控えた。また病棟閉鎖が昨年度よりも多くなり、利用者の活動範囲に強い制限がかかる上での訓練が多くなった。

病棟閉鎖の際は活動範囲が病棟内と屋外のみとなるため、屋外に出ることができない雨天時は、移動動作訓練や応用動作訓練を主に実施にしている自立度の高い利用者に対しては、十分な訓練内容を提供することが困難であった。

運動量の提供としては昨年度よりも減少したが、居室で長時間過ごす際の座位姿勢を指導する機会は増え、特に寒い季節における筋や関節の痛みの訴えが少なくなる結果となった。また活動範囲が限られることが多かったためか、屋外での活動の際は利用者にとって一層嬉しく、気分転換になった様子であった。

学卒者の中には、身体機能の低下が進み、ベッド上で過ごすことが増えたケースがあった。この症例に対しては、関節可動域制限や変形の進行を防ぐため、ベッド上での良姿勢の写真付き資料を作成し、居室のベッド横に掲示した。また、身体機能の低下によりご本人所有の普通型車椅子が適合しなくなったため、背面を倒して安楽姿勢で過ごしやすくなるティルト式車椅子の代車を用意し、ご本人に合わせて調整したことで再びフロアで他利用者と過ごす時間を増やすことができた。

成人後の退園が予想される利用者に対しては、新しい生活環境において歩行器が使用できない場面が想定されたため、車椅子を手押し車にするなど複数の歩行の手段を練習し獲得に至った。

さらに、全利用者に対し車椅子や装具・姿勢保持器具などを随時検討・作製し環境面の支援も行った。

【おひさま寮】

対象 41 名に対し理学療法士 2～3 名で実施し、年間訓練実施単位数は、6,486 単位であった。

対象児（者）は、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいを重複している人が多く、生活のあらゆる場面において介助が必要である。ベッド上でも非対称な姿勢になることが多く、姿勢の管理や変形・拘縮を防ぐことが重要である。また、近年は加齢に伴い呼吸機能、嚥下機能の低下が見られる利用者も多く気管切開、胃瘻造設術を施行された方が増加している。人工呼吸器などを使用した呼吸の管理が必要な利用者も少しずつ増えてきており、日常のリスク管理は非常に重要となっている。

訓練内容として、変形・拘縮の予防のため ROM 訓練を中心にマッサージ、リラクゼーションを行なった。また、人工呼吸器や気管切開の利用者の呼吸状態の安定を図るためにポジショニング、排痰や呼吸介助（スクイーミング）などの理学療法を行った。動くことができる利用者には床上でのローリング移動や歩行訓練、立ち上がり訓練、立位保持訓練、遊具を使用した運動などを積極的に行なった。毎年 1 回、個人の身体機能面の評価として ROM の計測を実施し、前年の数値と比較検討し利用者の生活に活かされるよう取り組んだ。

姿勢管理に関して個々の利用者には適合した車椅子や姿勢保持器具の検討・作製を行い、リラクゼーション・排痰・側彎変形・拘縮の進行予防に努めた。また病棟職員に対して、各場面に応じた姿勢について寮内研修、個別的な指導を行った。

人工呼吸器を使用している利用者や感染症の利用者は、居室から出る機会が少なくいろいろな面で活動範囲が制限されているため、人工呼吸器を装着した状態で車椅子散歩や感染症利用者には外気浴など、できる活動範囲内で楽しみを見つけ実施した。

昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の流行のため訓練を行う機会自体の減少や活動の制限による影響も大いにあったものの、可能な範囲の中で利用者の身体機能および QOL が低下しない様に努めた。

【ともだち寮】

利用者 45 名に対し理学療法士 2～3 名（内 1 名は外来・コアラ園と兼任）で行い、年間訓練実施単位数は 7,768 単位であった。対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいおよび知的障がい、染色体異常などであった。

訓練内容は四肢の ROM 訓練やリラクゼーション、歩行や車椅子駆動などの自力移動訓練を中心に行なった。特に身体の不調や腰痛を訴える利用者に対して、ベッド

上でクッションを使用し安楽な姿勢の検討に取り組み症状の改善に努めた。また、ベッド上や車椅子で長時間を同一姿勢で過ごされる利用者に対し、午前か午後にはベッドや車椅子から必ず降りる時間を設定した。さらに、他職種や夜勤者と連携し就寝時のポジショニングを再検討し、睡眠の質の向上を促し疲労回復やストレス解消につながるよう努めた。また、四肢の ROM や筋力などの身体機能の低下の予防として毎朝ラジオ体操を取り入れ、健康な身体づくりのために自発的に身体を動かす時間を設定した。

本年度も新型コロナウイルスの影響による病棟閉鎖を余儀なくされ訓練を行う機会を奪われた期間もあった。しかし、このような時だからこそ利用者が安心して安楽な日常生活が送れるように、個別にあった訓練を行い身体機能や運動能力、QOL の低下の予防に取り組んだ。

● 作業療法

【なかよし寮】

対象者 47 名に対して、なかよし寮担当作業療法士 3 名が週 1～4 回個別で行い、年間訓練実施単位数は 7,538 単位であった。今年度は、新型コロナウイルスの影響による病棟閉鎖や自宅待機、病棟業務の補佐に入ることもあり、計画したように訓練を行うことのできない期間もあった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動遅滞、ダウン症候群、筋ジストロフィーなどである。

訓練内容は、身体機能面（特に上肢機能）の向上および維持を目的に、ROM 訓練やリラクゼーション、玩具や感覚遊び、作業活動を媒介としたアプローチを行なった。また、ADL 動作の向上を目標に周辺の環境調整を行いながら、習得を目指し反復した取り組みを行った。退園が予想される利用者には、地域支援棟の ADL 室を利用し簡易な調理訓練や疑似通貨を用いて金銭トレーニングなどを他職種と協力し取り組み、情報交換も密に行った。

昨年度に引き続き、本年度も新型コロナウイルスの影響により病棟内などの限られたスペースで作業療法を行うことが多かった。そのため、十分な運動や作業活動を提供することの難しさもあったため、屋外での散歩や発散につながる活動を心掛けストレスの蓄積回避に努めた。

3 寮合同のグループ活動も昨年度同様に実施できなかったが、周辺地域の感染状況を確認しながらなかよし寮内での小集団活動を行った。密な環境にならないように適切な距離を保ちながら音楽療法への参加、制作や感覚遊び、レクリエーションなどを行った。

【おひさま寮】

対象 41 名に対し、作業療法士 2～3 名（兼任含む）が週 1～3 回個別で実施し、年間訓練実施単位数は 6,714 単位であった。対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症などの中枢神経系の異常による重度の運動機能障がいや重度の知的障がいの重複などであった。視力障がいや嚥下障がい、加齢にともなう身体機能の低下や変形・拘縮など、それぞれ多岐多様な問題を抱えており症状も重度化している。また、人工呼吸器での呼吸管理や経管栄養が増えており、リスク管理は非常に重要である。

訓練内容として、身体機能や ADL の向上または維持、精神面の安定を目的に ROM 訓練、ADL 訓練（食事動作および環境調整）、集団活動、感覚訓練（スイングやスヌーズレン、アロマなど）を行った。また、利用者の殆どが寮内での生活が中心となっているため、屋外への散歩を行うことで環境の変化による感覚的な刺激を経験し、四季それぞれの季節を感じてもらった。特に人工呼吸器、感染症の利用者は、居室から出る機会が少ない状況であったため、PT・ST と合同で人工呼吸器を使用した状態で車椅子移動や感染症で活動制限がある利用者も可能な範囲内で楽しみ活動（音楽療法、日光浴、スヌーズレンなど）を実施した。

また寮内での活動として、その時期にちなんだ壁絵を作成した。セラピストが介助しながらできる範囲で作業に参加してもらい、全員で一つの作品を作り上げ居室や多目的ルームに展示した。

今年度は新型コロナウイルスの影響により居室対応となる機会が増え、限られた空間で生活する機会が多かったため、機能低下の防止や気分転換、QOL の向上を目的に訓練を行った。また、職員の人員不足の影響で、リハ以外の業務（生活支援や感染症対策による環境整備、検査のサポートなど）も他部署と連携をとりながら行った。

【ともだち寮】

対象 48 名（内 3 名退園）に対し、作業療法士 4 名（兼任含む）で週 1～3 回実施し、年間訓練実施単位数は 9,827 単位であった。対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいおよび知的障がい、染色体異常などであった。年々、加齢に伴う身体機能の低下や変形・拘縮もあり、ADL 動作の低下が見られている。

訓練内容として、身体機能や ADL 動作、認知機能の維持および向上、情緒の安定やリラクゼーションを目的に、ROM 訓練や食事訓練、感覚遊び、制作活動、集団活動などを行なった。

個別活動として、四肢の ROM 訓練やリラクゼーション、パソコン操作や個々のニーズに合わせた様々な活動を行い制作物を掲示し、利用者の楽しみや達成感、他者からの称賛などを通して自己実現につなげた。

集団活動では、病棟外活動として利用者同士との交流を促すため、各病棟の利用者が集まって OT 集団活動を計画していたが、今年度も昨年同様に新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、実施することができなかった。

しかし、病棟内の活動では楽しみの共有やストレス発散などを目的とし、音楽療法士と合同で歌遊びや楽器遊び、保育士と合同でオイルマッサージやアロマオイルを用いたリラクゼーションを促す活動などを行い、他職種と連携しながら利用者同士の交流や楽しみの共有、ストレス軽減に努めた。

また、本年度は新型コロナウイルス感染症による病棟閉鎖期間に職員の人員不足により病棟訓練を一時中止し、他部署と協力し生活支援を行った。

● 言語聴覚療法

【なかよし寮】

利用者 47 名に対し、言語聴覚士 3 名が必要に応じて週に約 1～3 回実施した。年間訓練実施単位数は 7,164 単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動発達遅滞、ダウン症候群、筋ジストロフィーなどである。

重度の知的発達の遅れが見られる利用者に対して、主にスキンシップ、タオル遊び、歌遊び、音遊び、楽器遊び、絵本の読み聞かせなど、遊びの関わりを行った。楽しい雰囲気、聴覚・視覚・触覚などの感覚を用いて、感覚・認知やコミュニケーション（理解面・表出面）の発達を促し、心理的安心感や精神的安定性を育てる関わりを行った。

言語発達の遅れを認める利用者に対して、絵本の読み聞かせや音読、および絵カードなどを用いた呼称やマッチング、読解や説明課題、書字課題、構文課題などといった机上課題のほか、お絵かきやぬり絵、パズルなど遊びを通じた認知機能へのアプローチなどを行なった。また、オセロや卓上ゲームでのやりとり遊びなど、各利用者の発達段階に応じた内容で言語機能とコミュニケーション能力の発達を促した。

発声発語器官の麻痺や運動制限などによる発声発語障がいを認める利用者に対して、発声発語器官を中心としたリラクゼーションや運動、また発声訓練や音読、構音訓練を行った。

摂食嚥下機能障がいを認めた学童利用者に対して、口腔器官への感覚入力やマッ

サージなどの間接訓練、および食物を用いた直接訓練、咀嚼訓練などを行い摂食機能の向上が見られた結果、令和3年4月より学校給食の摂取が開始され、経管栄養より経口摂取となりQOLの拡大につながった。また、利用者の機能、能力評価、保護者や利用者自身の要望などを考慮しつつ、他職種と連携して利用者の食形態や介助についての検討も行った。

前年度に引き続き新型コロナウイルスの流行による感染防止対策として、主に使用する本館訓練室の長期の使用不可期間があったため、使用する教材や機材の制限やインターネット環境の制限など、訓練環境が大変不十分であった。また、昨年引き続き日常生活において外出や面会の制限など利用者にとって特にコミュニケーションの機会が失われがちな1年であった。そのような中でもできるだけ訓練内容を工夫して利用者のQOLの向上に取り組んだ。

【おひさま寮】

利用者41名に対して言語聴覚士延べ2名(1名はコアラの兼任者)で週1~3回個別に実施した。年間訓練実施単位数は3,596単位であった。

対象の病名・障がい名としては、脳性麻痺、精神(発達)遅滞などを中心とした身体障がいと知的障がいを併せ持つ重度の重複障がいである。

訓練内容は、口腔機能訓練(口腔とその周辺のケアや活性化を含む)、摂食嚥下訓練、発声発語器官に対して筋刺激訓練やマッサージ、ストレッチ、リラクゼーション、構音訓練、言語発達を促す訓練、コミュニケーション訓練、音声や音楽を用いた聴覚的な刺激による訓練などを行った。

摂食嚥下に関して、広く摂食嚥下に関係する器官に対しての感覚訓練、筋刺激訓練、マッサージ、ストレッチ、脱感作や味覚学習などの口腔内感覚の改善。食物を直接用いない間接嚥下訓練、摂食・嚥下機能そのものの維持・改善訓練。介助法の改善、食形態の調整、頸部や体幹の座位姿勢の調整、他職種に対して情報の伝達などを行った。これらを通じて摂食・嚥下機能の維持および向上を目指し、安心して快適にスムーズに食事ができるための支援を行った。また、昼食・夕食に関しては率先して食事訓練・食事評価を実施することができた。

さらに、摂食嚥下リハビリテーション学会基準に基づいた中間のトロミのお茶について周知を行い、令和3年度から給食部によって定期的に対象の利用者にトロミ茶の提供を開始した。

おひさま寮の最重度の心身障がい児(者)に対して、リラックスした楽しい関わりの中で、心地のよいスキンシップなどの接触刺激・聴覚的刺激・視覚的刺激や身体的感覚などを充足させるアプローチを通して、心身が満たされ、ゆったりと落ち着くことができるような関わりを持ち、感覚・認知・理解面の成長を促し、iPadや

パソコンなどの機器を用いて、重度心身障がい児（者）でも楽しめる使用可能な機能を使って発達を促し生活の充実を図った。

呼吸器系障がいに対しては、排痰、口腔内清掃やマッサージなどによる口腔器官の活性化を行った。呼吸器や関連する器官の環境を整え、できる限り現在の状態を維持または改善して穏やかに生活できるよう支援を行った。

今年度の新型コロナウイルス流行時には、感染防止対策として一時的に利用者の居室外行動の制限および、職員の入室制限があった。そのために言語訓練に関しても利用者によって訓練回数の偏りが出てしまった。

【ともだち寮】

利用者 48（内 3 名退園）名に対し、言語聴覚士 2～3 名（1 名はコアラ外来との兼任）が必要性に応じて週に約 1～3 回個別にて実施した。年間訓練実施単位数は 6,311 単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいおよび知的障がい、染色体異常などであった。

訓練内容は言語面に関して、表出が困難な利用者に対し代償手段の活用として、コミュニケーションボードの練習やパソコン・スイッチの使用を行った。また、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、感染症予防による利用者の活動範囲の制限があった。そのため、居室で可能な余暇活動としてパソコン操作を通し平仮名学習などでのゲーム操作や、保護者宛てに手紙やメール作成などの活動を行った。

摂食・嚥下に関して、直接的な摂食訓練のほか、介助法の改善、姿勢の調整、食形態の検討、使用する食器具の検討などを行った。誤嚥性肺炎後の利用者には集中的に口腔ケアなどのアプローチをし、介助方法を病棟スタッフへ伝達、誤嚥性肺炎の再発防止に力を入れた。経管栄養の利用者へは口腔機能の維持や肺炎予防を目的とした口腔ケアや顔面マッサージなどの間接的訓練、また機能維持のための直接訓練を実施した。

音声言語面に関して、構音訓練や口腔体操を通して発声発語器官の運動を実施した。また、歌などの発声を楽しみながら呼吸機能、発声・発語機能の維持および向上にも努めた。

今年度も新型コロナウイルス感染対策対応により、一時的に居室への入室制限、機器の使用の制限があった。病棟が閉鎖になった際は、訓練中止、または訓練内容の変更を余儀なくされたが、その際は他部署と連携し生活支援に努めた。

『コアラ園及び外来』

● 理学療法

対象 71 名（契約利用者 6 名、外来利用者 65 名）に対し、外来担当理学療法士 2 名を中心に実施し、利用者 1 名当たりの訓練回数は週 1～2 回、年間訓練実施単位数は 3,344 単位であった。

対象児（者）は、早産・低出生体重児、脳性麻痺による重症心身障がいや肢体不自由児、精神運動発達遅滞、ダウン症候群など多岐にわたり、年齢も 1 歳の幼児から成人までと幅広い。

以下年代別に取り組みを報告する。

○乳幼児期から学童期

運動発達促進や基本動作能力獲得を目的とし実施した。対象児の興味・関心を引くような遊びを提供する中で寝返り・座位・立ち上がり・歩行などの基本動作の向上や家庭・学校・施設など各環境における ADL 向上・応用動作へのアドバイスに努めた。また、必要に応じて自助具や姿勢保持用クッションの作製、福祉機器（車椅子・ウォーカー・装具）の提案および作製し、身体機能面の向上だけではなく、発達が促しやすい環境づくりや QOL の向上に努めた。

○青年期から成人期

運動能力の維持向上・変形拘縮などの二次障がいの予防、介助者の介助量軽減など個々のニーズに合わせた目標に応じ実施した。より複雑化してくる運動の質の向上に対し継続的な運動指導を図りつつ、能力だけでなく各学校・施設・サービスなどの環境調整・対応に重きを置き、対象児（者）や保護者、関係者（学校教員、施設職員など）への情報提供を行ないながら実施した。また、重症度に応じて家庭や施設内での姿勢ケア実施のためクッションを作製し、使用方法を指導したのちに提供した。生活上必要不可欠である車椅子に対しても細かな調整や修理・新規作製の促しなど、より充実した生活を送っていただけるように努めた。

今年度もまた新型コロナウイルスの影響により、3 回の外来療育の中断を余儀なくされた。そのため電話連絡の際には対象児（者）の近況や健康状態などをお聞きし、必要な際には運動や生活上へのアドバイスも行った。また、外来中断の間も車椅子や座位保持椅子など生活上必要器具に関しては Dr.・業者協力のもと特別に診察・採型採寸・仮合わせ・納車などを実施させていただき、対象者の QOL 維持や不安解消に努めた。

○耳納学園の利用者

運動機能の維持のため、定期的なリハビリテーションを実施した。本年度も新型コロナウイルスの影響により、訓練を実施できない期間もあったが、疼痛の軽減お

よび ADL 動作の維持に取り組み、マッサージ・ストレッチ・ROM 訓練を中心に行い、生活に必要な動作も取り入れ練習した。

● 作業療法

対象 206 名に対し、外来担当作業療法士 3 名を中心に計 9 名のスタッフで訓練を実施した。利用者 1 名当たりの訓練回数は月 1～5 回、年間訓練実施単位数は 3,776 単位であった。

対象児（者）は発達障がい（自閉症スペクトラム障がい、注意欠如・多動症）、脳性麻痺、神経筋疾患、さらに精神運動（発達）遅滞など多岐にわたり、対象児（者）も年々増加傾向である。

訓練内容として、トランポリンやボールプール、スイングなどの感覚遊具遊び、縄跳びや鉄棒などの運動遊び、その他ルールのある遊びを行った。特に就学前の利用者に対して、パズルや運筆などの巧緻動作、机上での活動時間の延長や文字への興味を促し就学に向けての準備を行った。個々の子どもに合わせた発達課題（運動面・日常生活技能・学習基礎能力）に取り組む中で作業遂行能力の向上や子ども自身の気付きの促し、成功体験を通して自己肯定感を育むように実施した。また、日常生活で配慮すべき点や介助方法などに加え、保護者とのコミュニケーションを密に行い、助言・アドバイスをを行った。

今年度は新型コロナウイルスの影響により、3 回(5 月、10 月、1 月半ば～3 月)の外来療育を中止しなければならない状況となった。そのため不安のある対象児（者）に対して電話での相談を行い、生活の中で困ったことや自宅でできることを提案し、少しでも不安を取り除くような対応を行った。また、小学校就学を控える児童に対し、進路に関わる各関係機関に文書で情報提供を行い、卒園後の支援について提案や意見交換にも取り組んだ。

現在、学童児の利用増加に伴い、夕方の時間帯に訓練希望が集中する傾向にあるため、学童児の作業療法の利用頻度を調整することで多くの利用者に作業療法を提供できるように努めた。

● 言語聴覚療法

対象 232 名の外来利用者に対し、言語聴覚士 3 名を中心に計 8 名のスタッフで訓練を実施した。訓練は 1 回 2 単位(40 分)で実施、毎週、月 2 回、月 1 回、不定期の頻度で行った。年間訓練実施単位数は 4,553 単位であった。

利用者は、言語発達遅滞、自閉症スペクトラム、注意欠如・多動障がい、学習障がい、構音障がい、脳性麻痺、吃音など多岐に渡り、診断名・年齢が同様であっても、発達の状況に大きな個人差が見られた。また、年齢層も年中から年長の児童を

中心に、未満児の利用者から中学生の利用者までと幅広い。訓練期間も 1～2 年の短期間で終わる場合もあれば、5 年以上といった長期間訓練を行っている利用者も見られた。

利用者は診断名、発達段階、生活環境など一人ひとり異なっており、得意・不得意にも大きな差が見られた。そのため、毎回の訓練の中で観察評価を行いつつ必要な検査を選択し実施した。利用者のアプローチも、絵カードなどを用いる机上課題が中心となる利用者もいれば、遊び場面を設定し、その中での関りを通してアプローチを行うことが望ましい利用者など様々であった。また、具体的なアプローチのみではなく、上手にできた、褒められたといった成功場面を沢山経験していく中で、利用者の自信や達成感、意欲の向上を高めていった。

利用者のみでなく保護者との連携も重要であったため、訓練の中でも積極的に日常生活での様子や困り感、成長の様子といった情報交換を行いつつ、必要に応じた情報の伝達、環境調整を行った。

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルスの影響により外来療育を中止せざるをえず、中止の頻度も計 3 回と増加した。それに伴い、保護者から電話での相談を受ける頻度が増えたため、必要に応じた具体的なアドバイスや、不安な気持ちに対して共感の姿勢を大切にしながら話を聞くなど、気持ちに寄り添いながら保護者の相談を受けた。

また、コアラ園スタッフや PT・OT との情報共有も積極的に行い、保育園、幼稚園、学校や他施設といった外部との情報交換も、新型コロナウイルスの影響で電話や書面上での対応が中心であったものの積極的に行った。

<地域支援事業等>

1. 肢体不自由児早期訓練事業（県肢体不自由児協会委託、飯塚市）
PT 1 名・・・ 10 回 OT 1 名・・・ 11 回 ST 1 名・・・ 3 回
2. 乳幼児発達診査（県環境福祉事務所委託、朝倉市）
ST 1 名・・・ 1 回
3. 発達相談（朝倉市）
ST 1 名・・・ 4 回
4. 特別支援学校専門スタッフ強化事業（田主丸特別支援学校）
PT 1 名・・・ 4 回
ST 1 名・・・ 7 回（オンライン研修を含む）

<実習生の受入状況>

新型コロナウイルスの影響により、実習生の受け入れ中止。

地域事業部

《概況》

令和3年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止対策に徹した。その為、見学者や短期入所の利用者は、数名に留まった。この数名の短期入所者は、家庭のやむを得ない諸事情の為の利用受入れとなった。また、外部での対面受講の研修や出張等も減少し、かわりにリモート会議や文書決済に変更されての対応であった。

今年度は、感染対策としてコロナワクチン接種や定期的なPCR検査と感染防止に努めたが、福岡県は5月、8月に緊急事態宣言の対象となり、コアラ園、外来療育は中止、相談支援ではその期間中は電話での対応になったが、生活介護の通所においては限定的な対応で実施した。その後は通常業務を行っていたが、新型コロナウイルス感染急拡大の為、1月20日から新規診察をはじめ外来療育、通所系（コアラ園、生活介護）が完全にストップした状態となった。

地域事業部は、障害者福祉や療育活動など何らかの支援を希望される地域の方々と、法人内施設をつなぐ支援者として機能した。地域の方々の多様な問い合わせや要望に対して、施設機能の紹介や利用手続きの説明、スムーズな利用につながるために相談者と事業所間の連携・調整を図った。

対象地域は主に久留米市、うきは市、朝倉市及びその近隣地域としているが、対象地域以外からの問い合わせも多数あり、この状況に大きな変化は見られていない。

《相談対応業務》

地域事業部が受け付けた相談は、大多数が各機関から紹介されたご本人及びご家族からであり、その他に相談支援事業所や行政関係者、医療機関SWからの問い合わせである。また、相談受付からゆうかり学園事業所のサービスにつながる場合、受診予約や受診時の立会い、関係部署との連絡調整等も担い、利用者と事業者双方にとって出来るだけ安心してスムーズな利用開始につなげるよう努めた。

次表で、問い合わせの内容と実際に施設利用につながった件数を示す。

問い合わせ・相談の内容	件数	施設利用に繋がった件数
① 施設入所支援について	13件	3件
② 短期入所等について	16件	1件
③ 児童発達支援について	17件	9件
④ 外来療育・リハの利用について	32件	3件
⑤ 見学依頼など	2件	0件
⑥ その他の相談	24件	0件

① 施設入所については、13件の問い合わせに対してゆうかり医療療育センターで3名の入所支援につながっている。入所の問い合わせは、人工呼吸器使用の重症の方や介護保険が適応されるような高齢の方、知的障害がメインで療養介護が該当しない方、0歳児、多動で重心の方が大多数で、結果お断りすることが多かった。療養介護に該当しない方は、当法人内の生活介護事業所へ繋いだり、他の法人を紹介した。

② 短期入所や日中一時支援についての問い合わせも、多動で重心の方、衝動性のある方が多く、在宅での支援の難しい現実が感じとれる。1名の契約につながっているが、呼吸管理が必要な方など重症児（者）の方の利用はお断りしており、地域の療養介護事業所としては今後の課題といえる。

③ 児童発達支援については、利用を希望され契約まで至ったケースは9例である。利用希望の申し出から契約まで時間を要しており、昨年度以前に申し込まれ利用開始に至った方はカウントしていないため少ない数字だが、療育現場ではお試し利用やつなぎ療育などで少しでも早く療育につなげるよう工夫している。

④ 外来療育・リハについては、相談32件中6件が診察を経て訓練部や心理療育部の療育・リハにつながっているが、児童発達支援と同じで相談受付から診察までかなり時間を要しているためこのような数字になっている。相談受付後連絡ない方やキャンセルされた方も多くおられ、この点も予約受付から受診まで時間がかかりすぎることが原因の一つと考えられる。

⑤ 見学依頼については、新型コロナウイルス感染対策で見学を制限したため、受付自体2件と少なく見学実施行わず、受付の時点でお断りする。

⑥ その他の相談は、法人内事業所の受け入れ状況や利用手続き等の確認、新型コロナウイルス感染対策に対する施設の取り組み方について、計画相談介入の依頼、診断確定目的の診察依頼、宿泊体験の依頼、医師意見書等作成の依頼、新規事業所立ち上げに際し協力機関として名義貸し出しの依頼、過去の自己カルテ照会依頼の相談など、多岐にわたった。

《短期入所予約調整業務》

ゆうかり医療療育センターにおける短期入所及び日中一時預かりの予約受付と調整業務を地域事業部で行っていたが、今年度は、看護部長が執り行った。

《施設見学案内》

令和3年度の外部組織・団体から依頼される施設見学は、新型コロナウイルス感染予防対策のため原則すべて中止すると所長会議で決定、受付の段階からお断りした。

(7月 筑後特別支援学校、10月 津福校区老人クラブ)

《出張》

- ・ 11月20日 ネットワーク福岡九州ブロック研修会：長崎県大村市…古賀主任
- ・ 12月9日 九州地区障がい者相談支援事業合同研修：福岡大会（ズーム研修）
古賀瑠美
- ・ 相談支援従事者現任研修：福岡市…古賀主任 古賀瑠美
7月30日（ズーム研修） 10月5日（集合研修） 10月26日（集合研修）
- ・ 医療的ケア児等コーディネーター養成研修 古賀瑠美
2月19、20日（ズーム研修） 3月5、6日（集合研修）
- ・ 2月25日 八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修（ズーム研修）吉田修平
（その他の会合出席等）
- 久留米市ライフレスキュー事業連絡会…3回 吉田修平
- うきは市地域障害者支援協議会 相談部会…2回 古賀主任
- 久留米市地域生活支援協議会 重心部会…12回 古賀主任

給食部（中央給食）

給食部理念：栄養管理・健康管理に努め、真心のこもった調理で食の喜び、
大切さを伝える。

(1) 区分別熱量

ゆうかり医療療育センター、耳納学園、千歳療護園の区分別熱量に差があるので
副食の量をそろえ、主食の量で調整している。

(単位 Kcal)

	ゆうかり	千歳・第二千歳	耳納
中		2,020	2,200
A	2,100	1,830	
B	1,960	1,550	
C	1,470	1,270	1,640
D	1,250		1,350
E	1,080		

(2) 行事食

ゆうかり医療療育センター

令和3年

10/13 ともだち寮食事会（フルーツ盛り合わせ、おかし、飲み物）

11/14 おひさま寮 レクリエーション

ともだち寮 お楽しみ会 (外注弁当)

なかよし寮 運動会

12/15 クリスマス会（オムソバ、ステーキ、ポテト、Lチキン、ウィンナー
もみの木ハンバーグ、ズッキーニソテー、スープ、いなり寿司、おにぎり
ミニおでん、キムチ鍋、卵豆腐）

令和4年

1/ 1 おせち料理 (昼)

(がめ煮、干支かまぼこ、昆布巻、エビのつや煮、牛肉の八幡巻き
伊達巻、紅白なます、肉団子、ウィンナー、黒豆、数の子、苺、ねりきり)

耳納学園

令和3年

- 4/15 開園記念日 (ステーキ、サラダ、ケーキ)
- 6/17 夕食会 (ざるそば、いなり寿司、アスパラ巻き)
- 8/26 1日レクリエーション 夏祭り (おにぎり、焼きそば、たこ焼き、唐揚げ、フランクフルト、枝豆、フライドポテト、クレープづくり)
- 9/16 夕食会 (ごはん、ステーキ、じゃがバター、ウィンナー、枝豆)
- 10/21 お楽しみ会 外注弁当
- 11/18 夕食会 (ちゃんこ鍋、うどん)
- 12/15 忘年会 (オムソバ、ポテト、Lチキン、ズッキーニソテー、ウィンナーもみの木ハンバーグ、ステーキ、かに爪、サラダ巻き、いなり寿司ピザ、ケーキ、フルーツ)

令和4年

- 1/1 おせち お弁当 (ゆうかりと同じ)
- 2/3 節分 (巻き寿司、サラダ巻き)
- 2/17 一日レクリエーション (ラーメン)
- 3/17 夕食会 (塩豚丼、野菜たっぷり鶏団子スープ)

千歳療護園・第二千歳療護園

令和3年

- 4/8 千歳療護園開園記念日 (外注弁当、おすまし、ケーキ)
- 6/24 千歳祭 (カレーライス、ちらし寿司、寿司、ミニケーキ、アイス)
- 8/10 第二千歳療護園開園記念行事 (外注弁当、ケーキ)
- 8/26 納涼祭 (焼き鳥、おにぎり、フライドポテト、焼きそば、たこ焼き唐揚げ、かき氷、アイス、チョコバナナ、スープ)
- 11/4 レクリエーション大会 (外注弁当)
- 12/15 忘年会 (Lチキン、もみの木ハンバーグ、ステーキ、ウィンナーズッキーニソテー、赤えびテルミドール、いなり寿司、納豆巻き巻き寿司、卵巻き)

令和4年

- 1/1 おせち お弁当 (ゆうかりと同じ)

- (3) 研修関係 すべてオンライン (ZOOM) 研修
- 2021/10/13 令和3年度全国重症心身障害児者施設職員研修会
(栄養士・調理師コース)
- 2022/1/29 2021年度福祉スキルアップ研修会〈step00〉オンライン
～栄養ケアマネジメント 最初から学ぶ (障害編)
- 2022/2/25 令和3年度 第48回 九州障害者支援施設研究大会
- 2022/3/9 令和3年度 給食関係者合同研修会
- (4) 衛生管理
- ① 食品の納品時、品質のチェックと納品時間記入 (冷蔵品は表面温度記入、
冷凍・冷蔵品は収納庫の温度記入)
 - ② 手洗い液による手洗いとウェルパスによる消毒の励行
 - ③ 調理時、中心温度計にて中心温度測定、記入
 - ④ 調理の出来上がり時間記入
 - ⑤ 調理後、冷蔵庫に入れるものは入れた時間・温度記入
 - ⑥ 調理器具やシンクの除菌にアルペットE (食品添加物除菌剤) 使用
 - ⑦ 冷蔵庫の清掃、温度記入
 - ⑧ 調理室の温度・湿度記入
 - ⑨ 検収室の温度記入
 - ⑩ 盛りつけ時、使い捨て手袋、使い捨てマスク使用
 - ⑪ 洗浄室、下処理室にて専用のエプロン、スリッパ使用
 - ⑫ 水質検査 始業前、終業後に残留塩素測定 (毎日)
業者による管理 (毎月)
 - ⑬ 細菌検査 (検便)
腸管出血性大腸菌 (O-157 他) を含む病原腸内細菌検査 (毎月)
ノロウイルス抗原検査 10月、3月
 - ⑭ 業者 (トキワビル) によるネズミ・ゴキブリ駆除 (毎月)

(5) 給食委員会

ゆうかり医療療育センター

構成メンバー 所長、事務局長、看護部長、薬剤師、看護課、育成課
訓練課、給食部より代表者

開催回数 月1回 (感染症対策で開催できないときは書面で行う)

耳納学園

構成メンバー 利用者様29名、生活課2名、栄養士

開催回数 月1回

千歳療護園

構成メンバー 利用者様4名、総務課、生活支援課、
訓練支援課、栄養士

開催回数 2ヵ月に1回 (感染症対策で開催できないときは書面で行う)

内容

各施設で構成メンバーは異なる。毎月の誕生会の希望メニューや、行事食の希望、給食についての感想や反省点などを話し合っている。

また、行事食は、終了後に感想や反省をあげて、次回の参考になっている。

嗜好面や食事形態、食器等についても、様々な部署の方を交えて検討ができる良い機会なので、今後もいろいろな方面からの意見を参考に、より良い食事提供をしていきたい。

(6) まとめ

毎日の食事で、季節を感じていただけるように、その時期の食材を使用したメニューや話題のメニュー、利用者様からの希望をとり入れながら食事に変化をつけてきた。食形態については、ムース食、マッシュ食の調理をスチームコンベクションオーブンを活用し、スムーズに作れるようになったため、安定して提供できるようになった。

今年度は、急激な食材の値上がりや、使い捨て資材の不足、また、コロナ対策のための人員不足や、それによる仕事量の増加など、いままで以上の忙しさも経験しましたが、給食への影響をできるだけ少なくできるよう職員全員で取り組むことができた。

今後も、安全な食事形態でおいしく食べていただけるように、研鑽を積みたいと思う。

誕生会のメニュー 令和3年度

	主メニュー	一品メニュー		
		おひさま寮	ともだち寮	なかよし寮
4月	ハンバーグカレー	チョコパフェ	プリンアラモード	チョコケーキプレート
5月	唐揚げ丼	プリンアラモード	プリンアラモード	チョコパフェ
6月	中華丼	プリンアラモード	フルーツポンチ	チョコケーキ
7月	オムライス	プリンアラモード	チョコババロア	いちごパフェ
8月	焼肉	該当者なし	プチケーキ2種	抹茶アイスクリーム
9月	カツとじ丼	チョコパフェ	唐揚げ	パンケーキ
10月	てんぷら	プリンパフェ	ももゼリー	チョコケーキ
11月	かつカレー	該当者なし	たこ焼き	たこ焼き
12月	オムライス	プリンパフェ	チョコパフェ	モンブランケーキ
1月	焼肉	プリンアラモード	プリンアラモード	コーヒーパフェ
2月	チーズハンバーグ	プリンパフェ	チョコムース	チョコパフェ
3月	ステーキ	プリンアラモード	該当者なし	チョコパフェ

千歳療護園、第二千歳療護園は誕生会にデザートと飲み物を提供。また、利用者様の誕生日に希望メニューを1品つけている。

こもりぐま保育所

本園では、家庭に代わり子供達を預かり家庭内の温かさにより近づけるよう、愛情溢れたスキンシップの保育を目指してきた。健康で意欲的、創造的な心と身体を育成する目的で、戸外活動も取り入れており、自然に恵まれた環境の中、四季折々の果物・花・虫などと触れ合っている。

その他、個人の能力、年齢に合わせた生活習慣の習得を子供の発達状態をよく見極めて、無理なく個別指導をしている。そして、集団の中における協調性を遊びの中で養ってきた。

本園がまず何よりも、大切にしているのは家庭的雰囲気の中での保育である。そのためにも健康状態など、家庭との連絡を密に心掛けている。

	【	令和3年度	利用児	】			
延べ	661	人	開所日数	230日	1日平均	2.9	名

【 園外活動 】

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止

児童発達支援センター コアラ園

福祉型児童発達支援センターとして、3事業（①児童発達支援 ②放課後等デイサービス ③保育所等訪問支援）に取り組む。

① 児童発達支援

日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等の便宜を付与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日に、「あそび教室」というかたちで、グループ療育及び個別療育を実施した。

内容として、日常生活動作（食事・排泄・衣類着脱等）の獲得及び、小集団での行動獲得を基本療育とし、感覚あそび、知育あそび、歌あそび、製作、母子あそび、運動あそび、戸外あそびなどのカリキュラムを、個々の成長段階に合わせて提供した。夏季期間に実施予定のプール遊びは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の為、昨年に続き中止する。

遊びを通しての楽しさ、自己表現、作品完成への自信や達成感を味わうことを大切にし、不快ではなく、快な状態を出来るだけ多く提供する事を心掛けながら進めていった。

また、母子関係の安定と充実に努め、そこから対人関係づくりへと発展出来るように配慮し、集団における社会性や協調性を伸ばすことも目的とした。

平成30年度より取り組んだ、下記①②の活動も継続して実施した。

- (1) 文化庁の伝統文化親子教室事業への参加として、生花教室を専門の先生（片岡清美 氏）にお願いし、月1回（6月～1月）の教室と、年1回の作品発表会（11月13日～14日 田主丸町そよ風ホール）を実施する。

*新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、オンラインにて片岡先生の指導を受け、コアラスタッフにて生花教室を実施する。

（8・10・11・12・1月、 9月は中止）

- (2) 耳納学園陶芸教材による陶芸教室を実施する。

年長児に対する、就学に向けての机上での活動と、集中力の持続を自発的に促す取り組みとして効果を感じることが出来た。卒園記念品のマグカップ等を作成する。

年間行事としては、

園内行事：子育て講座（講師：心理療育部 姫野大助 参与）を参加人数の調整の為、2グループに分けて実施する。

（10/29(金)13名参加、11/29(月)14名参加 研修室にて）

季節の行事（クリスマス会、初詣、節分）は、通常療育の中に設定して実施する。卒園を祝う会は、短時間（30分）で小グループ（5名前後）にて実施する。

園外行事：新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、ゆうかり学園盆踊り花火大会、ゆうかり学園運動会が中止となる。代替行事として、開催予定日の1週間を「盆踊りウイーク」、「運動会ウイーク」として園内療育活動の中でお楽しみ活動を実施する。

月1回の避難訓練を毎月の曜日を変えて実施する。その内年1回は消防署員立合いの避難訓練（11/30水）、地震時の避難訓練（10/11月）を実施し避難誘導等の流れを園児、保護者と共に体験した。

その他、就学を迎える園児の保護者に対し、特別支援学校（4校）、地域小学校（特別支援学級22校）への見学案内を行うと伴に、並行通園をしている保育園、幼稚園への情報提供書作成や園内見学等の受け入れも行った。

また、地域の依頼により、久留米市、うきは市、朝倉市へスタッフ2名を派遣し、保育療育支援及び、相談支援業務を行った。（年間合計106回の支援）

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、派遣中止あり（久留米市18回、朝倉市12回、うきは市26回）

コアラ園登園に、年間で85名の利用契約を行い、1日平均で17名の利用受け入れを行う。

② 放課後等デイサービス

生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日、15時～18時の時間帯で就学児を受け入れる。

田主丸特別支援学校生徒3名（高校生2名、小学生1名）

田主丸小学校生徒1名（小学1年生）

計4名が年間で定期利用する。（不定期利用児4名）

③ 保育所等訪問支援

当該施設を訪問し、当該施設における障害児以外の児童との集団生活への適応のための専門的な支援その他の便宜を供与することを目的とし、年間で3名の利用あり。

久留米市高良内小学校 1名 3回訪問

久留米市ひまわり保育所 1名 2回訪問

久留米市おひさまくるめ幼稚園 1名 1回訪問

■ 知能検査

就学を迎える年長児に対して知能検査を実施し、就学先への情報提供として作成すると共に、対象児の課題等を見つけ出し、今後の療育方針を決定する上での参考資料としていった。(コアラ園契約児 13 名実施)

また、コアラ園卒園児の特別児童扶養手当等の更新に必要な検査として実施し、保護者へのご希望に答えた。(コアラ園卒園生 5 名実施)

■ 在宅支援

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、5月12日～6月20日まで、8月20日～9月30日まで、令和4年1月20日～4月3日まで、3度の臨時休園対策をとる。この期間在宅支援に切り替えてサービスの提供を継続する。支援内容としては、各園児の登園曜日に電話にて、親子の状況確認や連絡事項、お悩み相談対応を行う。また、自宅で学習する療育教材、療育動画入り DVD を作成し各自宅へ送付した。

■ 学校見学案内 26 校 (特別支援学校 4 校・地域小学校 22 校)

	学校名	参加園児		学校名	参加園児
1	久留米特別支援学校	4 名	14	久留米市立南薫小学校	1 名
2	小郡特別支援学校	4 名	15	〃 安武小学校	1 名
3	田主丸特別支援学校	2 名	16	〃 川会小学校	2 名
4	日田特別支援学校	1 名	17	〃 上津小学校	1 名
5	久留米市立京町小学校	1 名	18	朝倉市立金川小学校	1 名
6	〃 西国分小学校	1 名	19	〃 三奈木小学校	1 名
7	〃 田主丸小学校	1 名	20	〃 甘木小学校	2 名
8	〃 高良内小学校	1 名	21	〃 杷木小学校	1 名
9	〃 水分小学校	2 名	22	〃 立石小学校	3 名
10	〃 善導寺小学校	1 名	23	〃 馬田小学校	1 名
11	〃 大城小学校	2 名	24	〃 大福小学校	1 名
12	〃 南小学校	2 名	25	うきは市立吉井小学校	1 名
13	〃 東国分小学校	1 名	26	〃 御幸小学校	1 名

■ 通園児診断名 契約児 85 名（診断名複数該当あり）

診断名	該当児	診断名	該当児
構音障害	55	筋緊張低下症	2
言語発達遅滞	54	未熟児網膜症	2
発達性協調運動障害	47	自閉症	1
自閉症スペクトラム障害	44	ダウン症候群	1
知的障害	16	両偏平足	1
運動発達遅滞	16	両外反偏平足	1
精神運動発達遅滞	15	先天性心臓病	1
多動症	7	心房中隔欠損症	1
筋力低下	5	肺高血圧	1
歩行障害	4		

■ 出張関係

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、研修、出張関係を自粛する。

相談支援事業所 夢の紀

＜概況＞

夢の紀は、当法人内全施設のほぼ全員の入所者に対する計画相談を始め、久留米市、朝倉市、うきは市等に在住の障害児（者）の計画相談を行った。本年度の実績は下表の通りである。

＜計画相談契約件数＞

サービス等利用計画・障害児計画相談担当総件数		376 件
内 訳	障害児計画相談	116 件
	サービス等利用計画（在宅）	48 件
	サービス等利用計画（当法人施設入所者）	212 件

昨年比：契約件数 19 件増

内 訳：障害児計画相談/11 件増

サービス等利用計画（在宅）/6 件増

サービス等利用計画（入所）/2 件増

＜計画相談作成件数＞

新規相談	35 件（児童 27 件 者 8 件）
障害児支援利用計画・サービス等利用計画作成件数	326 件（児童 132 件 者 194 件）
継続障害児支援利用援助・継続サービス利用支援作成件数	347 件（児童 98 件 者 249 件）
サービス提供時モニタリング加算、退院加算、サービス担当者会議加算等	6 件
医療ケア児、強度行動障害体制換算	1318 件

昨年比：新規相談 3 件減

障害児支援利用計画・サービス等利用計画作成件数/63 件増

（児童 34 件増 者 29 件増）

継続障害児支援利用援助・継続サービス利用支援作成件数/32 件増

（児童±0 件 者 32 件増）

- ・前年度に比べ、計画、モニタリングの作成件数が増え、増収につながっている。
- ・新規の相談のうち、障害児対応を多く受け入れていることと、障害児から者への移行相談を行っているため、児、者共に契約数は増加傾向にある。
- ・コロナの影響で面談が出来ずにモニタリングに時間を要し、件数を増やせなかった。

- ・コロナの影響で担当者会議や事業所モニタリングが行えず、加算をとることが出来なかった。

- 本年度、ケースの抱える複雑な課題等により法人内外の関連事業所や医療機関、公的機関との連携・調整等に特に多くの時間を費やした特徴的な事例を、以下に挙げる。

- ・市外への転居に伴う市町村への連絡、相談支援事業所との連携、情報交換等（3件：小郡市、大分市）
- ・施設入所からグループホームへの移行の調整、定着への支援。
- ・難病の方が県外から病院を経て、高齢の母と二人での在宅生活を始めるまでの連絡とサービスの調整。
- ・在宅で生活を送られていた難病重症者の方が療養介護へ入所される際の調整。
- ・母の出産に伴い、一旦医療型障害児施設へ入所され、産後に在宅生活に戻るまでの福祉事務所、児童相談所、各関係事業所、学校関係者との調整。
- ・入所措置延長児童がグループホームの体験を行う際に必要な手続きと、児童相談所、サービス事業所、基幹相談支援センター等、各関係機関との連携、調整。
- ・成年後見の申し立てが困難な保護者に、関係機関との調整、及び申し立て手続きの補助。
- ・他県の医療型児童入所施設から在宅生活に移行される重心児童のサービスの調整。
- ・家庭内で困難を抱える児童に対し、サービス事業所、医療機関、学校、地域の子育て支援団体との連携。
- ・高齢の母の介護を担う本人への精神的支援が必要な方のサービスの調整。
- ・通所事業所の閉所に伴う利用事業所の調整。
- ・難病をもたれ、介護保険優先の中、障害福祉サービスの利用部分の計画作成、および訪問看護の調整。介護保険で補えていない難病に対する本人及び家族の心理的背景を理解し、ケアマネージャーとの連携で他事業所への調整。

- 本年度の計画相談業務に関する考察を以下に挙げる。

- ・在宅、関係事業所への訪問時には、訪問地域の感染症のコロナ発生状況を確認し、訪問時には、マスクや手指スプレーでの消毒、検温等、感染症対策を遵守した対応を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症対策にて、通所事業所の利用調整が必要な方へのサービス利用事業所の調整を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症対策にて、各サービス事業所や学校等への訪問を控える状況もあり、文書や電話等でのやり取りが中心となった。十分な対応を行うこ

とへの難しさを感じ、顔の見える関係を築いていくことの重要性を改めて感じた。

- ・24時間の相談対応体制を整え、夜間、休日に相談利用者、その家族、関係事業所からの連絡対応を行った。
- ・在宅利用者様で療養介護施設の短期入所が施設都合で利用できなくなる場合の在宅サービス調整が煩雑である。

《基幹相談支援センターとの連携》

東部基幹相談支援センターから依頼(5件)を受け、福祉サービスの必要な対象者に、計画相談での対応を行った。また、すでに計画相談に入っている困難事例の計画相談において東部基幹相談支援センターと連携して支援を行った。その他エリアの基幹相談支援センターからの依頼(1件)をうけ、計画相談での対応を行った。

《関連事業所との連携》

・新型コロナウイルス感染症対策にて、事業所や保育所、学校への訪問、会議の開催は可能な限り行わずに、FAXやメール、郵送での照会にて、支援状況の確認を行った。緊急時や必要時には感染症対策を十分に行うことで、短時間の会議開催、訪問を行った。

(相談業務における連携機関)

○公的機関

- ・久留米児童相談所
- ・大牟田児童相談所
- ・福祉課(久留米市、うきは市、朝倉市、他、施設入所給付市町村)
- ・久留米市こども子育てサポートセンター
- ・久留米市学校教育課(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー)
- ・久留米市生活支援課
- ・久留米市地域福祉課
- ・久留米市幼児教育研究所
- ・久留米市社会福祉協議会
- ・久留米市保健所
- ・うきは市子育て支援課
- ・うきは市社会福祉協議会
- ・朝倉市子ども未来課
- ・筑前町こども未来センター

○学校関係

- ・特別支援学校（久留米、田主丸、小郡）
- ・小学校（田主丸、善導寺、山本、宮の陣、山川、高良内、柴刈、竹野）
- ・中学校（宮の陣、三輪）
- 医療機関（久留米大学病院、聖マリア病院、田主丸中央病院、のぞえ総合診療病院、倉田内科小児科医院、むたほとめきクリニック、耳納クリニック、聖ルチア病院、久留米リハビリテーション病院、くまがえクリニック、やなぎ医院、筑後吉井こころホスピタル、本間病院、姉川脳神経外科、姫野病院、筑水会病院）
- 児童発達支援（ひばり園、おひさま、るんるん、いきいきハッピーステップ津福、芽愛、POSC、こぐま学園、こどもプラス甘木2号教室、コペルプラス）
- 放課後等デイサービス（ころころ、おひさま、るんるん、すまいる、クレア、芽愛、COCORO、こどもプラス久留米教室、あっぷ、いきいきハッピーステップ津福、かぶとむしクラブみのう、かぶとむしクラブさうすみのう、MIRAI、プラムチャイルド、さるくるめ、Like-Pot、放課後等デイサービス寺子屋、リブライフ、愛の家くるめ館、にじ高良内館、愛の家あさくら館、ヒカレ、こどもプラス甘木教室、ひまわり、ういずあっぷる浮羽校、かぶとむしクラブしらかべ、ハッピースペース、POSC、きらきら、菊池園放課後デイサービス、かなむ、アロハキッズ）
- 保育所等訪問支援（Switch）
- 生活介護（一麦寮、ちとせ園、和歩わく、どんぐり、若葉、楓樹、愛らんど、たけの子、浮羽学園、デイルームみなみかぜ、風の丘、陽だまりの里、シンフォニア、赤坂園、菊池園、ふるさと、ちるる、ひばり～ヒルズ）
- 就労移行支援（J o i n）
- 就労定着支援（あゆむ）
- 就労継続支援（レインボー、わくワークステーション千歳、K' sBee、みどりの園、荒木学園、ラ・ソレイユ、不思議の国のマーメイド、寺子屋工房、まんまる、プロジェクト-T、だいちに水、パブリカ、天心園）
- 療養介護（聖ヨゼフ園、柳川療育センター、久山療育園、若楠療育園、東佐賀病院）
- 居宅支援（田主丸社協、ひまわり、アップル久留米、えがお、くるめさるく、生協、ライフケアステーション、ニチイケアセンター、しんらい、心にスマイル、Find and Act、さくら介護、涼風、アップル小郡、りあん）
- グループホーム（ルーツ田主丸、浮羽学園、筑後吉井こころホスピタル、天心園、ルーツ大木）
- 自立訓練（ひとつ星、五灯館大学校）

- 訪問入浴（アップル久留米、くましろ）
- 短期入所・日中一時（和歩わく、のびのび、ASOBIVA、赤坂園、さくらあと）
- 訪問看護（アップル久留米、聖マリア、訪看くるめ、田主丸、デューン、ルナ、子守柿、ういずは一と、あかり、よもぎ、あいぞら、国分、アップル小郡、ひばり、アソシオール、うきは医師会）
- デイケア（筑後吉井こころホスピタル）
- 地域活動支援センターⅢ型（さくらんぼ、すまいるハウス）
- 就業・生活支援センター（ぽるて）
- 介護支援専門員（江戸くま）

《自立支援協議会への参加》

- ・久留米市地域生活支援協議会施策推進部会重心分科会に所属し、部会長としての責務を行った。
- ・久留米市地域生活支援協議会施策推進部会相談部会委員（相談ねっと）に所属し、会合へ参加していく中で、情報交換、研修、地域課題への取り組みを市福祉課、事務局と連携して行った。
- ・うきは市地域障害者協議会計画相談部会に所属し、情報交換、研修、地域課題への取り組みを市福祉課、事務局と連携して行った。

《相談援助実習の受け入れ》

新型コロナウイルス対応にて実習の受け入れ中止

《研修会》

- ・相談支援従事者現任研修:福岡市…古賀剛 古賀瑠美
7月30日(ズーム研修) 10月5日(集合研修) 10月26日(集合研修)
- ・ネットワーク福岡九州ブロック研修会:長崎県大村市…古賀剛
11月20日
- ・九州地区障がい者相談支援事業合同研修:福岡大会(ズーム研修)…古賀瑠美
12月9日
- ・医療的ケア児等コーディネーター養成研修…古賀瑠美
2月19、20日(ズーム研修)3月5、6日(集合研修)
- ・八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修 (ズーム研修)吉田修平
2月25日

《その他の会合出席等》

- うきは市地域障害者支援協議会 相談部会 …2回
- 久留米市地域生活支援協議会 重心部会 …12回
- 久留米市相談支援事業所連絡会（久留米市相談ネット） …6回
- 久留米市重心児者地域生活支援事業（医療ケア児者短期入所推進連携会議） …2回

耳 納 学 園

《概況》

新型コロナウイルスが世界的にデルタ株からオミクロン株へと変異して、日本でも第5波から第6波へと急激に感染拡大をつづけている状況にある。

社会福祉法人ゆうかり学園における感染拡大防止策を耳納学園でも守りながら感染防止に努めている。

耳納学園の生活介護への移行については、コロナ禍も含めて、行政との調整等、諸問題を解決する事ができず、今年度も実現することができませんでした。

健康面では、利用者様・職員への毎朝の検温を行っている。利用者様への3回目のコロナワクチンの接種を実施中である。職員も3回目のコロナワクチン接種を終えて、毎月PCR検査も行っている。

利用者様には引き続き自粛生活をお願いしておりますが、次年度も安全・安心そして快適な施設づくりに向けて取り組んでいきたい。

総務部

1) 本年度の各事業別利用状況

《施設入所支援》定員 34 名

年間延べ利用者数 10,563 名、充足率 85%、1 日平均利用者数 28,9 名

《就労継続支援 B 型》定員 40 名（通所 6 名含む）

年間作業参加実績延べ利用者数 6,919 名、定員から見た充足率 71.5%、

1 日平均作業参加実績利用者数 28.6 名

2) 本年度の地域別入退園状況は、別表（1）の通りである。

別表（1） 本年度の地域別入退園状況

入園状況 地域別	前年度末		入 園		退 園		本年度末	
	男	女	男	女	男	女	男	女
福岡市		1						1
久留米市	5	3					5	3
柳川市		4						4
朝倉市	2	1					2	1
大川市		1						1
小郡市		1						1
うきは市	1	1					1	1
佐賀白石町		1						1
新宮町		1						1
八女市	1	1					1	1
みやま市		1						1
壱岐市	1						1	
東峰村	1						1	
唐津市	1						1	
武雄市	1						1	
計	13	16	0	0	0	0	13	16

【就労支援課】

陶芸部門においては販売機会の少ない状況での制作であるために、よりお客様の身近になるような製品づくりを進めていった。まず、年度末の棚卸による在庫調査や従来の販売実績を考慮し生産計画を立てた。それにより従来よりも生産のペースを落とすことなどで調整し、更に「量より質」を求めていくことになった。また、従来職員が実施していた電気窯での素焼きの窯詰め、窯出しや撥水剤塗布などにも携わってもらい、作業の幅拡大と連携作業の習得に繋がっていった。

工芸部門では、製品の再評価や仕分けをし、制作自体は控えめになった。名札付けにおいては年々仕上がりも向上し、また利用者の意欲向上にも繋がるように1月より単価を50円上乘せした。同様に、利用者の励みに繋がるようにゆかり医療療育センターの職員玄関に12月に展示販売スペースを設置させて頂いた。

食品加工部門では、5月に前年度に発生した商品の容器膨張が確認され、再度出荷停止を行った。今回は、前回のような原料醤油の不具合ではなく、原因も不明だった為、検査機関に依頼し調査してもらった。原因は、たれの発酵であった。再発防止として製造方法などのアドバイスを受け、製造直後の冷却方法や常温販売から冷蔵販売へ変更した。

農作物部門では、今年も「絆・まごころ農園」で「ニンニク」、「米」、「季節の野菜」の生産を行った。販路も昨年同様、法人職員を対象に実施したが今年は利用者も袋詰めを行い、新たな作業になった。

陶芸教室は善道寺小学校から依頼があり、感染対策として分散型での実施で計画をしていたが、徐々に悪化していく感染状況により中止となった。

販売関連においては、出向販売は一度も実施することが出来なかった。その中で、委託販売においてお客様のニーズや販売動向を考慮した製品選定を行った。限られたスペースの中ではあるが、レイアウトなどを工夫し過去最高の売上の月もあった。

コロナ禍で利用者は状況を受け止めながらも、生産活動や、出向販売の件などで不安が多い。情緒面も含みながら、いかに励みになるような支援をしていくかが課題である。

1) 本年度の売上及び工賃支給状況は、別表(2)の通りである。

月	売上金額	工賃支給額
4月	794,693	204,370
5月	268,942	203,051
6月	599,066	204,495
7月	299,627	218,530
8月	301,679	202,775
9月	285,795	200,886
10月	975,294	201,242
11月	1,151,005	201,647
12月	531,464	210,189
1月	333,166	201,277
2月	334,494	200,584
3月	429,948	201,399
計	6,305,173	2,450,445

※ 本年度の工賃支給率は、38.8%

【生活支援課】

生活面においては、引き続き利用者様への外出や外泊の自粛をお願いしている。又、保護者様へも面会及び外泊の自粛をお願いして感染防止にご協力をいただいている。

又、今年度も、身障者スポーツ大会、盆踊り花火大会・運動会、個別支援計画における体験外出等が中止となり、さみしい思いもあったが、東京で開催されたオリンピック・パラリンピックでの日本選手の活躍を毎回テレビで観戦し、自分たちもがんばろうと、勇気がわいてきた。

利用者様には、外出や帰省等ができないため、ストレスがたまる方もおられることを考えて、職員は、利用者様の普段の様子を見ながら、自治会役員とも連携して対応している。これからも、利用者様が安全・安心・快適な生活ができるように支援して行きたい。

別表（３）入園期間別人員数及び平均入所期間

区分	1年未満	1-4	5-9	10-14	15-19	20年以上	計	平均
男	0	2	2	0	2	7	13	24年0ヶ月
女	0	0	1	2	1	12	16	29年8ヶ月
計	0	2	3	2	3	19	29	26年8ヶ月

別表（４）年齢区分別人員数及び平均年齢

区分	20歳未満	20-29	30-39	40-49	50歳以上	計	平均
男	0	1	2	2	8	13	52歳0ヶ月
女	0	0	0	1	15	16	60歳0ヶ月
計	0	1	2	3	23	29	56歳0ヶ月

別表（５）主な実施事項

月日	行事	月日	行事
4/15	開園記念行事	10/21	お楽しみ会
5/20	喫茶店	11/18	夕食会
6/17	夕食会	12/15	忘年会
7/20	ビデオ映写会	1/20	喫茶店
8/26	一日レクリエーション	2/17	食事会
9/16	夕食会	3/17	夕食会

4) 本年度実習生の受け入れ

介護等体験実習・保育実習Ⅰ

*新型コロナウイルス感染拡大対応の為に中止する

【看護課】

今年度も新型コロナウイルス感染症により、外出や外泊の中止など日常生活を余儀なく制限された1年であった。転倒での骨折者が1名、9月に高度な炎症所見で約2週間、精査入院治療、コロナワクチン接種2回目終了2名と3回目終了25名、肺炎球菌予防接種4名。年2回の健康診断は実施、年1回の口腔健診はコロナ禍で感染状況に応じて随時実施中。感染性胃腸炎やインフルエンザ罹患はなく、感染対策によるものと考えられる。利用者様の心身状態は、コロナ禍で我慢も強いられストレスも多い。感染対策への意識の向上を徹底しながらも、ストレスに対する体調の変化に対して迅速な援助が必要。加齢に伴う様々な症状や、介助を必要とする場面も増えており、事故防止の為、生活環境を見直し残存機能を考慮しながら、その人らしい生活ができる様な看護の提供に努めたい。

1) 月別受診人員数は別表の通りである。

2) 別表(6)月別受診人員数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
定期薬	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
臨時薬	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
循環器科	0	0	4	0	0	5	1	0	4	0	0	4	18
内分泌科	1	2	1	3	2	1	1	2	2	2	2	3	22
脳神経科	2	2	1	4	1	2	2	1	2	1	3	2	23
消化器科	2	1	0	0	1	0	0	2	0	1	1	0	8
一般内科	1	3	4	3	1	5	11	2	3	2	6	7	48
整形・外科	1	5	1	0	2	2	7	5	3	1	2	8	37
歯科	10	10	5	5	2	0	10	15	3	3	5	0	68
皮膚科	3	4	3	6	8	6	4	5	4	4	5	2	54
眼科	4	1	3	5	1	4	1	1	3	1	0	6	30
婦人科	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	1	9
精神科	1	2	2	2	1	1	2	1	1	1	2	1	17
入院	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
耳鼻科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【2021年度研修等出張記録】

期日(期間)	研修会名称	出張先	参加数
令和3年11/1~2	一般財団法人保健福祉振興財団 福岡支部 福岡県サービス管理責任者 更新研修	WEB研修	1
11/1	福岡県社会福祉協議会 感染症予防研修	WEB研修	1
令和4年 2/1	福岡県社会福祉協議会 福祉サービス苦情解決従事者研修会	WEB研修	1
2/7	全国社会福祉法人経営者協議会 社会福祉法人会計実務者決算講座	WEB研修	1
3/2	福岡県身体障害者施設協議会 令和3年度第2回施設長・職員研修会	WEB研修	1

千歳療護園

〈概況〉

本年度は、新型コロナウイルス感染症への対応が長期化するなか、東京オリンピック、パラリンピックが無観客で開催された。千歳療護園では、新型コロナ感染症拡大防止の一環として、職員全員に対し月2回のPCR検査を実施している。また、コロナワクチン接種については、利用者様は令和4年3月、職員は令和4年2月に3回目の接種を終了している。接種後、数名発熱したが3日後には解熱し、特に問題は見られなかった。

令和4年2月、職員のコロナ陽性者が確認され、利用者様及び職員全員にPCR検査を実施、全員の陰性が確認されたが感染拡大防止のため、千歳療護園は7日間の完全閉鎖となった。閉鎖に伴い、利用者様には入浴に中止や食事を含む日常生活全般を居室で過ごしてもらう等ご協力頂いた。また、施設をゾーニングし、職員は防護服着用で業務を行うなど感染拡大防止に努めた。しかし、認識不足や準備不足など多くの課題が残された。感染拡大防止対策の早期改善が必要であるため、多くの職員より意見や改善案を伺い精査し、ゾーニングの見直しなど感染拡大防止対策の強化を図った。

自然災害については、本年度は梅雨入りが5月15日と例年より早かったため、以前浸水した中庭はいつもより早い時期に砂囊壁を設置した。8月15日、線状降水帯の影響で九州全域、特に長崎、佐賀、福岡に数十年に1度あるかないかの大雨により警報が出された。久留米市でも至る所で冠水、床上浸水等の被害があった。幸い千歳療護園には被害はなかったが、障害者支援施設におけるBCP(業務継続計画)の策定を早急に検討する必要がある。

設備面では、7月シーホネンスのベッド6台の搬入あり、昨年度から合わせ、18台のベッドを使用している。11月には「眠りスキャン」導入、夜間帯に於いて急変する可能性のある利用者様に使用している。また、6月には、施設南側に「福岡県障がい福祉サービス等新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業」により多機能型簡易居室が完成している。

防犯については、9月26日早朝に不審者が法人正面玄関の自動ドアのガラスを割り侵入している。千歳療護園は被害等なかったが、今後の防犯対策として防犯カメラの増設を行うなど、防犯対策強化を検討している。

コロナ禍も3年目を迎え、まだまだ出口の見えない自粛生活が続いている状況であるが、利用者様が安全で安心して日々を過ごせるよう、職員一丸となり邁進していく。

<千歳療護園 総務課>

1. 本年度の各事業別利用状況

【施設入所支援：定員 40 名】

定員延数 14,600 名

年間実利用者数 14,274 名 定員から見た充足率 97.7%

1 日平均利用者数 39.1 名

【生活介護：定員 50 名（内、通所 10 名）】

入所：定員延数 10,480 名 年間延べ利用者数 10,222 名 充足率 97.5%

通所：定員延数 2,460 名 年間延べ利用者数 1,069 名 充足率 43.4%

【短期入所：定員 2 名】

年間延べ利用者数 72 名

【日中一時支援】

利用なし

【入院・外泊者】

入院延日数：356 日間 入院者：9 名

入院者 9 名のうち、1 名の方は令和 3 年 4 月 2 日から誤嚥性肺炎のため入院加療していたが、6 月 2 日に死亡退園された。

ここ数年は、利用者様の高齢化や身体機能の低下等により様々な疾患に罹患するリスクが高くなっているため、入院が長期化したり入退院を繰り返す傾向が窺える。尚、令和 4 年 3 月 31 日現在の入院者数は 0 名である。

外泊については、8 名の方が年末年始に帰省している。

【入所】2 名

【退所】3 名

2. 本年度の地域別入退園状況は別表（1）の通りである。

別表（1）本年度の地域別入退園状況

(パートナー係)

本年度、コロナウイルス感染症対策に伴い、計画をしていた希望外出等の計画は行えておらず、園内活動を中心に行っている。園内活動においては、日中活動・個別支援活動を中心に、昨年より継続して行っている屋外外出ドライブは、気分転換・ストレス緩和の一環として機能している。ドライブコースも設定している4パターンのコースを利用者様に選択して頂く工夫を取れ入れており、利用者様からも喜びの声が聞かれている。

園行事においてもコロナ感染対策を取りながら、ちとせ祭・花火鑑賞会・忘年会等を実施できている。

また、オンライン面会では、家族の姿を見ながら会話をする事で、普段よりも柔和な表情となる利用者様の姿をお見受けしており、外部とのコミュニケーション手段として活用できている。

生け花の活動に関しては、タブレット端末を使用し、先生による生け方の動画や説明を聞きながら行うオンライン形式を活用して実施している。

ネイルボランティア・出張散髪等の外部訪問に於いては、コロナ感染対策の為、自粛し職員対応にて行っている。

行政手続きにつきましては、2月に久留米市に住民票がある利用者男性14名、女性14名の計28名を対象に臨時特別給付金支給要件確認書の代行手続きを行っている。その他、受給者証・確定申告等の行政手続き代行も行っている。

保護者との連絡関係では、園生活状況を記載した状況調書、保護者への連絡書、小遣い帳複製書類作成、状況調書発送等の業務を行っている。

買い物代行につきましては、ご家族からの差し入れ等は少しずつ増えてきているが、買い物代行を利用する方が、平年に比べて増えてきている。

2週間に1度の利用者買物以外にも、インターネットショッピングを利用し、CD・DVD・嗜好品等、余暇時間の充実を図れるものを購入されている。

コロナウイルス感染症の影響大きく、今後も予断を許さない状況であるが、感染対策を念頭に置きながら、実施できる行事や外出計画等に取り組み、楽しい園生活を送って頂けるように活動計画を行っていききたい。

☆ 週生活表は別表(2)、年間実施行事は別表(3)の通りである。

(サポート係)

令和3年度の千歳療護園は生活介護50名(現在の入所実人数40名・通所13名)短期入所2名で構成されており、短期入院4名、退園2名、死亡退園1名、新規入所2名であった。利用者様の健康面に於いては、主に誤嚥性肺炎予防について看護課と協力し昨年同様、数名の利用者様を対象に、毎夕食後に吸引ブラシを使用し口腔ケアを行っている。しかし、今年度は誤嚥性肺炎のため入院された方が2名おられ検討した結果、吸引ブラシによる口腔ケアを昼、夕の2回実施する事になった。

夜間帯では、巡回時に利用者様の状態確認表を基に観察を行い、要観察の利用者様を把握しやすいよう居室の設置、またアクシデントの状況に応じたマニュアルを作成し緊急時に備えている。11月には眠りスキャンが6台導入され、夜間特に見守りが必要な利用者様に使用する事により睡眠時の体調変化等、素早く対応できるようにしている。

年末はコロナウイルスが緩和したことにより、条件付きで帰省許可も出ており、3名の方がご自宅へ帰省され、1名の方が外出されている。帰園後に抗原検査を行い、5日間は居室生活での対応となっている。1月末より再びコロナウイルスが勢いを増したことにより、蔓延防止等重点措置が発令される。そのため、3月現在、対面面会は自粛とし、タブレット端末を使用したオンライン面会のみを行っている。また、2月には職員からコロナウイルス陽性者が出たため、千歳療護園閉鎖となっている。閉鎖中はコロナウイルス感染症マニュアルに則り、職員全員防護服対応にて園内での消毒やゾーニング等を行い感染防止に努めた。利用者様、職員のPCR検査を行った結果、全員陰性であったことから閉鎖解除となっている。また、3回目のワクチン接種については、利用者様・職員の接種が完了し、利用者様に多数の方に副反応が見られたが、発熱以外は特に異常所見なく終了している。

行事では、コロナウイルスの影響により、盆踊り大会、運動会が中止となった。代わりに各施設での花火鑑賞会やレクリエーション大会が行われた。他にも納涼祭や忘年会と色々な行事が行われ、利用者様も大変喜ばれていた。また、日中活動では買い物外出を心待ちにされている利用者様も多くおられ、一日でも早くコロナウイルス感染症が収束することを願っている。

アクシデント報告は、24件と多く発生した。中でも転倒事故、骨折が多く他では外傷事故、誤薬、カテーテルの抜去が発生しており、今一度職員に意識向上と改善を図るため、グループに分かれ検討会を行い、利用者様一人ひとりの現状と問題点や解決策を提出しまとめている。コロナウイルス感染拡大防止のため、制限がある中での来年度は法人のテーマである「百万一心」を基に、百万のみんなの心を一つにし、何事も成し遂げられるよう一致団結し、協力することの大切さを忘れず業務にあたって行きたい。

(2) 訓練支援課

千歳療護園では、男性 22 名、女性 18 名、計 40 名の利用者様に対し、理学療法士 2 名(内 1 名兼任)で、利用者様一人あたり 1 回 40 分の個別訓練支援を週 1~2 回実施した。

支援内容としては、利用者様の機能の維持を心掛け、体力・筋力の維持、関節可動域の維持を目的に行った。具体的には、機能維持を目的として個別の能力に合わせた動作運動やバランス運動、筋力維持運動や、拘縮予防を目的として関節可動域維持運動を行った。筋緊張の強い利用者様には、ストレッチやマッサージにてリラクゼーションを行い筋緊張の緩和をはかった。身体に痛みがある利用者様には、ホットパックやマッサージを行い痛みの軽減・緩和に努めた。また、座位保持の維持や上肢の巧緻動作維持を目的に、パズルやトランプ、スキルスクリーン等の作製を取り入れた。

個別にかかわることで利用者様の希望・要望に沿えるよう心掛け、利用者様の話を傾聴し、気分転換に園周辺へ散歩に出かける等、コミュニケーションをはかりながらストレスの解消や情緒の安定をはかり、精神面から起きる機能低下防止にも心掛けた。

補装具全般の交付・修理申請手続きを行い、車椅子(普通型・ティルト・リクライニング・座位保持装置)・電動車椅子・下肢装具・靴型装具等の作製・修理にも携わっている。令和 3 年度では、車椅子の交付申請 1 件、修理申請 5 件、福祉用品の購入 3 件の手続きを行った。感染症予防対策のため補装具業者の来園等が制限され、交付・修理件数が例年よりも少なくなっている。

(訓練内容)

- 関節可動域運動
- 基本動作運動(寝返り・起き上がり・立ち上がり・立位保持・歩行等)
- 姿勢保持運動(座位バランス・立位バランス等)
- 日常生活動作運動(車椅子駆動・移乗動作等)
- 体力・筋力維持運動(腹筋運動・四つ這い運動・立ちかがみ運動等)
- 巧緻動作運動(パズル・ひも通し・スキルスクリーン等)
- リラクゼーション(マッサージ・ホットパック・メドマー等)

(3) 相談支援課

《概況》

令和 3 年度も、新型コロナウイルス感染症の為に、基本行動の 3 密（密集、密接、密閉）を避ける、マスク着用、こまめな手洗いと消毒、不要不急の外出を控える等の日常生活様式の継続をせざるを得ない年になった。5 月と 8 月に緊急事態宣言が発令、法人においても基本指針の見直しを策定し、それに沿った対応を行った。

12 月頃には、感染力の強いオミクロン株による感染が流行し、3 回目のワクチン接種の実施と、外出、外泊、面会等の自粛や法人行事が延期となる等、利用者様にとっては、ストレスの多い日々が続いている。

相談支援課は、これまで両施設兼務の前任者から千歳専属での業務に変わったが、支援内容は継続した。一般生活支援業務（食事、排泄、移動）、新たに散髪等の関わりを通して利用者様お一人おひとりの一日の生活の流れ、身体面、精神面、対人面などを把握し、個別活動を中心にコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めた。

新型コロナウイルス感染症の対策として、個別活動を中心に出来る範囲で近隣の東部運動公園までの散歩を実施するなどして、ストレス解消や気分転換を目的に支援を行った。終息の見えない新型コロナ対策の為に不平、不満を貯めつつ、閉塞感のある日常生活をするにあたって、心のバランスを保つことの難しさ、これまでなら我慢できていたことができずに感情的になってしまう、また知らず知らずのうちに心と体のバランスが崩れた感覚に陥った生活だったのではないだろうか。利用者様の要望に速やかに対応できる様に特に時間割は設定していないが、相談室の空間や関わりを通して、利用者様の話を聴く事に重点を置き、関係が密に繋がっているという事を利用者様に感じてもらい、穏やかな気持ちで生活できるように支援を行った。

（援助内容）

- ①面談活動（カタルシス）
- ②散歩療法（発散、リフレッシュ）
- ③表現療法（遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係）
- ④介護全般
- ⑤メンタルヘルス（ドライブ外出、カウンセリング）
- ⑥環境整備、その他

(4) 看護課

障害者支援施設に於て利用者様の高齢化に伴い、障害の重度化・重複化・疾病の多様化により、医療ニーズを抱える方も増加傾向であり、協力病院との連携が必要不可欠な状況である。また、近隣市町村で新型コロナウイルス感染症が長期化しており利用者・職員の身体面、精神面の負担も大きくなっている現状がある。今後、感染症への対応継続を図り、安心して過ごせる日常を取り戻せるよう努めていく。

《令和3年度》

① 委託入院	聖マリア病院	3件
	田主丸中央病院	7名
	ゆうかり医療療育センターともだち寮	1件
	ゆうかり医療療育センターおひさま寮	1件
② 医療ケア	膀胱瘻	2名
	経管栄養（胃瘻）	1名
	吸入	1名
	ストーマ	2名
	留置カテーテル	2名
	膀胱洗浄	1名
③ インフルエンザ予防接種		40名
④ 肺炎球菌予防接種		4名
⑤ 新型コロナウイルス予防接種		40名

⑥ 千歳療護園 年齢別入所者数 令和4年3月31日現在

年齢	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	合計
利用者	1人	3人	3人	16人	10人	7人	40人
(%)	2.5%	7.5%	7.5%	40%	25%	17.5%	100%

⑦ 千歳療護園 病類別入所者数 令和4年3月31日現在

病名	人数	病名	人数
脳性麻痺	30	脳脊髄膜炎	1
頭部外傷後遺症	1	脳挫傷後遺症	2
精神遅滞（重度）	1	クモ膜下出血後遺症	2
進行性ミオクローヌステんかん	1	重度知的障害	1
脳出血後遺症	1		

別表(1)

地域別入退園者状況表

令和3年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町	1			1		1	
	上 陽 町							
	大 木 町							
	広 川 町	1			1	1		
	那珂川町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	荻 田 町							
	筑 前 町							
	福 智 町							
	小 計	2			2	1	1	
市 福 祉 関 係	福 岡 市	2			2	1	1	
	北九州市	2			2	2		
	大牟田市	2			2	2		
	久留米市	10	1	1	10	6	4	
	直 方 市							
	飯 塚 市							
	田 川 市	2			2		2	
	柳 川 市	4		1	3	1	2	
	宗 像 市	1			1	1		
	八 女 市	2	1		3	1	2	
	筑 後 市							
	大 川 市	3			3	1	2	
	小 郡 市							
	筑紫野市	1			1	1		
	春 日 市	1		1				
	大野城市							
	糸 島 市	1			1	1		
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
	中 間 市							
	古 賀 市							
	うきは市	4	1		5	1	4	
朝 倉 市	2			2	2			
みやま市	1			1	1			
福 津 市								
	小 計	38	3	3	38	21	17	
	日 田 市							
	佐 賀 市							
	佐賀中部							
	小 計	0	0	0	0	0	0	
合 計		40	3	3	40	22	18	

別表 (2)

週 生 活 表

千歳療護園

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6 : 30	起床						
8 : 00	着替 ・ 洗面 ・ 移動 朝食						
9 : 00	移動 ・ 排泄 ・ 歯磨き (朝礼 ・ 申し送り) (寝具交換 ・ 掃除)						
9 : 30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	園長懇談会 (月最終日曜日)
10 : 30	訓	訓	訓	訓	訓	【生花】	
11 : 00	練	練	練	練	練		
12 : 00	昼食 移動 ・ 排泄 ・ 歯磨き						
13 : 30							
14 : 00	入浴 (女性) カラオケ 活動	入浴 (男性) 個別支援	入浴 (女 性) 個別支援	入浴 (男 性) 個別支援	入浴 (女性) 個別支援	入浴 (男性)	
15 : 00	訓 練	訓 練	訓 練	訓 練 ちとせ会 職員懇談会	訓 練		
16 : 00			暖和会				
	※入浴は、週 2 回と 3 回を隔週で行い、男女各 2 グループに分け、1 ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施						
17 : 00	夕食						
18 : 00	歯磨き (自立者一部)、後片付け、排泄						
19 : 00	着替え、自由時間						
20 : 00	歯磨き						
21 : 00	消 灯						
	<ul style="list-style-type: none"> ○月 曜 日 カラオケ活動 ○火 曜 日 個別支援活動、DVD 鑑賞、ネイルボランティア (月 1 回) ○水 曜 日 療育会議(外部講師・カンファレンス・園長講義)暖和会(第 2 週)、DVD 視聴活動、 個別支援活動 ○木 曜 日 ちとせ会・職員懇談会(第 2 週)、個別支援活動、DVD 視聴活動 ○金 曜 日 DVD 視聴活動、個別支援活動 ○月 行 事 体重測定(第一日曜)、出張散髪(最終月曜日) 利用者と園長懇談会(最終日曜 日) 利用者買物(2 週間に 1 回)、生け花(第 3 土曜日) ○隔 月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議) ※療育会議は、コロナウイルス感染対策の為に実施していない。						

別表 (3)

年間実施行事記録表

令和3年度

月	日	行事等	月	日	行事等
4	8	千歳開園記念行事	10	6	防災教育
	17	生け花		16	生け花(第二)
5	15	生け花(千歳)	11	4	レクリエーション大会(運動会代替え)
	20	安全対策防災教育		20	生け花(千歳)
				29	出張散髪(斉田)
6	19	生け花(第二)	12	9	浮羽消防署もち米贈呈式
	23	生け花(千歳)		11	生け花(第二)
	24	ちとせ祭		15	忘年会
				20	出張散髪(斉田)
7	17	生け花(千歳)	1	15	生け花(千歳)
	21	避難訓練		31	出張散髪(斉田)
8	10	第二千歳開園記念行事	2	10	避難訓練
	21	生け花(第二)		19	生け花(第二)
	26	納涼祭(盆踊り代替え)		28	出張散髪(斉田)
9	11	生け花	3	19	生け花(千歳)
	22	花火観賞		28	出張散髪(斉田)

【実習生受け入れ状況】

本年度の実習生受け入れは、コロナウィルス感染予防の為、中止している。

別表(4)

日常生活動作の介護状況(令和3年度)

生活動作	区分	男	女	計
食 事	自 立	1	0	1
	一部介助	9	12	21
	全介助	12	6	18
起 坐	自 立	4	4	8
	一部介助	6	7	13
	全介助	12	7	19
立ち上がり	自 立	2	2	4
	一部介助	7	8	15
	全介助	13	8	21
排 泄	自 立	1	0	1
	一部介助	6	10	16
	全介助	15	8	23
更 衣	自 立	3	0	3
	一部介助	0	8	8
	全介助	19	10	29
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	4	2	6
	全介助	18	16	34
歩 行	自 立	1	0	1
	一部介助	4	3	7
	全介助	17	15	32
寝返り	自 立	7	0	7
	一部介助	0	9	9
	全介助	15	9	24
車椅子使用	自 立	5	6	11
	一部介助	9	8	17
	全介助	8	4	12

生活動作	区分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	6	5	11
		2回	6	7	13
		3回	4	1	5
		4回	5	1	6
		小計	21	14	35
	服 薬	1回	9	5	14
		2回	0	0	0
		3回	0	0	0
		小計	9	5	14
	体位変換	1回	2	1	3
		2回	1	0	1
		3回	1	0	1
		6回	0	0	0
小計		4	1	5	
おむつ使用	昼・夜	5	1	6	
	夜間のみ	2	3	5	

- ・ 食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・ 排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・ 更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・ 入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部が出来る事。

(5) 通所支援課

障害者支援施設千歳療護園の通所事業として日中活動（生活介護）を実施した。現在、久留米市、うきは市、朝倉市を事業実施地域としてサービスを提供している。令和4年3月31日現在の、支援センター利用契約者様は14名で、内訳は下記の通りである。

久留米市	9名
うきは市	5名
朝倉市	0名

※現在、1名が家庭の事情により医療機関への入院の状態にある。支援センターとの契約はご家族様の意向もあり継続している。

今年度は、延べ 1,103名の方が利用され、1日平均4.5名の利用があった。内訳は下記の通りである。

久留米市	500名
うきは市	611名
朝倉市	0名

延べ利用人数は前年と比較すると385名の減となった。

今年度は、新型コロナウイルス感染症により見学や支援学校の実習が困難な状況だったが、来年度利用予定として2名の利用者様を獲得することができた。契約者様は11月に通所から入所へ変わられた方があり14名となる。現在20歳から69歳(男性7名女性7名)の方が利用している。

☆障害支援区分、主たる起因疾患別年齢表は、別表(A)の通りである。

☆月別・市別利用者数表は、別表(B)の通りである。

今年度も、昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響により5月7日から6月13日、8月20日から9月30日には緊急事態宣言が発令され感染症対策を行いながら通所業務を行う。まず、緊急事態宣言中は1日の利用人数が7名以上の曜日については、利用日数の多い利用者様のご家族に緊急事態宣言中利用日数を減らすご協力をお願いし、1日5～6名の利用者様での通所を行う。この間は、休んで頂いた利用者様には電話で心身の状態と生活状況を確認し記録を残す。感染症対策としてマスク着用をお願い、送迎時は朝の検温・移動時の換気千歳に到着後の手指消毒の徹底。検温時に37.5℃以上の時には利用を控えて頂く。日中は、室内換気・人との間隔を

空けて過ごしていただきテーブルには飛沫防止のパーティションを置いて対応し活動や創作活動、個別的機能訓練を実施した。また、発熱があった場合は解熱後24時間の様子観察後、風邪症状等なければ利用を再開して頂く事をご家族にお願いした。送迎終了後は、室内・トイレ・送迎車内の清掃と消毒を行い緊急事態解除後は、利用人数は通常に戻し対応については継続して業務を行った。

1月20日より、新型コロナウイルスオミクロン株の大流行の影響と職員の陽性者発生があり通所業務が約1か月半中止となる。その間は入所業務を行い利用者様には電話で心身の状態と生活状況を確認し記録を残す。2月後半にうきは方面の利用されているご家族より、相談事業所へ入浴についての相談があり事業所内のゾーニングと利用前の抗原検査を行ってもらい、入浴のみの事業を行う。

3月7日より、利用日数を減らしての再開にご協力頂き通所業務を行う。

介護保険の共生型サービスは継続して行っている。介護認定の変更により要支援から要介護になり通所介護での利用となられる。

本年は、他施設との交流を行う事が難しくまた、活動についても密を避ける為の対応が難しかった。天気の良い日には散策を行ったが、室内での対応が多くなった。

日中活動の支援内容

○身体介護 食事、入浴、排泄、移動、移乗介助

○創作的活動、文化的活動、社会適応訓練（個別活動・グループ活動）

<手工芸>

- ・ 折り紙細工 花 小物 輪飾り
- ・ 小物づくり 編み物 キーホルダー
- ・ 造形 紙、布、ボタン、テープや毛糸、木の実など様々な材料を利用
- ・ ジグソーパズルなど

<習字、読み、書き> 毛筆、読み書き練習、模写 作詞 詩

<制作> 貼り絵 自由画、ぬり絵、折り紙制作など

<外出> ドライブ

○機能訓練

日常生活動作訓練、四肢他動・抵抗運動、器具運動、積み木、紐通

○スポーツ、趣味娯楽活動

ポケネット、輪投げ、ナンバーストライク、トランプ、オセロ、ジェンガ、ビー玉・おはじき、DVD鑑賞など

○更生相談

利用者様の要望や必要に応じて医療、福祉、介護等の相談を行っている。

別表 (A) 令和3年度

障害支援区分表

千歳療護園 通所支援課

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
19歳以下						
20～29			1	1	3	5
30～39					1	1
40～49			1		2	3
50～59			1	1	2	4
60～64						0
65歳以上		1				1
計		1	3	2	8	14

主たる起因疾患別年齢表

病名 年齢	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	合計
	脳性麻痺	脳血管障害	脊髄損傷	頭部外傷	特定疾病	特定疾患	リウマチ	進行性筋萎縮症	その他	
(1)19歳以下										0
(2)20～29	5									5
(3)30～64	2	1			2			1	2	8
(4)65歳以上		1								1
合計	7	2			2			1	2	14

別表 (B) 令和 3 年度 月別・市別利用者数表

千歳療護園 通所支援課

月	利用日数	利用者数	1日平均
4	21	123	6.2
5	18	43	2.3
6	22	107	4.8
7	20	131	6.5
8	20	99	4.9
9	20	72	3.6
10	21	122	6.8
11	21	110	5.2
12	21	125	5.9
1	19	67	3.5
2	19	33	1.7
3	22	71	3.2
計	241	1103	4.5

月	久留米市			うきは市			朝倉市		
	全体	男	女	全体	男	女	全体	男	女
4	53	25	28	78	35	43	0	0	0
5	22	10	12	21	13	8	0	0	0
6	47	16	31	60	29	31	0	0	0
7	55	24	31	76	36	40	0	0	0
8	35	15	20	64	31	33	0	0	0
9	26	11	15	46	21	25	0	0	0
10	62	28	34	60	23	37	0	0	0
11	57	25	32	53	32	21	0	0	0
12	65	25	40	60	35	25	0	0	0
1	32	10	12	35	22	13	0	0	0
2	17	8	9	16	11	5	0	0	0
3	29	6	23	42	24	18	0	0	0
計	500	203	287	611	312	299	0	0	0

令和3年度 出張報告

日付	出張用件	出張先	参加数
4/13	障害福祉部事務局会議	WEB	1名
4/15	施設協連絡会 会長会議	WEB	1名
	九障協 理事会	WEB	2名
4/20	県経営協 総務委員会	WEB	1名
4/27	九障協施設長リーダー職員研修会「デジタル」配信に於ける事前打合せ	WEB	1名
4/28	九社連 委員長会議	WEB	1名
4/30	厚生労働省課長との意見交換会	WEB	1名
5/11	常任協議員会	WEB	1名
5/18・27	県社協 新任職員研修	WEB	1名
5/19	県経営協 協議員会	WEB	1名
5/19・28	県社協 新任職員研修	WEB	1名
5/20	施設協連絡会 会長会議	WEB	1名
5/25	身障協 協議員総会	WEB	1名
5/26	県身障協 役員会	WEB	1名
	テクノエイド協会 理事会	WEB	1名
5/27	福障協 施設長会	WEB	2名
5/31	身障協 正副会長会議	WEB	1名
6/4	全社協 理事会	WEB	1名
6/10	県身障協 経営者セミナー	WEB	1名
6/15	全国大会(福岡大会)実行委員会	WEB	2名
6/17	施設協連絡会 会長会議	WEB	1名
	働き方改革セミナー	WEB	2名
6/22	全社協 理事会	WEB	1名
6/22・29	県社協 中堅職員研修	WEB	1名

6/29	県知障協 施設長・職員研修会(BCP)	WEB	1名
7/1	福利厚生センター 理事会	WEB	1名
7/1・8	福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程コース (チームリーダーコース)	WEB	1名
7/2	ストレスマネジメント研修(中堅職員研修)	WEB	1名
7/7	経営協 九州ブロック会議	WEB	1名
7/9	ストレスマネジメント研修(管理職員研修)	WEB	1名
7/13	県経営協 総務委員会	WEB	1名
7/14	全国大会(福岡大会)実行委員会	WEB	2名
7/15	施設協連絡会 会長会議	WEB	1名
7/20	総務広報委員会	WEB	1名
7/21	制度予算対策委員会	WEB	1名
7/22	感染症予防研修(前期)	オンデマンド	1名
7/27	身障協 権利擁護委員会	WEB	1名
7/27	九障協 サービス向上委員会	WEB	2名
7/29	災害支援ネットワーク協議会	WEB	1名
7/30	地域生活支援推進委員会	WEB	1名
7/15~31	九障協 施設長・リーダー職員研修会	オンデマンド	8名
8/9・10	福岡県相談支援従事者初任者研修	WEB	1名
8/19	施設協連絡会 会長会議	WEB	1名
	障害関係団体 会長会議	WEB	1名
8/25	九障協 サービス向上委員会	WEB	2名
8/30	福岡県との意見交換会	WEB	1名
8/31	身障協 正副会長会議	WEB	1名
	厚生労働省との意見交換会	WEB	1名
9/2	県身障協 施設長・職員研修会	WEB	3名
9/15	九障協 理事会	WEB	2名
9/16	施設協連絡会 会長会議	WEB	1名

9/22	労務管理研修(労務管理コース)	WEB	1名
9/27	県社協 会計担当者研修(初心者コース・基礎編)	WEB	1名
9/30	労務管理研修(リーダーシップ向上コース)	WEB	1名
10/5	九障協 サービス向上委員会	WEB	2名
10/6・7	コーチング研修	WEB	1名
10/13	全国重症心身障害児者施設職員研修 (栄養士・調理師コース)	WEB	1名
10/18	県経営協 会計・財務入門講座	WEB	1名
10/21	施設協連絡会 会長会議	WEB	1名
	障害関係種別 会長会議	WEB	1名
	リスクマネジメント研修(経営管理者コース)	WEB	1名
10/22	リスクマネジメント研修(指導者・管理職員コース)	WEB	1名
10/25	福障協 幹事会・施設長会	WEB	2名
10/27	感染症予防研修(後期)	WEB	1名
11/1	九障協 サービス向上委員会	WEB	2名
11/2	福障協 サービス向上委員会	WEB	2名
11/5	福利厚生センター 理事会	WEB	1名
	権利擁護・虐待防止セミナー	オンデマンド	1名
11/9	アンガーマネジメント研修	WEB	1名
11/10	正副会長会議	WEB	1名
11/12	九障協 サービス提供職員研修会	WEB	3名
11/17	ふくおかライフレスキュー事業 フォローアップ研修	WEB	1名
11/18	全国大会(福岡大会)実行委員会	WEB	2名
	全社協 理事会	WEB	1名
	施設協連絡会 会長会議	WEB	1名
11/19	「報・連・相」強化研修	WEB	1名
11/25・30	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 (初任者コース)	WEB	1名
11/26	ライフレスキュー久留米連絡会定例会	久留米市	1名

12/3	九障協 理事会	WEB	2名
	広報力強化研修	WEB	1名
12/7・8	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 (中堅職員コース)	WEB	1名
12/9	施設長実学講座「基礎から学ぶ会計実務」	WEB	1名
12/10	福障協 幹事会・施設長会	WEB	2名
12/16	施設協連絡会会長会議	WEB	1名
12/16・21	業務改善研修	WEB	1名
12/22	全国大会(福岡大会)実行委員会	WEB	2名
12/22・23	頸髄損傷者に対するリハビリテーション研修会	オンデマンド	1名
12/23・24	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 (中堅職員コース)	WEB	1名
12/27	正副会長会議・委員長会議	WEB	1名
1/18	常任協議員会・厚生労働省意見交換会	WEB	1名
	接遇マナー向上研修	WEB	1名
1/19	事業継続計画(BCP)策定支援研修	WEB	1名
1/20	施設協連絡会 会長会議	WEB	1名
	施設長実学講座	WEB	1名
	記録技術研修	WEB	1名
1/24	福岡県スポーツ協会会議	WEB	1名
1/28	利用者・家族とのコミュニケーション力向上研修	WEB	1名
1/29	福祉スキルアップ研修	WEB	1名
2/1	自民党ヒアリング	WEB	1名
2/2	福障協 職員研修会	WEB	6名
2/8	公明党ヒアリング	WEB	1名
2/10	福祉サービス苦情解決従事者研修会	オンデマンド	1名
2/16	九障協 理事会	WEB	2名
2/16・17	福岡県サービス管理責任者実践研修	WEB	1名
2/17	施設協連絡会 会長会議	WEB	1名

2/22	常任協議員会	WEB	1名
2/24	テクノエイド協会 理事会	WEB	1名
2/25	九州障害者支援施設研究大会	WEB	10名
2/28	九社連 各県会長会議	WEB	1名
3/1	県経営協 協議員会	WEB	1名
3/2	県身障協 施設長・職員研修会	WEB	5名
3/4	身障協 協議員総会	WEB	1名
3/7	県身障協 役員会	WEB	1名
3/9	給食関係者合同研修会	WEB	1名
	説明力向上研修	WEB	1名
3/10	業務目標の設定・管理・達成研修	WEB	1名
	事業継続計画(BCP)策定支援研修	WEB	1名
3/14	県経営協 総会	WEB	1名
	県経営協 経営者セミナー	WEB	1名
3/16	福利厚生センター 理事会	WEB	1名
3/17	施設協連絡会 会長会議	WEB	1名
3/24	福障協 幹事会・施設長会	WEB	1名

第二千歳療護園

《概況》

今年の新語・流行語大賞の年間大賞は「リアル二刀流／ショータイム」、また、今年の新語は「金」が選ばれ、その他に「ゴン攻め／ビッタビタ」、「スギムライジング」、「人流」や「輪」、「楽」、「希」等が流行語や今年の新語の候補にあがっており、アメリカ・メジャーリーグの大谷翔平選手の大活躍や、過去最多の金メダルを獲得した東京オリンピックやパラリンピックでの日本選手団の活躍が反映されたもので、長引くコロナ禍で暗い話題の多かった国内に元気と希望を与えてくれたが、年末からオミクロン株による新型コロナウイルス感染者の急増、冬期パラリンピック閉会後から始まったロシア軍によるウクライナ侵攻など世界的に不穏な状況の終息が予測できない年であった。昨年引き続き法人の「新型コロナウイルス感染予防対策基本指針」の下、利用者様やご家族に面会、外出、外泊自粛、禁止等への協力、また職員に対しても、県外をまたぐ不要不急の外出、外食、会食等の自粛、行動履歴の記録実施等の負担を強いる事となり、今年度も恒例行事の盆踊り花火大会や運動会をはじめ、施設内の外出行事は全て中止せざるを得ない状況となった。しかし、利用者様、ご家族、職員の理解と協力のおかげで、これまで利用者様には一人として感染者を出すことなく生活を送ることができている。コロナ感染者が減少傾向となった昨年の夏以降は、短時間ではあるが施設内でパーテーション越しの対面での面会を実施することができていたが、オミクロン株による新型コロナウイルス感染者の増加に伴い施設内での面会禁止、外泊や帰省の自粛をお願いすることとなり、職員や職員家族にも感染者が出て施設閉鎖、自宅待機職員の増加で、入浴や日中活動の中止など利用者様のサービス提供においても負担をかけることになった。

行事においては昨年同様、法人行事の盆踊り花火大会、運動会は中止となったが、レクリエーション委員会や日中活動委員会が中心となり、感染予防対策を行いながら利用者様のストレス解消を図り、楽しんで頂ける行事やレクリエーションを企画してきた。

権利擁護・障害者虐待防止法・障害者差別解消法については、インカムの使用を継続しており、夜間帯でのコール対応についても同性での対応を心掛け、完全な同性介助の実現に向け努力している所である。

職員の腰痛・離職問題については、昨年度に続き3モーター電動ギャッジベッドを6台導入、浴室と脱衣室の天井走行リフト、床走行リフトも有効的に使用していただいております。トイレでリフト使用を希望する利用者様も多く、新たにトイレ用スリングシート2枚、床走行リフトリフト1台を導入、またスライディングボードも

3 枚導入し、起床時、就寝時、入浴時に使用して利用者様、職員に好評を得ており、利用者様への安心安全な介護の提供、職員の負担軽減を行ってきた。今後も福祉機器を使った利用者様の介護時の身体への負担軽減及び安心・安全の確保、職員の負担軽減、介護スキルの向上、いつまでも働くことのできる施設を目指すべくノーリフトケアに向けた取り組みを継続していきたい。

利用者様の高齢化、重度化に伴い急変時への対策として、5 台導入している見守り支援システム『眠りスキャン』についても来年度追加導入する予定で、夜間帯に急変の可能性がある利用者様に使用して頂き、異常の早期発見・対応、夜間勤務職員の負担軽減を図っていきたい。また濃厚な医療的ケアが必要な利用者様も年々増加しており、誤嚥性肺炎で入退院を繰り返していた 2 名の利用者様については施設での医療的ケアの対応が困難となったために退所となり、新たに 2 名の新しい利用者様が利用開始となっている。今後も長期入院者を出さないよう口腔ケアによる誤嚥性肺炎予防、異常の早期発見、早期治療を徹底し、利用者様に安心して生活を送っていただけるようなサービス提供を行っていかねばならない。

未だに新型コロナウイルスの終息時期が見通せない中、今年のゆかり学園のスローガンである「百万一心 ～WITH コロナ、心を一つに守ろう、一人一人の大切な命」を支えとして法人全体がひとつになって、この状況を乗り切らなければならないと思う。

総務部

<第二千歳療護園 総務課>

1. 本年度の各事業別利用状況

【施設入所支援：定員 40 名】

定員延数 14,600 名 年間実利用者数 14,293 名 充足率 97.9%、

1 日平均利用者数 39,2 名

【生活介護：定員 40 名】

定員延数 10,440 名 年間延べ利用者数 10,221 名 充足率 97.9%

【短期入所：定員 2 名】

1 名の利用者様が、年間延べ 4 日間利用。

【日中一時支援】

利用なし

【入院・外泊者】

入院者数 7 名、入院延日数 160 日間。

外泊者数 1 名、外泊日数 2 日

入院状況として入院者 7 名のうち 4 名の利用者様が誤嚥性の疾病に罹患されている。利用者様の高齢化や障害の重度化、身体機能の低下等により様々な疾患

にかかるリスクが高くなり、一度入院されると長期化したり、入退院を繰り返す傾向が窺えた。

外泊についてはコロナ禍において感染予防を徹底して頂くことをお願いし1名の方が年末年始に帰省されている。

尚、令和4年3月31日現在の入院者は0名である。

【入所・退所】

令和3年4月1日付、1名入所。

令和3年6月29日付、1名入所。

令和3年4月12日付、1名退所（医療施設へ）。

令和4年1月22日付、1名死亡退所。

退所者2名による減数145日間。

2. 本年度の地域別入退所者状況は別表（1）の通りである。

別表（1）本年度の地域別入退園状況

生活部

（1）生活支援課

[パートナー係]

個別支援計画のニーズを中心に利用者様の立場に立った利用者様本位のサービス提供を基本において、月一回の自治会役員との話し合いの場（ちとせ会）を通して、利用者様の自主性、選択制、対等性を尊重しながらサービス提供を行ってきた。

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大により利用者様のニーズとして最も楽しみとされている外出（買い物・食事）ができず、2週間に1回の買い物代行、ネットでの購入にとどまっている。ご家族との面会も一時中止とさせていただき、オンラインでの面会を予約にて行っている。外部と遮断された状態が続く中、様々な行事も中止となっているが、その様な状況の中でも利用者の皆様には少しでも気分転換となるよう、また安心して楽しんでいただける様に感染対策をしながら日中活動としてビデオ視聴、カラオケ、個別活動を継続する他に試行錯誤しながら各委員会で行事を行っている。（花火鑑賞・開園記念・納涼祭・レクリエーション大会・忘年会・お楽しみ会・ドライブ外出など）

今年度もネイルボランティアをはじめ理・美容の訪問もご遠慮いただいているが、活動として行っている月一回の生け花はタブレット端末を使用し、先生による生け方のポイントや手順の説明をお聞きしながらオンラインにて実施し、利用者様にも大変好評であった。完成した作品は千歳、第二千歳、渡り廊下等に飾り、季節の花

を皆様に楽しんでいただいている。

ここ数年、利用者様の高齢化に伴い医療的ケアを要する利用者様も増え、入院時支援、入退所に伴う手続きを今年度も行っている。

ゆうかり学園新型コロナウイルス感染予防対策基本指針に沿って感染予防対策を行う中、一時中止とさせていただいている面会も今後の見通しが立っておらず、ご家族様には園内での生活の様子など少しでも安心していただける様、定期的な状況調書の発送の他にも写真や動画など、工夫しながらお伝えしていけたらと考えている。不安なく安心した生活を送っていただける様、最善の努力をしていきたい。

☆週生活表は別表(2) 年間実施行事は別表(3)の通りである。

(サポート係)

施設入所支援 40 名、生活介護 40 名、短期入所 2 名。現在、男性 21 名、女性 18 名（最少年齢 35 歳、最高年齢 79 歳、平均年齢 59 歳、退園 2 名、入園 2 名、3/31 現在）の方の日常の生活介護・精神的支援、個別のニーズに沿った支援を行った。

今年度も、サービス管理責任者を中心に、利用者様の自立支援を目標に、ケアプランの作成・実施・検討を行いながら日々の支援を行った。

今年度、第二千歳療護園は開設 7 年を迎え、利用者様の平均年齢も 59 歳となり、加齢に伴い身体の機能低下も著しく見られ、介護や医療を必要とする場面が多くなって来ている。健康維持(誤嚥性肺炎予防など)を目的とした口腔ケアの実施を継続して行った。

新型コロナウイルス感染予防に於いては、ゆうかり学園新型コロナ感染予防対策基本指針の下に利用者様の命を守るための対策を行った。利用者様に於いては、新型コロナのワクチン接種(39 名)を 3 回実施したが、特に大きな副反応は観られなかった。感染防止対策としては、食堂テーブルパーテーション、手指消毒の徹底、職員の食事支援時用エプロンを使い捨てに変更、排泄物汚染リスク場面でエプロン着用、感染症用自動おしぼり機、コロナ対応時のゾーニング用パーテーションの設置、コロナ感染時等に使用出来る多目的簡易居室の施工、などコロナ感染防止対策に万全を尽くした。

利用者様の面会については、コロナ感染状況を見ながら慎重に行い、パーテーション越しの対面面会や、玄関での窓越し面会、オンライン面会、など感染対策を万全に実施した。年末年始の自宅帰省については、慎重に協議を重ね、地域での感染状況も減少していたため、希望者のみ期間を限定して行った。

福祉機器に於いては、ICT、IOT 活用による業務効率化を目的として、コロナ感染予防対策による面会の自粛期間も長くなり、その対応としてタブレットによるオ

ンライン面会に活用、遠方のご家族など好評を得ている。また、眠りスキャン（5台）を導入、高齢の利用者様および健康観察が必要な方に使用し、ベッド就床時での、体動（呼吸、心拍など）の測定や睡眠状態が把握でき、生活リズムの改善や健康状態の把握が出来た。電動ギャジベッドも6台（計18台）、また、床走行リフトも一台（計2台）導入し、床走行リフトの更なる有効活用目的でトイレ用スリングシートを導入し利用者からも好評を得ており、利用者の身体への負担軽減および職員の腰への負担軽減に努めた。

働き方改革での業務見直しとして、電動アシスト式温冷配膳車を導入した。前機では、職員2名で運搬を行い、かなりの重労働であったが、新機は電動アシスト式である為、職員1名での運搬が可能となり、残りの職員が利用者様への支援を行う事が出来、大きな業務改善に繋がった。

法人の恒例行事である盆踊り大会および運動会がコロナ感染症を考慮し中止となったが、レクリエーション委員会及び日中活動委員会を中心に多くの行事を企画し開催した。開園記念、夏祭り風納涼祭（盆踊り代替え）、花火鑑賞、レクリエーション大会（運動会代替え）、忘年会など、恒例の行事に加え工夫を凝らした行事に利用者から好評を得た。個別活動も、コロナ感染対応等で実施できない事も多かったが、コロナ禍でストレスを抱えている利用者の気分転換を図る目的で施設周辺へのドライブ外出や屋外散歩を実施し、楽しんで頂いた。

環境衛生委員会による定期的な花苗の植替えは利用者も楽しみにされており恒例活動となっている。

今後も多様化してくる利用者様のニーズに応えるべく、全職員で支援に取り組んで行きたい。

(2) 訓練支援課

第二千歳療護園においては、利用者様39名（男性21名・女性18名）に対し、理学療法士1名（兼任）・訓練支援員1名で訓練を実施した。

利用者様1人あたり1回の訓練時間を40分とし、身体状況によって週1～2回実施した。個別に関わり状況に応じて居室を使用するなど、充実した訓練内容となるよう支援を行った。

訓練内容については、利用者様の高齢化に伴う身体機能の低下がみられるため、主に体力・筋力・バランス能力の維持、残存機能の維持、関節可動域の維持、拘縮の予防、痛みの軽減等を目的として実施した。訓練を行いながら利用者様の思

いや不満に傾聴することで、ストレスの解消や情緒の安定にも務めた。また利用者様の希望される、折り紙や塗り絵等の制作活動や、バッティング、キャッチボールといった体を動かす活動、オセロやトランプ、パソコン(インターネット検索)等の趣味活動、散歩(屋内外)を行うことで、訓練時間をより楽しいものと感じていただけるよう関わり、訓練への参加意欲向上を図った。

補装具の交付修理申請については、車椅子支給申請 1 名、修理申請 2 名、福祉用具購入 2 名について実施した。感染症予防のため車椅子業者の施設内立ち入りが制限され、車椅子作製や修理、姿勢保持テーブル・クッション等の補装具作製が思うように出来ていない。

(訓練内容)

- 関節可動域訓練
- 体力、筋力、バランス能力訓練
(腕立て、腹筋、背筋、スクワット、チューブトレーニング等)
- 巧緻動作訓練(パズル、はめ絵、折り紙等)
- 姿勢保持訓練(立位、座位バランス等)
- 日常生活動作訓練(車椅子移動、移乗動作等)
- 歩行訓練(歩行器歩行)
- 趣味活動(バッティング、ゲーム、パソコン等)
- リラクセーション(マッサージ、ストレッチ、プロンキーパー等)

(3) 相談支援課

《概況》

令和 3 年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努め、3 密(密集、密接、密閉)を避ける、マスク着用、こまめな手洗いと消毒、不要不急の外出を控える等、感染対策に沿った生活様式を継続している。3 回目のワクチン接種も希望をされた利用者様、職員は全て 3 月中に完了した。久留米市とその周辺地域の感染状況を踏まえ、パーテーション越し面会を実施したが、感染者が増加すると自粛をお願いするなど利用者様、ご家族様にとっては、ストレスや不

安の多い日々が続いている状況にあると推測できる。

相談支援課は、一般生活支援業務（食事、入浴、排泄、移動等）での関わりを深めながら利用者様お一人おひとりに合った関係を築くことに努めた。また、利用者様お一人おひとりと個別活動や集団活動を通してコミュニケーションを図り、更なる信頼関係の構築にも努めた。

感染状況に応じ少人数でのグループ活動(読み聞かせ、茶話会)を再開していたが、年が明けてから久留米市でも感染者が急増し施設内を閉鎖する事態が発生したため、集団活動を自粛し、お一人おひとりの居室訪問による個別活動を中心に対応し、ストレス解消や気分転換を目的に支援を行い穏やかな気持ちで生活できるように支援を行った。

【援助内容】

- ①面談活動（カタルシス）
- ②散歩療法（発散、リフレッシュ）
- ③表現療法（遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係）
- ④ポジショニング(リラクセーション、慢性痛の軽減、QOLの拡大等)
- ⑤前頭前野活性化法(読み聞かせ等)
- ⑥介護全般
- ⑦メンタルヘルス（外出、カウンセリング）
- ⑧環境整備、その他

(4)看護課

障害者支援施設においては、利用者様の高齢化に伴い、障害の重度化・重複化・疾病の多様化により、医療ニーズを抱える方も増加傾向であり、協力病院との連携が必要不可欠な状況である。また、近隣市町村で新型コロナウイルス感染症が長期化しており利用者・職員の身体面、精神面の負担も大きくなっている現状がある。今後、感染症への対応継続を図り、安心して過ごせる日常を取り戻せるよう努めていく。

《平成3年度》

① 委託入院	田主丸中央病院	4件
	聖マリア病院	2件
	久留米大学病院	1名

②医療的ケア

経管栄養（胃瘻）	3名
吸引	1名
吸入	1名
膀胱瘻	1名
留置カテーテル	2名

③インフルエンザ予防接種 38名

④肺炎球菌予防接種 1名

⑤新型コロナウイルス予防接種 39名

⑥第二千歳療護園 年齢別入所者数 令和4年3月31日現在

年齢	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	合計
利用者	0人	1人	4人	16人	7人	11人	39人
(%)	0%	2.56%	10%	41%	17.9%	28.2%	99.66%

⑦第二千歳療護園 病類別入所者数 令和4年3月31日現在

病名	人数	病名	人数
脳性麻痺	28	頭部外傷後遺症	1
先天性骨発育不全症	1	糖尿病	1
脳梗塞後遺症	1	脳出血後遺症	1
脳炎後遺症	1	精神発達遅滞	1
白内障術後無水晶体眼・左眼球萎縮	1	精神発達遅滞（重度）	1
クーゲルベルグ・ヴェランダー病	1	難治性統合失調症	1

別表(1)

地域別入退園者状況表

令和3年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町							
	上 陽 町							
	大 木 町	2			2	1	1	
	上 毛 町	1			1	1		
	那 珂 川 町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	苅 田 町	1			1	1		
	筑 前 町	1			1	1		
	福 智 町	1			1		1	
小 計	6			6	4	2		
市 福 祉 関 係	福 岡 市	3			3	2	1	
	北九州市	1		1	1			
	大牟田市							
	久留米市	10	1		11		6	
	直 方 市							
	飯 塚 市	2			2	1	1	
	田 川 市							
	柳 川 市	1			1		1	
	宗 像 市							
	八 女 市	1			1	1		
	筑 後 市							
	大 川 市	1			1	1		
	小 郡 市	1			1		1	
	筑紫野市	2			2	1	1	
	春 日 市							
	大野城市							
	糸 島 市							
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
中 間 市								
古 賀 市								
うきは市	4			4	1	3		
朝 倉 市	4		1	3	3			
みやま市	3			3	2	1		
福 津 市								
小 計	33	1	2	32	17	15		
県 外	鳥 栖 市		1					
	日 田 市							
	佐 賀 市							
	佐賀中部							
小 計		1						
合 計		39	2	2	39	21	18	

別表 (2)

週 生 活 表

第二千歳療護園

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6 : 30	起床 着替 ・ 洗面 ・ 移動						
8 : 00	朝食 移動 ・ 排泄 ・ 歯磨き						
9 : 00	(朝礼・申し送り) (寝具交換・掃除)						
9 : 30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	フリー
10 : 30	訓練	訓練	訓練	外出	外出	【生花】	
11 : 00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練		
12 : 00	昼食 移動 ・ 排泄 ・ 歯磨き						
13 : 30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	
14 : 00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	
15 : 00		定期診察 暖会和	療育会議 外出 園長懇談会	外出 ちとせ会 職員懇談会			
16 : 00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練		
16 : 20	※入浴は、週 2 回と 3 回を隔週で行い、男女各 2 グループに分け、1 ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施						
17 : 00	夕食						
18 : 00	歯磨き (自立者一部)、後片付け、排泄						
19 : 00	着替え、自由時間 歯磨き (介助者) 歯磨き (自立者)						
20 : 00							
21 : 00	消 灯						
	○ 月 曜 日 ビデオ視聴・個別活動・製作活動・ドライブ外出・レクリエーション (月～土) ○ 火 曜 日 利用者買物(隔週)・暖会和(第 2 週)・ネイルボランティア(今年度は中止) ○ 水 曜 日 買物外出、療育会議(コロナ感染予防対策のため今年度は全て中止) ○ 木 曜 日 買物外出、ちとせ会・職員懇談会(第 2 週) 午後カラオケ ○ 金 曜 日 ビデオ視聴・個別活動・制作活動・レクリエーション ○ 土 曜 日 生け花(第 3 週、千歳と交互に実施) ○ 日 曜 日 体重測定 (第 2 日曜) ○ 月 行 事 出張散髪(第一週火曜日、最終月曜日)、園長との懇談会(水曜日又は木曜日) ○ 隔 月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議)						

別表 (3)

年間実施行事記録表

令和3年度

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等
4	1	千歳開園記念日	10	6	防災教育
	7	園外散歩		7	カラオケ 散髪(職員)
	8	レクリエーション		14	散髪(職員)
	15	カラオケ		16	生け花
	30	カラオケ		28	カラオケ
5	13	散髪(職員)	11	4	レクリエーション大会(運動会代替え)
	20	防災教育		11	散髪(職員)
				17	カラオケ 散髪(職員)
				29	出張散髪(さいだ)
6	1	散髪(職員)	12	1	カラオケ
	2	カラオケ		11	生け花
	19	生け花		15	忘年会
	24	ちとせ祭		20	出張散髪(さいだ)
7	8	カラオケ	1	19	カラオケ
	21	避難訓練			
8	1	第二千歳開園記念日(7周年)	2	19	生け花
	5	カラオケ			
	10	散髪(職員)			
	21	生け花			
	24	散髪(職員)			
26	納涼祭(盆踊り代替え)				
9	2	散髪(職員)	3		
	10	散髪(職員)			
	22	花火鑑賞			
	29	散髪(職員)			

※ 令和三年度、新型コロナウイルス感染予防の為、ネイルボランティア、訪問理美容、利用者外出を中止。

※ 実習生(福岡大学、久留米工業大学 介護等体験実習)受け入れ状況については、新型コロナウイルス感染予防の為、実習生の受け入れ中止。

別表(4)

日常生活動作の介護状況

生活動作	区分	男	女	計
食 事	自 立	2	3	5
	一部介助	9	10	19
	全介助	10	4	14
起 坐	自 立	7	8	15
	一部介助	1	0	1
	全介助	13	10	23
立ち上がり	自 立	3	4	7
	一部介助	4	3	7
	全介助	14	11	25
排 泄	自 立	1	3	4
	一部介助	6	3	9
	全介助	14	12	26
更 衣	自 立	3	4	7
	一部介助	5	2	7
	全介助	13	12	25
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	3	4	7
	全介助	18	14	32
歩 行	自 立	0	2	2
	一部介助	3	2	5
	全介助	18	14	32
寝返り	自 立	9	8	17
	一部介助	2	2	4
	全介助	10	8	18
車椅子使用	自 立	5	2	7
	一部介助	6	9	15
	全介助	9	4	13

生活動作	区分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	2	2	4
		2回	5	7	12
		3回	5	5	10
		4回	5	2	7
		計	17	16	33
	服 薬	1回	12	6	18
		2回	7	10	17
		3回	0	0	0
		計	19	16	35
	体位変換	1回	0	1	1
		2回	1	0	1
		3回	0	1	1
		6回	0	0	0
		計	1	2	3
おむつ使用	昼・夜	14	7	21	
	夜間のみ	0	3	3	

- ・食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部が出来る事。

令和3年度 出張報告

日付	出張用件	出張先	参加数
5/18,5/27	社会福祉施設役職員研修 新任職員研修	WEB 研修	1名
5/19,5/28	社会福祉施設役職員研修 新任職員研修	WEB 研修	1名
5/27	福障協 定例施設長会	WEB 会議	1名
6/22,6/29	社会福祉施設役職員研修 中堅職員研修	WEB 研修	1名
6/23,6/30	社会福祉施設役職員研修 中堅職員研修	WEB 研修	1名
6/28	福岡県身体障害者施設協議会 研修委員会	WEB 会議	1名
6/29	福岡県知的障がい者福祉協会 施設長研修会	WEB 研修	1名
7/2	ストレスマネジメント研修 中堅職員コース	WEB 研修	1名
7/1,7/8	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 チームリーダーコース	WEB 研修	2名
7/9	ストレスマネジメント研修 管理職員コース	WEB 研修	1名
7/15～7/31	九障協 施設長・リーダー職員研修会	録画配信	3名
7/16～7/30	感染症予防研修(前期)	WEB 研修	1名
8/2,8/3	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 管理職員コース	WEB 研修	1名
8/6～8/20	福岡県相談支援従事者初任者研修 前期 講義のみ	動画配信	1名
9/2	福岡県身体障害者施設協議会 施設長・職員研修会	WEB 研修	2名
9/22	労務管理研修(労務管理コース)	WEB 研修	2名
9/30	労務管理研修(リーダーシップ向上コース)	WEB 研修	2名
10/4	権利擁護・虐待防止セミナー	動画配信	1名
10/6,10/7	コーチング研修	WEB 研修	1名
10/7	会計担当者研修	WEB 研修	1名
10/21	リスクマネジメント研修 経営管理者コース	WEB 研修	1名
10/27	感染症予防研修(後期)	WEB 研修	1名
11/2	福障協 サービス向上委員会	WEB 会議	1名
11/9	アンガーマネジメント研修	WEB 研修	1名
11/12	広報力強化研修	WEB 研修	1名
11/12	九障協 サービス提供職員研修会	WEB 研修	1名
11/19	「報・連・相」強化研修	WEB 研修	1名
11/24	ふくおかライフレスキュー事業 フォローアップ研修	WEB 研修	1名
11/26	福障協 サービス向上委員会	WEB 会議	1名
11/25,11/30	福職員キャリアパス対応生涯研修 初任者コース	WEB 研修	1名
12/1～	頸椎損傷者に対するリハビリテーション研修会	動画配信	2名
12/7,12/8	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 中堅職員コース	WEB 研修	1名
12/9,12/10	リスクマネジメント研修 指導者・管理職員コース	WEB 研修	1名
12/10	福障協 定例施設長会	WEB 会議	1名

12/16,12/21	業務改善研修	WEB 研修	1名
-------------	--------	--------	----

久留米市東部障害者基幹相談支援センター

1. 委託相談概況

委託相談では、担当の東部地区である山川、山本、草野、善道寺、大橋、船越、水縄、田主丸、水分、竹野、川会、柴刈の各小学校区エリアに在住の本人・家族からの相談対応を行った。昨年度同様、新型コロナ対策のための、まん延防止等措置や緊急事態宣言の発令を受け、来所相談や訪問などの対応は減少傾向となった。緊急事態宣言が解除となった直後の7月や10月は月の相談対応が100件を大幅に上回り、相談内容は「不安の解消や情緒の安定」、「就労」といった内容が多かった。コロナ感染拡大によって、日中利用している事業所の利用や在宅サービスの利用が制限されたり、訓練や就労がリモートになったりといった生活様式の変化が、地域で生活している障害者にも大きく影響を与えた一年であったと感じている。

障害種別では精神に障害のある方からの相談が多く、知的や発達障害のある児童の相談が増加した。関係機関との連携では、行政各課や福祉サービス事業所、相談支援事業所、教育関係との連携が増えたことで、全体件数では200件ほど増加した。

生活困窮世帯や要保護児童のいる世帯、保護者の高齢化などで重層的に課題を抱えた世帯に対する支援には対応や関係者調整が長期化する傾向にある。

委託相談から福祉サービス利用へとつながった方については計画相談支援の利用にもつなげ、セルフプラン解消に注力したが、障害福祉サービスに関する対応以外での相談が継続することが多い。放課後等デイサービスや就労継続支援事業所、施設入所や入居に関する情報提供を求められることも多いため、圏域やそれ以外の社会資源の情報収集に努めている。

【1】総合的・専門的な相談支援

○相談支援実績

相談件数 合計：839件

相談方法	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	その他	合計
計	59	38	27	638	10	59	8	839

○相談内容別件数 合計：1028 件

相談内容	福祉サービスの利用等	障害や症状の理解	健康医療	不安の解消 情緒安定	保育教育	家族関係 人間関係	家計 経済
計	366	3	55	303	28	56	23

生活技術	就労	社会参加 余暇活動	権利擁護	その他	住宅	合計
43	88	9	36	12	6	1028

○障害種別相談人数

実相談人数：59 名(23 名) ()内は児童

	身体 障害	知的 障害	精神 障害	重症心 身障害	発達 障害	高次脳 機能障 害	難病	その 他	合計
計	10 (1)	7 (6)	33 (1)	0 (1)	4 (10)	3 (0)	2 (0)	4 (5)	63 (24)

※※重複障害の場合があるため、実人数≦合計

○エリア別相談件数：839 件

	東部	南部	北部	市外	県外	不明	合計
計	821	0	0	1	13	0	835

○関係機関との連絡・調整

合計件数：2113 件

	行政 機関	就労 機関	医療 機関	福祉サー ビス事業 所	居宅介護 事業所	地域包 括支援 センタ ー	相談支 援事業 所	教育機関
計	351	9	198	326	48	43	901	75

成年 後見 関係	住宅 関係	療育 機関	発達障害 者支援セ ンター	その他	合計
49	4	0	1	3	2008

2. 基幹相談概況

今年度も新型コロナの感染対策を行いながら、相談支援事業所に対してサービス

等利用計画作成についての指導、助言を行った。対応数は前年度、306 件に対して今年度は 736 件と対応件数が増加した。今年度も新型コロナの影響で事業所間の調整や困難ケースの対応の情報共有を相談支援専門員と行うケースが増加した要因だと思われる。

相談支援事業所に対する計画の繋ぎは昨年児・者合わせて 15 件、今年度は 19 件であった。今年度もセルフプランをできる限り利用することなく相談支援事業所へつなげる取り組みを行った。

基幹研修では「障害があるから学べたこと、子育ては親育ち ～つながりのおかげで、親も子も成長できた?～」をテーマにオンラインにて研修を行った。当事者家族、障害福祉関係者、保育、教育に携わる職員など約 80 名の参加であった。久留米市主催の八女筑後・久留米圏域相談従事者情報交換会、研修会もオンラインでの開催であった。

今年度も集合開催研修が減少した一方で、Zoom 会議や配信研修などオンラインでの対応が増加した。東部基幹センターでも主催研修や関係者会議の開催にあたり Zoom のアカウント取得が必要であることを感じている。。

久留米市障害者地域生活支援協議会は、各部会の事務局として運営を行った。当センターでは、施策推進部会の重心分科会、こども分科会、当事者分科会の事務局を担った。重心分科会は在宅の医療ケア者の災害時支援について取り組み、当事者家族と地域を繋げるための災害時マイプランの作成、避難を検討している家族に対して「災害チェックシート」を作成し、相談支援専門員と災害時に必要なことを検討してもらうことに取り組んだ。災害時チェックシートについては、くるめ相談ネット、介護事業者協議会重心連携会議にて情報提供した。こども分科会では久留米市内のこどもに関係している当事者団体に聞き取りを行い、その結果、家族と繋がってもらうことを目的に機関誌を発行し、より繋がりを深めるために基幹研修シンポジウムに繋げることができた。当事者分科会では昨年度実施できなかったバリアフリーカフェをオンラインにて開催することができた。

地域との連携では、地域包括センター主催の民生委員・児童員連絡会義や権利擁護地域ケア会議に出席し、民生委員、児童委員、関係機関と情報共有を行った。出席後、関係機関より情報提供のあった世帯に対して支援を行ったケースもあった。今年度もコロナ禍で会議を控える状況もあったが、関係機関と情報交換を行いながら支援を行った。

【1】 指定相談支援事業者等に対する指導、助言

○支援内容： 736 件

	基幹 から 計画相 談依頼	事業所 からの ケース 相談	会議等 の出席	同行	情報 共有	情報 提供 のみ	計画 作成に おける 助言	その他	合計
合計	16	13	55	32	607	5	7	1	736

【2】 サービス等利用計画作成の推進に伴う指定相談支援事業所への繋ぎ人数

	障害者	障害児
合計	10	9

【3】 久留米市障害者地域生活支援協議会について

分科会・部会名	開催回数
全体会	2回
計画推進部会	1回
権利擁護部会	開催なし
施策推進部会	1回
重心分科会	8回
こども分科会	5回
相談分科会	6回
当事者分科会	3回

【4】 出張及び研修 (9件)

相談支援従事者研現任者研修ファシリテーター (更新者コース)

(10月21日、11月1、2日、12月16日)

福岡県ひきこもり支援者等地域ネットワーク会議 (10月29日)

若者サポートステーション 連携会議 (10月29日)

令和3年度 久留米市重症心身障害児者地域生活支援事業 オンライン勉強会

(11月28日)

医療的ケアコーディネータースキルアップ研修 (場所：バンビーノ) (12月2日)

令和3年度九州地区障がい者相談支援従事者合同研修会

福岡大会 (Zoom研修) (12月9日)

令和3年度筑紫・筑後ブロック会 (福岡地域生活定着支援協議会)

(くるめりあ六ツ門) (12月17日)

重症心身障害児・者とともに生きる 2022

「重症心身障害児・者の日常生活支援～あそびとコミュニケーションについて」

(オンライン) (1月15日)

福岡県自殺未遂者支援研修(ZOOM開催)(1月17日)

八女筑後・久留米圏域相談支援従事者オンライン研修会(1月25日)

居住支援協議会準備委員会(2月25日)

医療を必要とする重い障がいを持つ子どもたちとともに生きる2022

(オンライン)(3月6日)

令和3年度 精神保健福祉関係機関連絡会議(3月23日)

【5】主催研修(1件)

基幹研修「障害があるから学べたこと、子育ては親育ち」オンライン会議

(2月26日)

【6】会議

基幹相談センター運営会議(第3木曜日)

基幹相談センター長会議(第1木曜日)

基幹研修ワーキング(不定期)

サポートブック作成ワーキング(不定期)

機関紙編集会議(9号・10号)

久留米市障害者地域生活支援協議会(全体会、施策推進部会、相談分科会、重心分科会、こども分科会、各部会・分科会事務局会)

重症心身障害児者地域生活支援事業連携会議(年2回)

H・K圏域権利擁護個別支援地域ケア会議

田主丸地域民児協包括連絡会議(竹野校区、水縄校区、船越校区、水分校区、川会校区、柴刈校区、田主丸校区を各月ごとに開催)

山本小学校生徒指導連絡会議

重層的支援体制整備事業会議

医療・教育・福祉施設等との関係者会議・個別支援会議

【7】連携した主な機関

医療機関(市内外)、小・中学校、保育所、久留米市特別支援学校、田主丸特別支援学校、福祉サービス事業所(市内・外)、民生委員、児童委員、訪問看護事業所、相談支援事業所(市内・外)、久留米市役所(田主丸総合支所)各課、久留米市保健所、他市役所各課、地域包括支援センター、発達障害者支援センター、障害者・就業生活支援センター、幼児教育研究所、久留米児童相談所、生活自立支援センター、市

社会福祉協議会、若者サポートセンター、ハローワーク、障害者生活就労支援センター、家庭裁判所、成年後見センター、成年後見人、警察、NPO 法人、ひきこもり支援センターなど

委員会報告

- 苦情解決委員会
- 虐待防止委員会
- 安全管理委員会
- 医療機器安全管理委員会
- 医療ガス安全管理委員会
- 防災対策委員会
- 院内感染対策委員会
- 衛生委員会
- 広報委員会
- 療育会議運営委員会
- 福祉 QC 委員会
- ゆうかり医療療育センター防犯対策委員会

苦情解決委員会

《概況》

令和3年度苦情解決委員会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面での報告が多かったが、各寮会議等で利用者様の思いや日頃の支援の在り方や考え方について確認し周知を図った。苦情・要望への対応・調整・解決に迅速に取り組むことで利用者様、ご家族との信頼関係構築に努めた。

昨年度に続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、12月の第三者委員への報告会は事前に苦情・要望記入票等を送付し書面での質問、意見を頂いた。3月職員報告会は書面での開催とした。特に第三者委員への報告会においては、苦情・要望記入票等を事前に第三者委員へ送付し、書面での質問、意見、ご指導の返送を頂いた。意見にはコロナ禍で日々利用者様へ支援を行う職員に対する暖かい労いの言葉、利用者様への理解と配慮についてのご意見を頂いた。

《苦情・要望件数》 令和3年4月1日～令和4年3月31日

	ゆうかり医療療育センター	コアラ園	耳納学園	千歳療護園 第二千歳療護園
1. 職員の言動・対応等に対する苦情	3	0	0	令和2年度 1
2. 施設への要望	0	0	0	0
3. 利用者様から要望	1	0	0	0
4. 保護者(後見人)よりの苦情	1	0	0	0
5. 利用者様同士の苦情	0	0	0	0

《基本的取り組み内容及び状況》

ゆうかり医療療育センターにおいては、職員の言動、対応等に対する苦情が4件、要望が1件あった。医療に対しての苦情では保護者様の思いに寄り添い、医師より説明対応して頂いたことで今後の治療方針に納得、同意された。

コロナ禍での生活が2年経過、感染収束が見通せない為、利用者様の精神的負担は日々増大している。今まで以上に利用者様とコミュニケーションを図ることで、思いを受け止め信頼関係を構築し、相談・苦情・要望に対して適切、迅速に対応していかなければならない。

コアラ園苦情解決マニュアルの内容確認を、会議等にて定期的に周知を図った。令和3年度は、特に苦情の届出等は無かった。年度内に1回、保護者様へのアンケート調査を行い、アンケート結果に基づく要望等の改善策を記入し、コアラ園自己評価表としてホームページにて公表した。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、5月12日～6月20日、8月20日～9月30日、令和4年1月20日～4月3日まで臨時休園をする事となり、その期間、在宅支援として各保護者様への電話での相談、療育動画を入れたDVDや療育教材等を各自宅へ郵送するなどのサポートを行う。

また、お盆期間等に、感染者が多い地域への里帰りをされる保護者様に対して、帰宅後に2週間(10日間)の登園を控えていただく事をお願いする。上記対応について、特に苦情等の申し出は無かった。

千歳療護園、第二千歳療護園では、今年度苦情に上がった事例はなかったが、千歳療護園において、利用者様同士の関係で「おやつを欲しがる利用者に対して断り

を言う事が出来ないので話をしてもらいたい」との要望が一件出ており、継続的な声掛けと双方に確認を取りながら見守っている所である。職員が早めに介入し、適切な対応を取ることで苦情にまでは至らなかったのではないかと考えている。

第二千歳療護園では、令和2年度事業報告に掲載できなかった事例として、令和3年3月末に職員の接遇に関する苦情が一件出ている。新たに導入した浴室リフト使用時の職員の対応について管轄の福祉課に直接苦情を申し立てており、福祉課の担当者より確認の連絡があり、利用者様と職員双方に聴き取りを行い、利用者様に確認を取りながら対応していくという事で納得していただき、管轄の福祉課に苦情内容の詳細と今後の対応について報告している。新たな福祉機器の導入や取組みを行う際には利用者様への十分な説明と理解を得ることを徹底しなければならない。

耳納学園は、福祉的就労の場として、まずは利用者様同士にて解決の努力、自治会活動にて対応の話し合いを行い、自立した生活を尊重し自己決定、自己責任、自己解決の努力をして頂いている。その上で職員は相談、助言を行い、利用者様に不満を抱かせない様、速やかな解決、対応が出来るように心がけ支援を行っている。

前年度より続いている新型コロナウイルス感染症対策として、法人行事、園内行事の中止や利用者様への外出、外泊の自粛をお願いしており、その期間が長期に渡っていることから今年度は、新型コロナウイルスに関連する要望、外出・外泊に関する要望が多くみられた。

自治会活動での解決が難しく苦情解決委員を交えての対応した事案や投書での申し出による利用者様同士の言動に関するものも2件あった。

長引くコロナ禍で様々な制限があり、利用者様の生活でも今までと違い不自由なこともあるが、今後も利用者様の自立した生活を尊重しながらも安心した生活を送って頂けるよう支援を行い、また職員は自身の言動に責任をもち、権利擁護の意識、福祉施設職員としての自覚や意識の向上に努めていく。

虐待防止委員会

《概況》

令和3年度、各施設で定期的な委員会を開催、利用者様の虐待防止を目的に、各課連携を図り権利擁護、身体拘束や不適切なケアが行われていないか等虐待の早期発見、防止に努め、周知徹底し、利用者様が安全に安心して生活できるように取り組んだ。

虐待防止の自己チェックのアンケートを実施し、アンケート内容を再チェック、評価し問題提起を行い虐待防止に取り組んでいる。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、虐待防止研修会は書面での報告会開催とし、虐待防止の自己チェックの集計結果の報告を行った。12月の第三者委員報告会は、書面報告とし虐待防止セルフチェックの結果を郵送した。

今後も虐待防止セルフチェックを定期的に行い、虐待防止に繋がっていくよう、継続していく。

《取り組み》

ゆうかり医療療育センターでは、各寮において、虐待防止委員会を1回/月開催

した。他施設で起きた事例等についても権利擁護、身体拘束の視点から、問題提起し、利用者様が安心して生活が送れるようカンファレンス等で情報を共有し、一人一人が人権意識を高めながら、支援の質の向上に繋げていった。また、虐待防止自己チェックリストの結果を踏まえ、虐待につながるようなアンケート内容を抽出し、周知を図った。

コアラ園は、毎月第3水曜日に開催するコアラ園会議内にて委員会を実施し、虐待に関する情報等を各委員より出してもらい記録を残した。

登園児保護者の子供への気になる接し方（身体を叩く行為）など虐待と思える状況や情報は無かった。

園児の身体の傷や、身体整容の気になる状況等の情報があった場合は、相談支援事業所「夢の紀」スタッフと連携し、各当該市町村へ情報を提供していくようにしている。

昨年に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染予防対策として、千歳療護園、第二千歳療護園合同で9月と3月に開催していた苦情解決委員会を千歳、第二千歳それぞれのカンファレンスの時間に開催し、現在身体拘束状態にある利用者様の現状報告、(第二千歳のみ)、及び身体拘束廃止に向けた検討、評価、各種研修会への参加状況を行っている。9月と3月のカンファレンス開催前に「施設・地域における障害者虐待防止チェックリスト」を実施し、具体的な内容を記入して頂き、問題点への対応等を検討し、全職員への周知を行い権利擁護と虐待防止の意識向上を図っている。

耳納学園虐待防止委員会は、常日頃から職員に対して利用者様への虐待防止（特に言葉による暴力等）、また、人権を尊重するように注意喚起を行った。9月には昨年と同様、虐待防止の自己チェックのアンケートを実施し虐待等に対し職員の再認識を図るとともに、職員間でチェック機能を高め虐待防止に努めた。

安全管理委員会

《概況》

当委員会は、利用者様と職員が安全、かつ安心な生活、又高度な医療を受けられるよう環境を整え、利用者様本位のサービスの質の向上を重点課題とし、医療・介護・療育場面における事故防止を図る事を目的とし、各施設においてそれぞれの活動を行った。職員より提出されたインシデント報告書、及びアクシデント報告書の評価を行い、事故防止対策の具体的内容について検討し、再発防止、未然防止につとめた。

《 具体的取り組みと事故発生状況 》

[ゆうかり]

*本年度の年間目標は、昨年同様に『医療安全対策分析用紙を活用し、事故防止対策に努める』を掲げ、継続的目標とした。医療安全対策分析用紙では、①利用者様 ②職員③環境など④管理などの4項目に対してそれぞれ要因、問題点に対して対策を講じ、改善を図ることにより再発防止に努めた。

更にもう一つの目標として『危険予知トレーニング (KYT) の取り組みを行い、再発防止につなげる』も年間目標とした。各寮、各部署、各事業所において、危険予知トレーニングを安全管理研修会として位置付け実施、報告書の提出も依頼し回収した。

毎月の委員会では、各寮、及び各部署からのアクシデントの発生状況についての分析と問題点を検討、又各寮、各部署での取り組み状況についての報告を行い、職員の安全に対する意識向上に努めていたが、年度後半よりコロナ感染症対応の為、委員会を開催できないこともあった。

アクシデント件数は、前年度227件より18件減少の209件となった。

(事故報告件数)

転倒、転落・・・9件	外傷・・・26件	与薬関係・・・44件
注入カテーテル関係・・・62件	その他・・・55件	寮外・・・13件
合計・・・209件		

[千歳]

*安全管理の取り組みとして、利用者様一人ひとりの生活・介護場面に於いて、アクシデントに繋がる可能性があるものを職員から挙げてもらい、事故防止に努めている。また、今まで提出が少なかったインシデントレポートを「お気付き報告書」と名称・書式等を変更し、職員の意識向上を図っている。今後も利用者様の状態変化を把握し、アクシデントに繋がらないように努力していきたい。尚、本年度のアクシデント件数は25件であった。

【事故報告件数】

○転倒・・・2件	○転落・・・6件	○外傷・・・8件	○脱臼・・・1件
○骨折・・・2件	○与薬・・・2件	○尿道カテーテルの抜去・・・1件	
○食事準備時の異物の混入・・・1件		○食事の出し間違い・・・1件	
○賞味期限切れ食品の提供・・・1件			
合計・・・25件			

[第二千歳]

委員会の取り組みとしては、令和3年度11月にインシデント用紙を廃止し、新たに「お気付き報告書」を作成している。用紙の大きさもA4用紙からA5用紙と小さくなっており、キャリアの浅い職員(新人)が見ても記入しやすいように作成し、些細な事でも良いので多くのお気付き報告書を書いてもらうことにより、本人はもちろん同僚にも利用者様の身体面や行動面でのリスク、施設内のリスクに対して注意喚起し、リスクマネジメントに役立て、利用者様に、より「安全」「安心」に生活して頂ける様、全職員が意識し事故を未然に防いでいかなければならない。その為にも数多くのお気付き報告書を書いて頂けるよう働きかけていきたい。

(事故報告件数)

誤薬・・・3件	外傷・・・2件	カテーテル抜去・・・1件	与薬・・・1件
誤嚥・・・1件	利用者同士トラブル・・・1件		合計・・・9件

(お気付き報告書)

R3年度11月より・・・13件報告あり

[耳納]

*本年度のアクシデント報告は3件で、そのすべては、転倒事故であった。その内1件は手指の骨折で保存的治療を行った。利用者様の高齢化に伴う体力の衰えを考慮しながら環境整備を行い、又、利用者様と共に事故防止の意識向上を目指した。

(事故報告件数)

転倒・・・3件

合計・・・3件

医療機器安全管理委員会

《概況》

医療機器安全管理委員会は、2ヶ月に一回その月の最後の月曜日に委員会を実施し、感染症が流行している時は、中止にしている。

構成メンバーは、臨床検査技師・診療放射線技師・薬剤師・歯科衛生士・各寮看護師の7名。

《開催日の状況》

R3年4月26日 6月28日 10月25日 12月20日
8月23日 2月21日 感染拡大防止の為中止

《内容》

1. 医療機器修理・点検・購入について

- ・修理については、機器を購入してから何年使用しているかや修理に何回出しているかを確認し、修理するか購入するのか判断する。修理・購入については、再度購入までの流れを確認したり、要求書の書き方の確認を行いました。

《内部研修会》

- ・人工呼吸器のトリロジー02からトリロジーEvoに機種が変更になるため、4回の研修会を実施した。

R3年12月14日 Dr 1名 看護師 4名 検査技師 1名

R3年12月20日 Dr 1名 看護師 2名

R4年1月7日 看護師 5名

R4年1月11日 Dr 1名 看護師 13名 検査技師 1名

1月11日から新しい人工呼吸器のレンタルが始まる。

- ・新型コロナウイルス検査を行うためIDNOWを導入して頂き、R4年2月14日に、業者の方に機器の取り扱い方の説明をしてもらう。

Dr 3名 看護部長 検査1名 計5名

《外部研修会》

- ・令和3年度医療機器基礎講習会10月コースに、eラーニングで参加させて
いただき、配信期間で受講出来た。

医療ガス安全管理委員会

《概況》

医療ガス安全管理委員会は、医療機器安全管理委員会と並行して行った。

《内容》

- ・医療ガス定期点検を4回行うようになっているが、4月(3ヵ月)、7月(6ヵ月)、10月(3ヵ月)は予定通り点検を行うことが出来たが新型コロナウイルスの影響で病棟閉鎖になった寮が多かったために1年点検を1月に行えず、機械室の点検を2月18日に行い、閉鎖解除になったために、2月22日各寮の点検を行った。
- ・R3年9月1日中央配管の酸素ボンベからガス漏れが発生したために、酸素が供給されず、人工呼吸器の酸素低限アラームが鳴るアクシデントが発生した。業者と話し合い点検表を作成し、看護師の方には、土日・祝日の点検をお願いするためにマニュアルの作成を行った。

防災対策委員会

《概況》

社会福祉施設においては、各種の災害時の際に特に配慮を要する利用者様が入所されており、その防災対策を確立することが強く要請されている中、当委員会ではより良い防災対策を確立することを目的に活動を行った。その中でも火災時の対策に重点をおき、今年度においても新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各施設（耳納・千歳・ゆうかり）での合同避難訓練は実施していない。千歳・第二千歳の独自による日勤想定火災避難訓練を行い、常日頃から職員及び利用者様の防災に対する意識向上を図った。又、地震災害・風水害等の自然災害にも対応できるようマニュアルに基づき、火災避難訓練場面のDVD視聴も含めて、防災教育を行った。夜間時に発生すると思われる風水害に対しては、事前に対応できる人員を確保した。発生した際には各施設で待機を行い、風水害の被害を最小限に留め、利用者様の安全確保が出来るようにした。12月監査指導があり、火災時の避難訓練だけでなく風水害についての避難訓練を行うように監査指導があった。久留米市消防計画に定められた避難確保計画の作成を行い、久留米市防災対策課へ提出している。又、災害時事業継続計画（BCP）についても見直しを行っている。

毎年開催されている浮羽消防署管内の屋内消火栓・消火器操法大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、出場を見合わせ参加していない。

《火災想定避難訓練実施状況》

(耳納学園)

2 回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園合同夜間想定総合訓練
(千歳療護園・第二千歳療護園)

1 回実施 日勤時想定避難訓練・千歳療護園・第二千歳療護園合同訓練
(ゆうかり学園)

2 回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園合同夜間想定総合訓練
毎月 1 回各寮別に実施

院内感染対策委員会

《概況》

令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の変異株の出現により、感染予防対策を強化した一年であった。社会では「with コロナ」の時代へ変わりゆく中、利用者様の健康を守るという基本的な観点から、「ゆうかり学園 新型コロナウイルス感染対策基本指針」を遵守していくことで、利用者様においては感染者ゼロという結果が得られている。また、コロナワクチン実施や検査キット（抗原、PCR）の導入により、対策効果が得られていると考える。

昨年末からのオミクロン株の感染力の強さにより、1 月から 3 月までの職員コロナ発生は 17 例となった。発生に伴い、施設、寮閉鎖、徹底した検査（連携医療機関へ依頼）等、その都度対策を講じてきた結果、利用者様への感染拡大は防ぐことができている。

取り組み活動としては、手洗い、アルコール手指消毒の徹底を強化した。とくにアルコール手指消毒については、各施設、各部署の使用料を数値化し、委員会にて報告、啓発に努めた。使用量は増えたものの、使用基準にはまだ達していないところも多く、今後も継続していかなければならない。

新型コロナ感染対策マニュアルも、感染状況により見直しを行い、日常生活場面での標準予防策は定着してきている。

<活動内容>

月	内 容
4月	令和2年度年間計画・委員会指針について 新型コロナウイルス感染症について
5月	*手洗いパトロール 環境整備
6月	食中毒について
7月	新型コロナワクチンの効果、接種後の生活について
8月	*針刺し・噛みつき事故による感染症について
9月	*なかよし寮におけるノロウイルス感染症拡大事例の検証
10月	インフルエンザ感染症対策・予防について
11月	手足口病について
12月	食中毒予防について
1月	新型コロナウイルス/オミクロン株について
2月	*家庭内感染対策について（新型コロナウイルス）
3月	*令和3年度感染症報告、手洗い・手指消毒について

開催日 毎月第2金曜日 9:30~10:00

委員 所長他 15名

*はコロナ関連で資料配布のみとなった

<感染症発生状況>

令和3年4月~令和4年3月

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ノロウイルス	利用者					6							
	職員						1			1	1	1	
下痢原性大腸菌	利用者					6						1	
	職員					1	1		2	2	3		
新型コロナウイルス	利用者												
	職員		1			1		1			4	8	5

*他の感染症の発生はなかった。

<新型コロナウイルスワクチン接種状況>

○初回接種（接種期間：R3年5月10日~9月21日）

利用者：221名（法人内91.3%）

職員：294名（法人内84%）

○追加接種（3回目、18歳以上）（接種期間：R4年2月3日～3月22日）

利用者：208名

職員：250名

*追加接種はモデルナワクチンだった為、ファイザー社ワクチンを地域で接種する職員がいた。

新型コロナウイルス感染症対策は、今後も継続していかなければならない。感染症対策の基本である「持ち込まない・持ち帰らない・ばらまかない」を基本に、利用者様が安心した生活ができるよう、取り組んでいかなければならない。

衛生委員会

《概況》

職場の衛生管理体制を整備確立するとともに、職員の健康保進を図り、明るく快適な職場環境を形成するために、月1回院内感染対策委員会と一緒に開催。年1回の全体研修会は新型コロナ感染対策により資料配布とした。

月	内 容
4月	令和3年度計画について
5月	メンタルヘルス①「ストレスとストレッサー」
6月	職場環境①「腰痛対策」
7月	熱中症について
8月	体の健康づくり①「睡眠について」 ◎ストレスチェック実施（23日～30日）
9月	メンタルヘルス②「ストレスケア」 *資料配布のみ
10月	体の健康づくり②「生活習慣病」
11月	メンタルヘルス③「ワークライフバランス」
12月	職場環境②「5S活動」
1月	体の健康づくり③「冷え性について」
2月	メンタルヘルス研修「コミュカを上げる、鍛える方法」 *集合研修ができない為資料配布とする
3月	年度活動報告 *資料配布のみ

年間を通して、心と体の健康づくりを主体に資料を提供し、法人内LANの掲示板にて、全職員に提供できるようにした。

8月に全職員対象のストレスチェック実施する。317名中316名が受診できた。（1名は長期療養者にて未実施）分析結果は管理会議において報告書を配布し説明

を行う。総合健康リスクが高い部署には業務改善等の取り組みを推奨する。面談希望者には産業医の面談を行った。

新型コロナウイルス感染対策や職員のコロナ発生、検査などによる職員のストレスは計り知れないものがある。「with コロナ」の考え方に変換させていかなければならない状況の中で、働きやすい職場となるように、次年度もメンタルヘルスを中心に活動していきたい。

広報委員会

《概況》

広報委員会は、広報紙の発行とホームページの管理を担っている。

広報紙は6月1日（65号）、10月1日（66号）、2月1日（67号）の年間3回発行し、委員8名で構成した編集会議は、施設内LANを活用して年間3～4回にとどめ、締め切り内に発行できるように、努力している。

ホームページに関しては、インフォメーションなど手軽に更新できるようにリニューアルしているが、更新数は多くない。

広報紙各号の内容および配布先や発行部数は、以下の通りである。

[発行内容]

- 第65号（令和3年6月1日発行） 表紙…なかよし寮
 - ・ 「あそびを通して子ども達の成長と発達をサポート」…児童発達支援センターコアラ園 所長 久恒 章
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ 今日の仲間48（中学部1名の入学者紹介）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人紹介他
 - ・ 令和2年度事業報告、決算状況報告および令和3年度事業計画の報告記事
- 第66号（令和3年10月1日発行） 表紙…千歳療護園
 - ・ 開設七年「コロナ禍の対応、利用者様と共に」…第二千歳療護園 園長 谷 博文
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ 今日の仲間49（なかよし寮、耳納学園、千歳療護園、障害者支援センターちとせの仲間）

- ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他
- 第 67 号（令和 4 年 2 月 1 日発行） 表紙…コアラ園
- ・ 新年のご挨拶…日野理事長
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ 今日の仲間 50（ともだち寮、おひさま寮、第二千歳療護園、コアラ園の仲間）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他

〔配布先および発行部数〕

- ◎学園関係（利用者様及び園内各部署、全職員、賛助会員様等に配布…850 部。）
- ◎行政や地域、関連諸施設、学校などに配布（500 部）
- ◎1 回の発行部数は 1,450 部。年間発行部数は 4,350 部であった。

療育会議運営委員会

令和 3 年度は表の通り計画しましたが、新型コロナウイルスの影響により、計画通り研修室で実施することができませんでした。

そのため、各研修会をビデオによる研修会および書面による報告に変更し実施しました。

令和 3 年度 療育会議実施表									
日付	会議名	司会	記録	準備・片付け	日付	会議名	司会	記録	準備・片付け
4/21	講義(理事長) 《ビデオ》	樋口美智子	桑原景子	なかよし看護	10/13・ 20	医療安全・感染症研 修会 《書面》	福田健太郎 廣瀬晴菜	廣瀬晴菜 武藤美智恵	千歳
4/28	各施設・寮				10/27	各施設・寮			
5/12	薬局研修会 《ビデオ》	桑原景子	石井二貴子	おひさま育成	11/10	衛生管理・メンタル ヘルス研修会 《書面》	武藤美智恵	相良招宏	第二千歳
5/26	各施設・寮				11/24	各施設・寮			
6/9・16	QC 発表会 《中止》	石井二貴子 水姫秀憲	水姫秀憲 浦塚多恵	耳納・給食・ 心理	12/8	虐待防止研修会 《書面》	相良招宏	大山美佐	訓練
6/26	各施設・寮				12/22	各施設・寮			
7/14	盆踊り最終打ち合わせ			ともだち育成	1/12	予備日			ともだち看護
7/28	各施設・寮				1/26	各施設・寮			
8/11	予備日			おひさま看護	2/9	報告会 (苦情解決・安全管 理・ 感染症委員会) 《書面》	大山美佐	福山和也	なかよし看護
8/25	各施設・寮				2/16	各施設・寮			
9/8	外部講師(人権研修) 《中止》	浦塚多恵	福田健太郎	なかよし育成	3/9	予備日			おひさま育成
9/22	各施設・寮				3/23	各施設・寮			
<small>※第 2 週目にできなかった場合は、変更することがある。 ※新型コロナウイルスの影響により、ビデオ研修になる場合もある。</small>									

福祉QC委員会

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、活動を中止した。

ゆうかり医療療育センター防犯対策委員会

《概況》

当施設においては、身体的、精神的にも配慮を要する利用者様が多く入所されており、その防犯対策の確立が強く要請されている。当委員会ではより良い防犯対策を確立することを目的に活動を行った。

《具体的取り組み状況、及び内容》

新型コロナウイルス感染症対策の為、毎月の防犯対策委員会は中止した。各寮の設備面（自動ドア、窓周辺、インターホン、さすまたなど）のチェック報告、ゆうかり敷地内の確認、門扉、全周囲フェンスの確認、又は、防犯監視システム、防犯カメラ、センサーライト、外灯等の外部設備等の動作確認を行い『防犯設備チェックリスト』への入力により、日常的に防犯に対する意識向上を図り、書面での報告とした。

緊急時の連絡方法を見直し、職員（警備員）又は夜勤者より連絡を受けた事務長、及び防犯対策責任者は、13名の各施設、事業所責任者へ一斉送信にて第一報の報告連絡ができるように変更した。

新型コロナウイルス感染症対策の為、ゆうかり医療療育センター全体での防犯訓練は実施できなかったが、それぞれの寮などで訓練、又は防犯設備の確認を実施した。感染症収束後、全体訓練、又夜間帯を想定した訓練などの実施を課題とした。

新任職員研修の中では、防犯対策委員会設立の経緯、防犯ビデオ研修、防犯対策委員会の活動状況の報告をした。

5月…なかよし寮

6月…総務・外来

7月…おひさま寮

8月…ともだち寮

9月…なかよし寮

11月…新任職員研修会

12月…ともだち寮

2月…おひさま寮